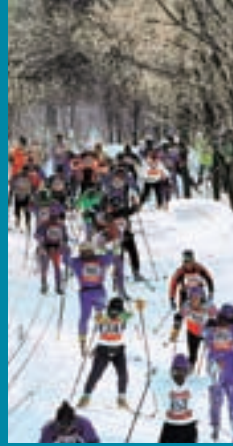


# 北方圏センター 記録集

## 設立30周年記念

季刊|北方圏 2008.Vol.145



〈国際交流・協力の拠点〉

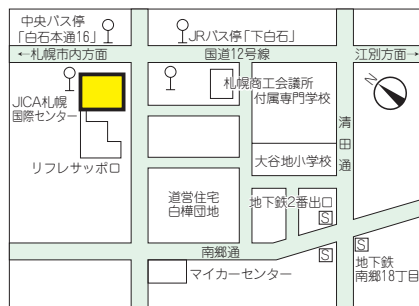
# JICA国際センター

JICA（独立行政法人国際協力機構）国際センターは、開発途上国からの技術研修員を受け入れるとともに、地域における国際交流・国際協力活動の拠点とするため、平成8年4月にオープンしました。

会議室やセミナールームなどは、国際理解を深めるために、国際交流・協力団体の皆さんや、地域の皆さんにご利用いただいております。（ご利用料金などの問い合わせは各国際センターへ）

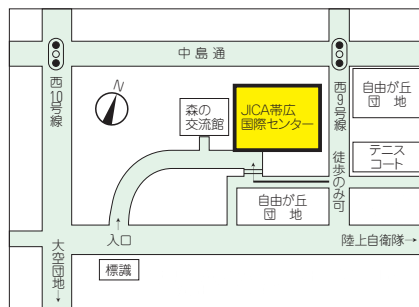
また、食堂や図書室は、どなたでも自由に利用できますので、気軽においでください。お待ちしております。

## JICA札幌国際センター



札幌市白石区本通16丁目南4番25号  
TEL 011(866)8680 FAX 011(866)8425

## JICA帯広国際センター



帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL 0155(35)2161 FAX 0155(35)2213

（北方圏センターは、JICA国際センターの管理運営をJICAから委託されています）

北方圏センターの「交流」の日々



北方圏センター新施設オープン記念式典【昭和54(1979)年】



ワールド・ジャンクション(札幌国際センター)【平成19(2007)年】



# — 北方圏交流の推進の役割を担って —



北方圏海難防止会議  
【昭和56(1981)年】



湧別原野オホーツク100kmクロスカントリースキー大会  
【平成7(1995)年】



北海道ーアラスカ少年交流キャンプ  
【昭和57(1982)年】



北欧インテリア展(北方圏センター展示室)  
【昭和57(1982)年】



北海道青年婦人海外派遣事業(北欧班)  
【平成11(1999)年】

◀HOKKAIDO STYLE 2006(スウェーデン・リンヨーピン市)  
【平成18(2006)年】

# 国際理解・国際協力を進めて



北方四島交流日本語習得研修(日本文化体験)  
【平成20(2008)年】



地域の国際理解推進事業「国際交流会in積丹」(美国小学校訪問)  
【平成17(2005)年】



北方圏センターカルチャーナイト(世界の遊び)  
【平成17(2005)年】



ロシア極東企業経営指導者育成支援事業(縫製業)  
【平成10(1998)年】



国際協カフェスタ・チャリティー世界ふれあい祭り【平成11(1999)年】



# — 北海道の一層の国際化に向けて —



北方圏センター開発教育ファシリテーター養成事業  
【平成20(2008)年】



JICA札幌「世界見聞広場」(札幌国際センター)  
【平成20(2008)年】



青年研修フィリピン地方行政官受入事業  
【平成20(2008)年】



留学生地方交流事業「ECO体験を通して環境を考えるin道民の森」  
【平成20(2008)年】



留学生セミナー「災害復興地における観光振興戦略」  
【平成20(2008)年】

# 本誌をまとめるにあたって

北方圏センターが設立30周年を迎えるに当たり、その記念行事の一環として、北方圏地域との交流や北海道の国際化に向けて果たしてきたこれまでの活動を記録にまとめ北方圏センター30年の歩みとして「記録集」を発行することとした。

## 《掲載について》

これまでの軌跡を次の5章にまとめ、各章の初めにはその概略を掲載した。

- 第I章 北方圏構想の始動とセンターの設立  
〔昭46（1971）年～同53（1978）年〕
- 第II章 北方圏構想の普及と推進  
〔昭53（1978）年～同63（1988）年〕
- 第III章 北方圏交流と国際理解の促進  
〔平元（1989）年～同7（1994）年〕
- 第IV章 国際協力への拡大  
〔平8（1995）年～同14（2002）年〕
- 第V章 交流の拡大と地域国際化の推進  
〔平15（2003）年～同20（2008）年〕

30年間の活動を時系列的に紹介するため、先ず「年表」を作成した。年表は昭和47（1972）年11月から発行の季刊誌『北方圏』（現『Hoppoken』）、及び、同56（1981）年から発行の『北方圏センター年報』に基づいて作成したが、本誌の頁数の制約もあり、毎年定期的に実施している催事関係事業や出版事業、調査研究事業等は割愛した（出版物や調査研究報告書は「資料編」一括掲載とした）。そして、その年表に基づいて折々に特色ある事業等を選び、内容やエピソードなどを盛り込むことに努め、『北方圏』誌、あるいは該当の事業報告

書など、刊行物や資料を最大限に活用して記述した。

## 《記述について》

1 各章の概略ページを除いては、ページを3段に分け、上部2段に事業や活動の紹介を記述し、下段に「年表」を配した。

2 ◆印で紹介している事業や活動の記述内容は、文末に□で記した資料から転載、もしくは要約した。地名や住所、会社名や団体名、また、個人の方々のお名前・ご所属・肩書きなどは、資料の記載された当時のものである。

3 ◇印の付いた表題の事業や活動は、年表に表記のないもの、もしくは、資料が複数であることなどから新たに本稿のために記述したものである。

4 「年表」の記述は次のとおりとした。

### 【例】

56	10
-----	-----
会	氏
氏	氏
氏	氏
氏	氏

① □は、表題（事業名）

② □は、内容・講師名等を記載。シンポジウムなど講師が複数の場合は代表して1名を記載

③ □内の○は、開催地・開催場所

④ □の後の○は、共催者を記載

⑤ 共催者が複数の場合「他」として記載

⑥ 展示会等の場合には「表題・事業名」の後に（開催場所）を記載

⑦ □は、北方圏センターに関連する事項を記載

# 北方圏センター設立30周年記念「記録集」

## 目 次

カラー・グラビア●北方圏センターの「交流」の日々	3
本誌をまとめるにあたって	8
巻頭辞●社団法人北方圏センター 会長 南山 英雄	9
第Ⅰ章	10
北方圏構想の始動とセンターの設立《昭和46(1971)年～同53(1978)年》 ～北方圏構想の始動と北方圏調査会、北方圏センターの設立へ～	
第Ⅱ章	16
北方圏構想の普及と推進《昭和53(1978)年～同63(1988)年》 ～北方圏構想の啓蒙と普及に努めた北方圏センターの活動10年～	
第Ⅲ章	34
北方圏交流と国際理解の促進《平成元(1989)年～同7(1995)年》 ～道民生活に定着した北方圏意識、道民の国際理解を促進した北方圏交流～	
北方圏センター語学講座	47
第Ⅳ章	48
国際協力への拡大《平成8(1996)年～同14(2002)年》 ～北方圏交流に加えて、国際理解・国際協力も積極的に推進～	
第Ⅴ章	62
交流の拡大と地域国際化の推進《平成15(2003)年～同20(2008)年》 ～市民生活に溶け込んだ国際交流と地域との連携の中で～	
北方圏センターの組織・活動の推移	74
ご協賛の企業・団体一覧	76
協賛広告	78
資料編	
美術品収蔵状況	91
出版目録	92
北方圏交流基金	101
北方圏交流基金寄付者芳名録	102
姉妹都市(等)提携・外国公館等設立状況	104
あとがき	106





社団法人北方圏センター 会長

## 南山 英雄

北方圏センターは、その前身である北方圏調査会の7年間の交流の実績を引き継いで、昭和53（1978）年に新発足しましたが、そのときから数えて満30年になります。この30年間、民間における北方圏構想の担い手として、道内各界各層のご理解とご支援をいただきながら北国にふさわしい生活・文化の創造、冬を楽しみ利用する方向への意識変革、また、学術や寒地技術の向上、経済・産業の活発化など、豊かな北海道の創造を旗印に活動を続けてきました。

また、平成8（1996）年からは、国際協力機構（JICA）が設置した「北海道国際センター」の管理運営を受託することになりました。平成10（1998）年には、北海道の中核的国際交流団体として「地域国際化協会」の認定を受け、併せて同年には「北海道青年婦人国際交流センター」の統合、同16年（2004）には「財団法人北方圏交流基金」、同18（2006）年には「北海道海外協会」をそれぞれ統合して、その事業を引き継ぎ、北方圏のみならず世界各国との交流や開発途上国からの研修生の受け入れなどにも取り組み、北の大地ならではの成果を上げています。

北方圏構想や北方圏交流の推進を通して本道に芽生えた変化、また、世界各国との交流から生まれた新しい道民の意識は、これからの北海道の独自の文化を創造する基盤となり、国際交流、国際貢献への大きな礎になっていくものと思います。

そこで、このたびの30周年に当たり、この30年間の北方圏センターの事業活動を中心に、北海道で芽生えた変化や新しい意識についてスポットを当てていくことは、今後の北海道の発展方向を探るためにも重要なことと考え、本『記録集』の刊行を企画しました。

内容的には、発足時から今日までを時系列的に振り返り、季刊誌「北方圏」や各報告書等を利用して、北方圏構想の推進をはじめ国際協力・国際貢献など、北海道の国際化に先駆的役割を担った事業を中心に記述、掲載することとしました。

誌面の関係ですべてを網羅することはできませんでしたが、地域の国際化に努力を重ねておられる関係の皆様のお役に立つことを願っております。

# 第 I 章

## 北方圏構想の始動とセンターの設立

第一回北方圏環境会議の成功により、北方圏調査会は北方圏構想が国際的になったことから、今後のよりいっそうの推進のため、その基幹となる「北方圏リサーチセンター」の設置を提案する。また、北海道においては構想推進に関する知事の諮問機関として、学者、民間学識経験者など25人になる北方圏交流推進委員会が発足する。同委員会は会長に辻井達一氏を互選、企画小委員会と冬季対策小委員会を設け、テーマごとに意見を出すこととなった。北方圏調査会から提言された北方圏リサーチ

### 北方圏交流推進委員会の発足と提言

「共通類似点の多い北の対比、北の結び付きについての考え方は非常にユニーク」と高い評価を受けた。この視察団の成果はその後の道政の北方圏交流に大きく生かされていくこととなる。そしてその最大の成果が『第一回北方圏環境会議』の開催であった。会議の参加者は北方圏諸地域が人類の発達にとって重要な役割を果たすことを深く認識するとともに相互に協力して豊かな北方圏諸地域を建設することを決意した。

これまで北方圏構想の民間の推進機関としての北方圏調査会は、毎日新聞社によって作られ、運営されてきたもので、すでに先駆的な役割を十分果たしてきていた。しかし「北方圏構想は北海道民の全体の壮大なビジョンであり、構想の推進こそが大切」と同社の英断により、「北方圏センター」は、北方圏調査会の会員組織を継承して、同じ社団法人として、発展的改組し名称の変更という形で、設立されたのである。

### 北方圏情報センターの設置と北方圏センターの誕生

センターの設立についても検討が続けられ「北方圏総合調査交流機関(仮称、北方圏センター)の設立に関する意見書」として、51年8月知事に答申された。この意見書の具体化が「北方圏センター」となったのである。

北方圏センター誕生への足がかりは、北方圏諸国に関する情報収集部門を担う「北方圏情報センター」の設立で、北方圏調査会に付置された。北方圏センター誕生への第一歩が踏み出されたことになるが、組織、運営方法などについては根本から考えなければならなかった。

# 《昭和46(1971)年～同53(1978)年》

～北方圏構想の始動と北方圏調査会、北方圏センターの設立へ～

### 北方圏構想の始動と北方圏調査会

『北海道は、地理的にも北方圏の要衝にあり、今後いっそうの進展が予想される。北方圏諸国との交流拠点として、わが国における重要な役割を担うことが期待される』

昭和46年4月、北方圏構想が初めて公式の長期計画「第三期北海道総合開発計画(三期計画)」に登場したときの全文である。北からの発想は、北海道を世界の北海道としてとらえ、既存の価値観、枠組にとらわれずに斬新な展開を示し、グローバルな国際化へと発展が期待された。

この『北方圏構想』が登場した当時は、その言葉自体が耳新しいものであるうえ、「北方圏」が何を意味するのか、北方圏の国々とはどの国を指すのか、一般的に馴染みがないものであったことから、北方圏構想の第一歩はその説明から始まった。

明治初年に北海道開拓史が置かれて以来本道開拓の歩みは、北の風土に適した独自の生活様式や文化を育ててきたのみならず、本州化、全国画一化に終わり、独自の産業、製品開発がないために本州資本の市場と化した感があり、経済は官依存、

中央依存となり「独自」にはほど遠い現状だった。しかし、このような北海道が次の時代に向けて飛躍的に発展、充実していくには、意識と発想の抜本的な転換が必要であった。その推進母体となったのが、北方圏センターの前身である「北方圏調査会」で、任意の団体として昭和46年4月に毎日新聞社により設立され、翌47年内閣総理大臣許可の社団法人となった。

### 北方圏調査会の活動

三期計画による北方圏構想の位置づけは、豊かな北海道作りのために、海を隔ててすぐ近くのソ連シベリア・極東、アラスカ、カナダとの経済交流を推進・活発化し、豊富で良質な資源を迎え入れると同時に、日本側の開発技術、さらには消費財を送り込むというものであったが、それらの地域の情報は決して多量のものではなかった。

このため北方圏調査会の初仕事は、北方圏構想のPRとともに北方圏諸国の情報を集めた月刊のタブロイド4ページの機関紙「北方圏」の発行だった。15号まで数えたが47年11月、広報体制の充実に向けて今日

の季刊誌「北方圏(現Hopoken)」に生まれ変わった。また、毎日新聞と共催して外務省幹部や評論家など多彩な講師を招きその時々の国際情勢についての時局講演会などを開催、好評を得た。

調査会としてもう一つの大きな事業は調査活動。北方圏諸国の経済、文化、科学技術の各分野にわたって、専門家による正しい現状把握、詳細なデータ収集、これをもとに的確な分析を行い、これを北海道発展の諸計画に生かそうというのがネライだった。そして、これらの調査報告書をもとにいくつかの提言もなされ、北海道の行政にも反映されている。

### 北海道庁に北方圏調査室

北方圏調査会の動きに呼応して道庁内に北方圏調査室が誕生した。調査室の最初の大きな仕事は、堂垣内尚弘知事を団長とする大型の経済・文化視察団をカナダ、アラスカへ派遣することだった。北方圏構想はもとも北海道の発想で、その知事が関係諸国へ行って、これからの交流を語り合うことは、極めて意義深いことであり、カナダ、アラスカで訪問したどの都市でも歓迎を受け、

道銀取引優遇サービス[ステップドゥ]

お取引に応じて  
サービスが  
ステップアップ!

ステップ  
Do

道銀ATMはもちろんコンビニATMでも時間外手数料0円(引出)  
※別途コンビニ利用手数料105円がかかります。

うれしいサービス

提携先のマイルやポイントに交換できる  
Doポイントが毎月自動で貯まる

Doポイントクラブ

ステップドゥは  
お申し込みが必要です。  
※年会費・手数料はかかりません。

お申し込みはカンタン!  
詳しくは窓口または当行ホームページにてご確認ください。  
<http://www.hokkaidobank.co.jp>

どさんこバンク  
北海道銀行



### ◇「北方圏調査会」の設立に向けて

北方圏調査会の設立発起人会は昭和45年12月7日、毎日札幌会館で開かれた。発起人の顔ぶれは、町村金五北海道知事はじめ、佐々木利雄北海道議会議長、原田与作北海道市長会長、広瀬経一北海道商工会議所連台会長、佐藤貞北海道貿易物産振興会会長、阿部謙夫北海道産業開発協議長、田中香苗毎日新聞社長、渡辺善一郎毎日新聞北海道発行所代表取締役の8人。当時の北海道の政治・経済界の代表を網羅した豪華な顔ぶれだった。発起人を代表して町村知事は「北海道も第二期計画を通じて、北方圏問題と積極的に取り組もうとしており、時宜に適したものである。これからの日本全体の発展、さらに、北海道の地理的条件を考えると、この種の機関をつくっていくことが必要である」と述べ、発起人一同も全員一致で賛成、翌年4月1日のスタートをメドに万全の準備を進めることを決めた。

事務局を預かることになった毎日新聞北海道発行所では、渡辺代表以下主要幹部全員が事業の拡充と会員募集に奔走しなくてはならなかった。もう一つの難問は、会長選びだった。毎日新聞が提唱した調査会とはいえ一新聞社の事業では、その発展にも限度があり、公益法人を目指す組織作りから考えても、会長はやはり、北海道を代表する人でなければならなかった。事務局側では経済人をあきらめ、将来、北海道を左右する大構想を推進する団体だから思い切った、知事でいいこうとしたわけである。

これが、結果的には46年4月11日の統一地方選で知事になった堂垣内尚弘氏の会長就任につながった。幸いに、堂垣内氏は開発庁事務次官時代から北方圏構想をブチ上げていた元祖的存在だったから、設立総会後、5月18日に開かれた第1回理事会で、晴れて就任した。

【「北方圏時代」(第二部第二章)企画・北方圏センター、編集発行・同書刊行  
会、昭和55年11月刊・全390頁】

### ◆「北方圏調査会」設立総会開催

北方圏調査会の設立総会は、昭和46年4月1日午後1時から札幌グランドホテルで開かれた。会場には、北方圏へのかけ橋、豊かな自然・あふれる資源」というこの調査会の輝かしい前途を象徴するキャッチフレーズが掲げられ、これからスタートする大事業への期待感をいっばいに表していた。事務局が苦労して集めた会員は北海道の企業を中心に87社(団体も含む)。いずれも北方圏構想を理解し、その将来に大きな期待を寄せる精鋭揃いだった。

ニコライ・I・パンドウラ・ソ連札幌総領事、マーチン・G・ヘフリン・アメリカ札幌領事、山義雄アラスカ州政府東京事務所長、そして外務省からも欧亚局東欧第一課長の宮沢泰氏ら国際事業にふさわしい人が来賓として出席した。

また、そのスタートを祝うメッセージ、祝辞もたくさん寄せられ、佐藤首相からは「北方圏調査会は北の地域の開発のバイオニアになってほしい」というメッセージが寄せられた。

### 【「北方圏時代」(第二部第二章)】

### ◆内閣総理大臣あて社団法人の申請

北方圏調査会は、会報発行、講演会、セミナー開催と積極的なPR活動に乗り出す。北方圏調査会の組織はまだ任意団体だったが、当初から公益法人の社団法人組織を考えていたが、設立総会までに準備が整わず、発足後早急に、申請への手続きを進めることになっていた。46年12月、内閣総理大臣あて社団法人の申請をした。北海道知事を経由しての申請で、翌47年1月28日付で、正式に許

月	46	47
事業等開催状況	「北方圏調査会」設立総会(札幌グランドホテル)開催	「北方圏調査会・時局セミナー」(札幌、他、年度内15カ所)開催
4	「サタデーカレッジ」(札幌)、大学教授等を講師にロシア語講習会、北方圏事情の講座を開催	「カナダ・アラスカ経済文化視察団」(ア
7	「シベリア極東地方経済文化視察団」(ナホトカ、ハバロフスク、他)派遣	機関誌「北方圏」創刊【現在継続
9	機関紙「北方圏ニュース」発刊	「北歐文化視察団」(ストックホルム、他)派遣
9	「北方圏調査会・時局セミナー」(札幌、他、年度内12カ所)開催	
11	北方圏調査会「社団法人」の申請を内閣総理大臣に提出	
12	「社団法人」許可(監督官庁:北海道開発庁)	
1		

可された。

申請からわずか1カ月余のスピードで、この調査会の目指すビジョンが、まさに公益法人の事業にふさわしい内容だったからにはほかならない。

【『北方圏時代』(第二部第三章)】

◆機関誌『北方圏』(季刊) 創刊

「われわれは今まで狭い地域のなかで物事を考えずぎてはいなかったらうか。北海道を北海道のなかだけでのみ捉え、いろんな議論をしていなかったらうか。北海道を日本のなかの北海道として、さらに世界のなかの北海道として捉えれば、その指向も自ずから異なったものがある。グローバルに眺めれば、そこには国境も政治社会体制の相違もなく、ただ太陽系の惑星としてのみ存在するのである。そうした発想の転換こそが私が主張してきた『北方圏構想』であり、『北方圏へのグロバリゼーション』という志向に、その基調がある」(巻頭言・北方圏調査会会長・堂垣内尚弘)



タブロイドの『北方圏』(ニューズ)ではとうてい収容しきれないほど北方圏

とのかかわりあいのあることがらがふえてきた。それと会員はもちろん、広く道民の方々にも読んでいただき、北方圏諸地域の事情を認識し、国際化時代に対処する知識と心がまえをつくることに、いささかでもご協力できたらという気持で季刊誌『北方圏』を発行することに踏み切りました。

【『北方圏』創刊号(編集後記)「全108頁」】

◆『北海道とシベリア・極東地域との経済交流に関する調査報告書』刊行

《和やかに出版記念会》北海道開発庁、北海道の委託を受け、札幌市はじめ道内主要都市10市の協力で作成した『北海道とシベリア・極東地域との経済交流に関する調査報告書』の出版記念会が5月14日東京の帝国ホテルで開かれた。来賓として新保実生(北海道開発庁事務次官、浅間隆(同企画室長、城戸崎彰(北海道開発調整部長、成田精雄・ソ連東欧貿易会常務、小川和男(同主任調査員、古池一郎(ジャパンナホトカライン共同事務所)長ら多数が出席した。調査委員を代表して成田精雄氏が「今の日本で望み得る最高のデータを盛ったユニークな報告書である」と専門家から見たあ

◆『北方圏環境会議推進本部』設置に協力

《150人の円卓会議》「くらしに活かす北国の風土」北海道の呼びかけで、9月17日から3日間、札幌で開催される国際会議、北方圏環境会議のサブタイトルだ。寒冷地の国々がかかえる共通のテーマへの関心は日増しに高まり、道が招請状を送った、北米各州、カナダ7州、北欧3国の首都など合計19地域からは相次ぎ「参加OK」の返答が寄せられている。

参加者は、これら招請自治体の首長と夫人、随員各1人など。また、参加国の駐日大使、総領事、領事、名誉領事および国内関係者で合計56人。このほか日本側はオブザーバーの東北、北陸各県知事、北方圏環境会議推進会議のメンバー、道内市町村長など150人にのぼる予定だ。

環境会議のテーマとして、道は①人間居住の環境問題、②自然の保護・保全問題、③環境と開発の調和問題、④環境問題に対する諸活動、の四つを掲げている。しかし、公害などの狭い意味での

49	48
7	3
7	「北海道とシベリア・極東地域との経済交流に関する報告書」(調査会初の調査報告書)刊行
4	「北方圏調査会・時局セミナー」(札幌、他、年度内15カ所)開催
2	「北海道北方圏文化使節団」(北欧4カ国)派遣
10	調査会「パイプラインによるサハリン天然ガスの北海道導入」を提言
5	調査会「北海道貿易公社設立」を提言
5	「北海道とシベリア・極東地域との科学技術交流シンポジウム」(札幌)開催
2	「北方圏環境会議推進本部」設置に協力(主催・北海道)
4	「北方圏生活環境展実行委員会」設立に参画(主催・北海道)
7	「北海道・シベリア博覧会(道立産業共進会場)開催に協力(主催・北海道、北海道新聞社、他)
7	「北方圏を考えるシンポジウム」(I)私たちの北方圏」(札幌)開催(共催・北海道、北方圏生活環境展実行委員会、他)



環境問題ばかりでなく、美しい自然と豊かな生活を築き上げるための幅広い問題を取り上げることになっている。【『北方圏』環境会議特集(9)号】

◆「第1回北方圏環境会議」開催に協力

《仲間の国々の貴重な体験、新しい道政に活かそう》道が主催し、北海道で初めて開かれた国際会議。北方圏環境会議は大成功のうちに終わつた。「すばらしかった」と、お別れパーティーでは各州代表が口をそろえてそういった。「私は日米市長、商工会議所会頭会議に何度か出席しましたが、それに比較すると大成功でした。こんなに活発な意見が交わされることなんて、国際会議では異例のことですよ」と広瀬経一、道商連名誉会長もベタほめ。

事実、質問の時間が足りなくて、時間や質問を制限しなければならなかったほどである。18地域（北海道を除く）から集まった代表は、それぞれ貴重な報告を発表し、ディスカッションを行った。それは北海道にも参考になるたくさんのもをもつていた。それだけに新しい発想、貴重な経験を道政のうえに、どう反映していくかが今後の課題になる。

道は北方圏調査室長をキャップに庁内にプロジェクト・チームを作り「会議の成果を道政にどう落としていくか」について、多角的な検討を始めた。―この会議を、ただそれだけに終わらせないために……。【『北方圏』第10号】

◆「北方圏リサーチセンター」の設置を提言

《北方圏総合調査研究機関設置に関する意見》北方圏との各種交流促進は、去る9月の北方圏環境会議の成功により、いよいよ国際的となり今後の北海道にいつそう大きな使命を負わせたものといえる。社団法人北方圏調査会はこの観点から

種々検討の結果、北方圏構想推進のため、その基幹となる北方圏総合調査研究機関(略称「北方圏リサーチセンター」)の必要性を痛感し、その設置を提案する。

一、北方圏総合調査研究機関(略称「北方圏リサーチセンター」)の設置について

北海道は生活、技術の各分野において積雪、寒冷の克服が課題とされ、開拓開始以来、数多くの研究が続けられてきた。しかし、これら調査、研究は各機関が必要に応じて実施しているため、重複や繰返しのケースも多い。また近年、北方圏への関心が高まり、これら諸地域の技術研究・交流も活発になってきたが、関係資料、情報は極めて少ない。

このような点から道内の各機関が過去に実施、あるいは現在実施中のもの、さらに北方圏諸地域の各種調査、研究の資料を収集、保存、交換し、北海道に必要な調査、研究をサジェスションし、推進する機関を設置すべきである。このため、早急にその準備機関の設立が望ましい。

【『北方圏』第10号】

◆「北方圏リサーチセンター」の設立構想」小冊子にまとめる

北方圏調査会が「北方圏リサーチセンター」設立構想についての考察」をまとめた。調査会は北方圏リサーチセンター設置を提唱したが、今後その設立、あり方を考える場合の参考として作った。

基本的には北海道・北方圏に必要な研究を奨励・助成すると同時に広く北方圏、積雪寒冷、生活、産業関係資料を収集、提供し、データバンク的役割を果たす情報センターの考えを貫き、半面、資金・組織問題も考慮し、どの部分からでも段階的に実施できるように組み立てている。

【『北方圏』第16号】

51	50	2	10	9	9	9	8	8	7
4	11	8	2	9	9	9	8	8	7
調査会「北方圏リサーチセンター」設立構想をまとめる	「北方圏交流推進委員会」設立に協力(主催:北海道)	調査会「『北方圏のまち』建設」を提言	「歩くスキー指導者講習会」、(倶知安町、札幌市、士別市)フィンランドから、歩くスキーの指導者エリキ・ピヒカラ氏を招き講習会を開催。主催:北海道、協力:北方圏調査会	調査会「北方圏リサーチセンター」設置を提言	「歩くスキー指導者講習会」、(倶知安町、札幌市、士別市)フィンランドから、歩くスキーの指導者エリキ・ピヒカラ氏を招き講習会を開催。主催:北海道、協力:北方圏調査会	「北方圏生活環境展」(道立産業共進会場)開催に協力(主催:北海道、他)	「第1回北方圏環境会議(札幌、パークホテル)開催に協力(主催:北海道、他)	調査会「北方圏リサーチセンター」設置を提言	「北方圏生活環境展」(道立産業共進会場)開催に協力(主催:北海道、他)

◇北方圏交流推進委員会がこのほど堂垣内知事に「北方圏総合調査研究機関の設立に関する意見」を答申した。手短に言えば『北方圏センター(仮称)』の設置。この一、二年道民の間に要望の声が高まっていた同センターの設立も、いよいよ前に向かつて踏み出した。仮称が北方圏リサーチセンターから北方圏センターと変わったのは情報、リサーチ以外に各種交流会議の推進にあたるなどの機能の一部拡大のためとなっている。

この一、二年胎動を続けてきた北方圏センターもようやく設立の方向、事業が規定された。また、設置にあたっての留意点として、北海道に必要な課題解決のため北方圏センターに「プロジェクト・チーム」を編成し、受託研究機関・研究者・財源の確保、研究推進などコーディネーターの役割を果たす能力を持たせるべきであると指摘している。

【北方圏】第17号】

◆「北方圏情報センター」オープン、北方圏調査会に付置

《堂垣内知事、岩本副会長がテープカット》  
 ここ数年、北の生活を見直そうという考えの高まりとともに北方圏諸地域との交流への関心が強くなっているが、こうしたなかでその中核となる北方圏情報センターがスタート、道民生活向上のため情報提供、交流推進活動にあたることになった。一方、これを盛り上げるかのようにタイミングよく、交流・友好推進団体の北海道アラスカ協会と北海道フィンランド協会の二つが相次いで産声をあげ、北方圏構想もいよいよその輪を大きくしてきた感がある。

北方圏情報センターは11月24日、中央区北3西7・札幌ホワイトビルに開設された。これから広く北方圏諸地域の各種資料、情報を集めて道民に提供、北海道の生活文化、産業経済の発展、北方

圏との交流の推進に努めるが、開所式には堂垣内尚弘知事らが出席し、テープカットを行い、発足を祝った。

【北方圏】第18号】

◆「北方圏センター設立期成会」発足

このほど、明年4月、北方圏センター創設を目的に道内の各団体を網羅したその設立期成会が発足、本格的な準備作業座業に入った。北方圏センターは北方圏に関するデータ・バンク活動、必要調査研究の推進、奨励、各種交流などを行い、北国北海道にふさわしい新しい生活文化、高度産業社会創造をめざす北方圏構想の中核にしようというものである。

北海道は昭和53年から北海道発展計画を実施するが、同計画には北方圏関連事項も数多く盛りられ、その実現のため、これにこたえる総合的な調査研究、交流機関の設置をうたっている。

北方圏交流推進委員会ははじめ文化、経済団体代表23人で北方圏センター設立期成会世話人会を設立、東条猛猪世話人代表(北海道経済同友会代表幹事)を中心に協議、検討を重ね、基本方向をまとめ、道内の主要84団体に参加を呼びかけ、10月17日、札幌グランドホテルにおいて設立期成会総会を開催した。

総会は堂垣内尚弘知事、東条世話人代表のあいさつの後、北海道フィンランド協会会長・中野正彦氏を議長に進められ、期成会規約、役員、事業計画を決めた。会長には、東条猛猪氏(北海道経済同友会代表幹事)を選任。また、事業計画は11月上旬まで北方圏センターの基本計画及び実施設計委託、同月中旬まで社団法人北方圏センター設立許可申請手続き、53年4月社団法人北方圏センター設立総会開催などの作業日程を決めた。

【北方圏】第22号】

52	9	9	11	11	2	2	5	9	10	10	2	3
「北海道」ソ連農業(馬鈴薯)技術交流団(札幌、帯広、他)受入れ	「北欧生活環境視察団」(ヘルシンキ、他)派遣	北方圏調査会に「北方圏情報センター」を付置	「アラスカ経済視察団」(札幌、他)来道受け入れに協力(主催:北海道アラスカ協会)	「第2回北方圏文化会議」(札幌)主催:北海道国際文化協会、後援:北方圏調査会他。	「北欧ファッション視察団」(ファッション関係者18人を派遣)主催:北方圏調査会	「小樽市民の船」(ナホトカ、他)に事務局職員1名派遣	「北欧生活環境(住宅と生活文化)視察団」(北欧の住宅建設、都市計画、地域集積暖房システムを視察するため、関係者17名を派遣)	「アラスカ州政府農業貿易視察団」来道受け入れ(北海道アラスカ協会に協力)	「北方圏センター設立期成会」(会長:東条猛猪氏)発足	「北方圏セミナー」を開催(旭川市)「北国の新しい生活を考える」をテーマに、4名の講師によるセミナーを開催	「北方圏交流写真展」(道庁ロビー)5月に予定している北方圏センターの発足を記念して、北方圏地域の産業、生活、自然等を120点の写真で紹介。以降北海道内の各都市で巡回展を開催	



## 第Ⅱ章

# 北方圏構想の普及と推進

積雪寒冷という、共通の生活に根ざした交流は、風俗習慣の違いを認識すると同時に、北方圏の生活に不可欠な知恵や工夫を学び取るのに大いに役立つ。このことは北方圏交流が単に行政や一部の推進者たちだけのものではなく、一般道民のなかに浸透し、交流に直接参加する道民

### 北への偏見を変える道民運動

今日、冬季オリンピックの種目となつている「カーリング」もまた、カナダから指導者を招き、54年から58年までの5年間、全道各地延べ25カ所で指導者講習会を実施した。現在、各地で実施される大会は冬の風物詩として定着しているが、まさに北方圏交流によって生まれた成果であろう。


用する用具そのものが普及していなかった。北方圏センターでは「冬の自然と対話しながら、体力づくり、健康づくり」を指すこの歩くスキーの普及に努め、54年から56年までの3年間、札幌、北見の各地で指導者講習会を実施した。スキー用具も各市町村の教育委員会が独自にそろえられ小・中学校の体育の授業に取り入れられるまでになった。

この間、北方圏センターでは北方圏交流の交流を深めることにより、生活、文化、産業など、豊かな北海道づくりに寄与することに努めた。北方圏諸国に関する資料の収集・提供をはじめ、「国際会議場」では北方圏諸国からの講師を交えて『北方圏交流北海道国際会議』『北方圏経済交流シンポジウム』『国際シンポジウム・長寿社会と福祉』など様々な国際会議を実施した。展示室においては具体的な事例を挙げて「北方圏諸国」の紹介展、また、『北方圏』誌においては北海道の課題とその解決に向けて、寒地住宅の改善、子供の防寒衣料、北海道の国際化などを年間テーマとして特集した。

### 北方圏センターの事業

この間、北方圏センターでは北方圏交流を進める上で、交流資金の確保の問題は避けて通れない課題だった。北海道も道内市町村と連携して、青少年婦人の海外派遣には助成措置を講じてはいたが、もっと幅広い資金援助ができる機関の必要性を痛感していた。そこで、北方圏調査会が会費の一部を積み立てていた2千万円と北海道からの出資金3千万円をベースに、会員間から基金造成の協力を仰ぐことになった。

北方圏交流基金は北方圏交流を側面から支えるもので、センターとは車の両輪として、「北方圏諸国との生活、文化、学術、スポーツなどの交流事業に対して資金的な援助を行う」こととして、昭和53年7月に財団法人として外務大臣の許可を得て設立された。(現在は、北方圏センターが管理していることを表している。そしてこれは、北方圏交流だけでなく、まず、広く国際交流への関心の高まりとなり、道内市町村における地域の国際化としても重要な役割を果たしてきたとも言えるものだった。このことは、北方圏構想がそれまでの道民が持っていた北への偏見を変えるに十分な道民運動となつていくことを示していた。



since1896  
sandosanyo

### 山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

【営業部】代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173  
東京支店／電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633  
苫小牧営業所／電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423  
千歳営業所／電話 (0123) 26-3555

## 《昭和53(1978)年～同63(1988)年》

### ～北方圏構想の啓蒙と普及に努めた北方圏センターの活動10年～

### 北方圏センターの機能と活動指針

道内各界各層の強力な支援を得て北方圏センターが発足した。北方圏センターは、北方圏に関する情報収集および提供するデータ・バンク機能、調査研究を実施するリサーチ機能、北方圏諸国と幅広い交流を目指すエクステンション機能、そして、交流を支えるレセプション機能の4つを備えてのオープンとなった。また、北海道庁をはじめ北方圏構想に理解を示す北海道内の有力企業のパックアップもあつて事務局体制も強化された。大袈裟に言えば、北海道の新しい世紀に向けて、発想の転換とその実践、さらなる推進を担うことになったと言えるだろう。

北方圏諸国との広範な交流は、道民意識を変革させる強力なインパクトを持っていた。そのコンセプトをまとめると、次の通りまとめられる。

すなわち、「積雪寒冷というハンディキャップを宿命とあきらめ、我慢する姿勢から、もつと科学的に、合理的に北海道を見直し、この北海道で快適に生活し、豊かにしていく積極的な発想をしよう。本州文化、中央文化に追随し、温暖な本州にあ

こがれる南方指向から、同じ積雪寒冷の北半球で高い文化を持つ北方圏諸国を知り、北に住む者同士との交流を深める北方指向に転じ、もう一度、北海道の生活、産業、文化の見直し、建て直しをしてみよう」というものである。これが北方圏センターの活動の指針となった。

### 北方圏交流基金の交流事業助成

北方圏交流を進める上で、交流資金の確保の問題は避けて通れない課題だった。北海道も道内市町村と連携して、青少年婦人の海外派遣には助成措置を講じてはいたが、もっと幅広い資金援助ができる機関の必要性を痛感していた。そこで、北方圏調査会が会費の一部を積み立てていた2千万円と北海道からの出資金3千万円をベースに、会員間から基金造成の協力を仰ぐことになった。

北方圏交流基金は北方圏交流を側面から支えるもので、センターとは車の両輪として、「北方圏諸国との生活、文化、学術、スポーツなどの交流事業に対して資金的な援助を行う」こととして、昭和53年7月に財団法人として外務大臣の許可を得て設立された。(現在は、北方圏センターが管理していることを表している。そしてこれは、北方圏交流だけでなく、まず、広く国際交流への関心の高まりとなり、道内市町村における地域の国際化としても重要な役割を果たしてきたとも言えるものだった。このことは、北方圏構想がそれまでの道民が持っていた北への偏見を変えるに十分な道民運動となつていくことを示していた。

1が統合してその事業を引き継いでいる。基金の積立状況、および助成状況は資料編を参照)

### 北方圏構想の定着

本章と設定した昭和53年から63年までの10年間の時間の中で、北方圏構想は、北海道の広範な分野、例えば生活、文化、スポーツ、産業、経済など、各界の人々に浸透し、本道の各地にその輪を広げ続けていた。また、同じ北国としてのよりよきパートナーを求めて、あるいは「冬を友に」生活している北方圏の国々の先進事例を学ぶために、道内の各市町村、団体、各界各層による視察団や調査団、研修団の派遣も相次ぎ、枚挙にいとまがないほどである。

そして、何よりも「冬」に対して新しい楽しみ方を知ったということだろう。

### 新しい冬のスポーツ

昭和51年に北海道に招かれたフィンランドの国際的な指導者、エリキ・ピヒカラさんの指導により「歩くスキー」が広がりをみせ始める。とは言え、まだまだ認知度も低く、使

## 第Ⅱ章

# 北方圏構想の普及と推進

積雪寒冷という、共通の生活に根ざした交流は、風俗習慣の違いを認識すると同時に、北方圏の生活に不可欠な知恵や工夫を学び取るのに大いに役立つ。このことは北方圏交流が単に行政や一部の推進者たちだけのものではなく、一般道民のなかに浸透し、交流に直接参加する道民

### 北への偏見を変える道民運動

今日、冬季オリンピックの種目となつている「カーリング」もまた、カナダから指導者を招き、54年から58年までの5年間、全道各地延べ25カ所で指導者講習会を実施した。現在、各地で実施される大会は冬の風物詩として定着しているが、まさに北方圏交流によって生まれた成果であろう。

用する用具そのものが普及していなかった。北方圏センターでは「冬の自然と対話しながら、体力づくり、健康づくり」を指すこの歩くスキーの普及に努め、54年から56年までの3年間、札幌、北見の各地で指導者講習会を実施した。スキー用具も各市町村の教育委員会が独自にそろえられ小・中学校の体育の授業に取り入れられるまでになった。

## 《昭和53(1978)年～同63(1988)年》

～北方圏構想の啓蒙と普及に努めた北方圏センターの活動10年～

### 北方圏センターの機能と活動指針

道内各界各層の強力な支援を得て北方圏センターが発足した。北方圏センターは、北方圏に関する情報収集および提供するデータ・バンク機能、調査研究を実施するリサーチ機能、北方圏諸国と幅広い交流を目指すエクステンション機能、そして、交流を支えるレセプション機能の4つを備えてのオープンとなった。また、北海道庁をはじめ北方圏構想に理解を示す北海道内の有力企業のパックアップもあつて事務局体制も強化された。大袈裟に言えば、北海道の新しい世紀に向けて、発想の転換とその実践、さらなる推進を担うことになったと言えるだろう。

北方圏諸国との広範な交流は、道民意識を変革させる強力なインパクトを持っていた。そのコンセプトをまとめると、次の通りまとめられることができる。

すなわち、「積雪寒冷というハンディキャップを宿命とあきらめ、我慢する姿勢から、もっと科学的に、合理的に北海道を見直し、この北海道で快適に生活し、豊かにしていく積極的な発想をしよう。本州文化、中央文化に追随し、温暖な本州にあ

こがれる南方指向から、同じ積雪寒冷の北半球で高い文化を持つ北方圏諸国を知り、北に住む者同士との交流を深める北方指向に転じ、もう一度、北海道の生活、産業、文化の見直し、建て直しをしてみよう」というものである。これが北方圏センターの活動の指針となった。

### 北方圏交流基金の交流事業助成

北方圏交流を進める上で、交流資金の確保の問題は避けて通れない課題だった。北海道も道内市町村と連携して、青少年婦人の海外派遣には助成措置を講じてはいたが、もっと幅の広い資金援助ができる機関の必要性を痛感していた。そこで、北方圏調査会が会費の一部を積み立てていた2千万円と北海道からの出資金3千万円をベースに、会員間から基金造成の協力を仰ぐことになった。

北方圏交流基金は北方圏交流を側面から支えるもので、センターとは車の両輪として、「北方圏諸国との生活、文化、学術、スポーツなどの交流事業に対して資金的な援助を行う」こととして、昭和53年7月に財団法人として外務大臣の許可を得て設立された。現在は、北方圏センタ

が増えていふことを表している。そしてこれは、北方圏交流だけでなく、まず、広く国際交流への関心の高まりとなり、道内市町村における地域の国際化としても重要な役割を果たしてきたとも言えるものだった。このことは、北方圏構想がそれまでの道民が持っていた北への偏見を変えるに十分な道民運動となつていふことを示していた。

### 北方圏センターの事業

この間、北方圏センターでは北方圏諸国との交流を深めることにより、生活、文化、産業など、豊かな北海道づくりに寄与することに努めた。北方圏諸国に関する資料の収集・提供をはじめ、「国際会議場」では

北方圏諸国からの講師を交えて『北方圏交流北海道国際会議』『北方圏経済交流シンポジウム』『国際シンポジウム・長寿社会と福祉』など様々な国際会議を実施した。展示室においては具体的な事例を挙げて「北方圏諸国」の紹介展、また、『北方圏』誌においては北海道の課題とその解決に向けて、寒地住宅の改善、子供の防寒衣料、北海道の国際化などを年間テーマとして特集した。

ーが統合してその事業を引き継いでいる。基金の積立状況、および助成状況は資料編を参照

### 北方圏構想の定着

本章と設定した昭和53年から63年までの10年間の時間の中で、北方圏構想は、北海道の広範な分野、例えば生活、文化、スポーツ、産業、経済など、各界の人々に浸透し、本道の各地にその輪を広げ続けていた。また、同じ北国としてのよりよきパートナーを求めて、あるいは「冬を友に」生活している北方圏の国々の先進事例を学ぶために、道内の各市町村、団体、各界各層による視察団や調査団、研修団の派遣も相次ぎ、枚挙にいとまがないほどである。

そして、何よりも「冬」に対して新しい楽しみ方を知ったということだろう。

### 新しい冬のスポーツ

昭和51年に北海道に招かれたフィンランドの国際的な指導者、エリキ・ピヒカラさんの指導により「歩くスキー」が広がりを見せ始める。とは言え、まだまだ認知度も低く、使



since1896  
山藤三陽印刷株式会社  
〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

【営業部】代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173  
東京支店 / 電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633  
苫小牧営業所 / 電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423  
千歳営業所 / 電話 (0123) 26-3555



◆「社団法人北方圏センター」発足

北方圏調査会の臨時総会が4月7日に開催されて、北方圏センター移行のための定款改正を議決。次いで5月11日に北方圏センター発足総会を開催して、北方圏に関する総合調査研究機関としての「北方圏センター（会長・東条猛猪）」が発足した。センター施設は、札幌市中央区北3西7に建設中の再開発ビル12階の全フロアとなっており、12月に完成するまでに体制整備をはかっておくため施設完成に先立っての発足。本格的なセンター機能を持った活動は54年1月からとなる。

【北方圏】第23号

◆「北方圏交流基金」発足

北方圏センターは公益の社団法人で調査会時代に総理大臣の許可を得たが、北方圏交流基金は財団法人として、53年7月24日、外務大臣の許可を得て設立された。基金のベースとなったのは北方圏調査会が会費の一部を積み立てて蓄えていた2千万円と北海道からの出資金3千万円で、以後、道内外の企業から基金造成の協力を得て、日を追うごとに基金は増えていった。北方圏センターとは別法人ながら、密接不可分の間柄のため理事長には東条猛猪北方圏センター会長が、専務理事、理事にはセンターの理事全員が兼ねる表裏一体の関係となった。また、学識経験者からなる評議員会が設けられ、助成事業の審査や適切な執行かどうかの協議がされることとなった。

【北方圏時代】第二章第六章

◆北方圏センター「シンボルマーク」決まる

専門家デザイナーから図案作成の協力の申し出のあった50数点を理事5人が審査した結果、金井グループ（金井英明氏ら4人）の作品が選ばれた。選考は北方圏にふさわしいイメージと北海道の向



上と発展に向けての意欲がわいてくるものを基準として行われた。同マークは①六角形は雪の結晶を表し、北国の雪のイメージ②六角形の重なりは北方圏諸地域のつながりと交流③上部の六角形は北への広がりや発展④全体の形は北海道の花ハマネスを表現。全体の形は北方圏の「調和」を表わしている。

【北方圏】第26号

◆「北方圏ジャーナリスト交流会」開催

北方圏センター施設のこけら落としは、北方圏ジャーナリスト交流会。同交流会は北の地域をよく知っている国々のジャーナリストたちが一堂に集い、相互理解を深めながら北の自然、風土に根ざした生活文化の向上について意見交換を行い、今後の北方圏交流の促進に役立てようというもの。道内にある日本新聞協会加盟の新聞、通信、放送18社と北方圏センターが組織した北方圏ジャーナリスト交流会実行委員会（委員長・上関敏夫北海道新聞社長）が主催した。東京のフォーリン・プレスセンター、日本新聞協会、北海道、札幌市の後援を得て、2月4日から6日までの3日間の開催。参加者は外国側が13カ国19人、北海道側が33人で、上関実行委員長の基調スピーチの後、「あすの生活・文化への課題」「情報交流の進め方」「北海道への提言」の三つのテーマで、レポート発表と意見交換が行われた。



【北方圏】第27号

54	53	年度
1	5	月
10	7	「社団法人北方圏センター」発足（札幌ホワイトビル内）
5	8	「財団法人北方圏交流基金」発足（札幌ホワイトビル内）
5	8	「北欧農業技術視察団」（玉ねぎの農家ら関係者6人をフィンランド、デンマークほか）に派遣。共催・北海道フィンランド協会
5	8	「スカンジナビア・フェア」（札幌グランドホテル）北欧諸国の文化、産業、経理観光、生活用品等の展示のほか、北欧料理などを提供。共催・札幌グランドホテル。
4	9	「森のひとびと展」（北海道開拓記念館・札幌市）カナダ北西岸に住むインディアンの生活文化を紹介。共催・カナダ外務省、駐日カナダ大使館、北海道、北方圏センター
4	11	北方圏センター「シンボルマーク」決まる
4	1	「北方圏センター施設」完成（道庁別館記念式典）
4	2	「北方圏ジャーナリスト交流会」（NR C参加：海外13カ国19名、道内18社33名）開催（同、実行委員会に参加）
5	4	LL教室で語学講座スタート（前期4月開講、後期10月開講）【平7（1995）年迄継続】
5	5	北方圏センター「ペットマーク」決まる
5	5	広報資料「北方圏の輝く未来」（スライド89枚）製作
10	5	広報映画「雪と氷の讃歌・北海道のフェスティバル」（16ミリ英語版）製作
1	5	北方圏セミナー「フィンランドの地域暖房と省エネ」開催（共催・フィンランドエネルギー経済協会）



◆「カーリング指導者講習会」開催

北海道カナダ協会と北方圏センターが主催するカーリング指導者講習会が1月下旬から2月の初め土別、池田、苫小牧



の3市町で行われた。講師には、カナダ・アルバータ州から世界チャンピオンのウオーリー・ウーリアック氏が来道。道内では池田町が3年ほど前に導入しているが、全道的には未知のスポーツ。講習会は講師持参の映画を交えながら、講師からカーリングの歴史、用語、競技方法などを学んだ。見た目には簡単そうだが、初めてとあつて手加減がわからず、ストーンが伸びなかったり、行き過ぎたり、体の均衡を崩して滑って転んだり、参加者は悪戦苦闘だった。士別では97人、池田では60人、苫小牧では100人が修了証を受けた。

【北方圏】第31号

◆季刊「NRCNEWSLETTER」創刊

海外向けに年4回英文のニュースレターを発刊することになり、このほどその第1号を発行した。北方圏諸地域の主な都市や報道機関、海外にいる北方圏センターの協力者に北海道の近況、センターの活動状況を伝え、交流基盤を拡大するのが目的。B5版8ページで、内容は発刊の辞、北海道の経済動向、北海道紹介、センター紹介となっている。当初200部を印刷、海外、在京外国公館、報道機関などに送ったが、その後道内在住の外国人などからの希望がありすぐに刷り増した。

【北方圏】第33号

《なお、62年5月発行の31号からはA4版8ページにデザインを一新、部数も800部にしたが、平成10(1998)年の60号で廃刊した》

◆「歩くスキー指導者研修団」派遣

「歩くスキー指導者北欧研修団(団長今村源吉・道教育大学旭川分校教授・団員6人)」は、2月18日(3月1日の日程)で北欧3カ国を訪問し、生活に溶け込んだスポーツの実際を見てきた。フィンランドでは「フィンランドディア・ヒビト大会(75キリゲン)」にも参加した。

『周りには、地元のフィンランドをはじめ、北欧各国やドイツなど、各国の人たちが入りまじって走っている。夫婦あり、親子あり、年齢も性別もさまざま。皆楽しそうに、しかも懸命にスキーを滑らせている。もてなしの心を忘れない。寒い国の温かい大会。だった高橋進氏)。子供の時からスポーツに常に親しみ、大人になってもスポーツをすることが日常化しているところにスポーツの生活化を見た感じだった。そして、厳しく暗い冬でも、当然のように歩くスキーを楽しむ人々の中に『北国の生活』があるように感じた。(笹岡隆氏)〔研修団に参加のレポート〕

【北方圏】第35号

◆広報映画「北方圏の暮らし」を制作

北方圏諸国の冬の生活の優れた工夫を道民に紹介するため、『北方圏の暮らし』をテーマに映画を制作中。カナダのエドモントンを皮切りに撮影に入り、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドなど4カ国に現地取材した16ヶ、カラーフィルム13本。各巻の内容は冬の服飾、栄養管理、住まいの工夫、子供の教育、健康づくり、老後の生活など、衣食住に絞って作成する。フィルムは道内各地で紹介される。

【北方圏】第35号

56			55		
4	2	2	2	2	10
「スウェーデンの手織と民芸展」(NRC)	「冬季レクリエーション国際会議」(オタワ)事務局職員派遣	「北方圏時代の暮らし」制作	「北方圏時代の暮らし」制作	「北方圏時代の暮らし」制作	「北方圏時代の暮らし」制作
				10	9
					9
					8
					7
					7
					5
					1
					1

◆「年報」創刊

北方圏構想10周年記念事業として「北方圏交流10年の歩み」についての諸資料を収録した「81北方圏センター年報」が完成、会員、関係機関に配布される。同年報はB5判、約160頁で、北方圏センターの年間事業実績の概要説明と一覽表による資料説明などにより構成されており、北方圏交流状況の周知をはかり、記録資料とすることに主眼が置かれた。このため、国別、年度別の交流状況や季刊「北方圏」創刊号から第36号までの総目次抄などを集録、関連写真を随所に掲載し、北方圏交流の10年の歩みを分かりやすく紹介。併せて、北方圏交流基金の概要、事業も紹介している。

【北方圏】第37号

◆「コスタ300年展(スウェーデンガラス工芸)」開催

コスタガラス工房は1742年にスウェーデン南部のスモーランド地方に設立された伝統を誇る手吹きガラス工房で、時代の推移とともに淘汰され、現在は20に足りない工房が存続継承している。同展は、道立近代美術館、スモーランド博物館、スウェーデン大使館、北方圏センターなどの主催。北方圏交流基金、スウェーデン・インスティテュートの後援で9月15日から10月27日まで開催され、小鉢、水差し、花器など世界屈指の技術を誇る約70点が展示された。開会式では東条猛猪北方圏センター会長が「今日の北海道とスウェーデンの交流の中で見事な芸術を実際に見ることができ喜ばしい」とあいさつ。また、グンナー・ロネウス駐日スウェーデン大使は「現代スウェーデンガラス工芸を、同じ北国北海道の人たちに見ていただけることは光栄です。この展示会を通じて交流を一層進めたい」と謝辞を述べた。

【北方圏】第37号

◆国際シンポジウム「北方圏海難防止会議」開催

漁船員の生命を守る国際シンポジウム「北方圏海難防止会議」が9月24日から3日間、北方圏センターで開催された。同会議は道漁船海難防止センター、北方圏センター、道指導漁連、道機船漁協連の4団体が実行委員会会長、長崎勝利道指導漁連会長)を結成して開催、参加国はカナダ、アメリカ、イギリス、ノルウェー、ソ連、日本の6カ国。海外から11人が参加した。

会議では、予防と海難、国際協力における実情と問題点、救命器具、着氷・流水を克服する航海など海難防止の幅広い分野に各国の実情が述べられ、活発な質疑が重ねられた。この種の会議は世界で初めてで、各国の海難防止に前進する姿勢が示された。

【北方圏】第37号

◆「屋外寒暖計」の普及と頒布開始

北方圏センターでは旭硝子㈱の協力で室内から見ることできる「屋外寒暖計」を西ドイツから取り寄せ、道内の普及に乗り出している。冬の厳しい北欧諸国ではこの寒暖計を見て身支度する習慣が定着、日常生活にはなくてはならない用具として浸透している。直径約7センチの白色円形で、プラス・マイナス50度Cまで測ることができ、屋外の窓枠などに簡単に取り付けられる。価格は1個500円、送料1200円で頒布している。

【北方圏】第37号

《屋外寒暖計》はその後、



スウェーデン製もそろえて二種類の製品を平成8年度末の頒布終了までの16年間に、3万7992個を頒布し、北国の生活をより豊かにとの道民の意識の高まりに寄与した。》

6	展示室 開催 「デンマーク写真ポスター展」(NRC展示室) 開催
7	「年報」創刊【現在継続】 「北海道・アラスカ少年交流キャンプ」(千歳) 受入
9	「コスタ300年展(スウェーデンガラス工芸)(道立近代美術館)開催(共催:スウェーデン大使館、他)
9	国際シンポジウム「北方圏海難防止会議」(NRC) 開催(共催:北海道漁船海難防止センター、他)
10	「北方圏構想10周年記念文化講演会」開催 「講師:ドナルド・キーン氏(札幌、函館)、深田祐介氏(札幌)」(共催:国際交流基金、他)
10	「HOPPOKEN TODAY」【英訳による】「北方圏時代」 発刊
10	「国際障害者青年北方圏婦人会議」開催(共催:北海道婦人団体連絡協議会)
10	「屋外寒暖計」の普及と頒布開始【平8(1996)迄継続】
12	「北の服飾展・北国を着る」(NRC展示室) 開催
1	「ノルウェー・クロスカントリースキー用具展」(NRC展示室) 開催
2	「北海道手づくり工芸展」(NRC展示室) 開催 「このほか北方圏諸国の在日公館と連携して企画展を2回、所蔵の展示品貸し出しによる地方展を9市町村で開催」
2	第3回「歩くスキー指導者講習会」【講師:今村源吉氏、他(北見)】 開催
3	第3回「カーリング指導者講習会」【講師:カナダチャンピオン・ウオーリ・ウースリアック氏(札幌、他5市町)】 開催
3	広報映画「北方圏の冬:暮らしのアイデア」(16分30分) 製作
3	「国際交流定例懇談会」(NRC) 開催(共催:北海道国際婦人協会【現在継続】奇数月第3木曜日)

◆「北欧インテリア国際シンポジウム」開催

北欧諸国のすぐれたインテリアを学ぶと同時に北海道のインテリアも考えようという目的で、北方圏センターが主催。出席者はデンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンの4カ国からテキスタイルデザイナー、家具アーチスト、大使館員ら14人、本道側からはインテリア関係者やクラフト作家、デザイナー、教育関係者ら24人、オブザーバー48人。東条猛猪北方圏センター会長が「芸術性に富んだ北欧のインテリアを学び、新しい生活文化の創造に努めたい」と開会あいさつ。外国参加者を代表して、ホーコン・フレイホウ・駐日ノルウェー大使が「北方圏諸国と北海道の交流が深まる中、シンポジウムの開催は意義深い。北欧の生活様式に対する知識を広めてほしい」とあいさつした。シンポジウムでは、風土と人間の関わりの中から北欧ならではのインテリアがどのようなように生まれたか、また、制作の背景となる自然環境、考え方、手法などについて話し合われた。

【北方圏】第41号

◆「北方圏家庭料理実習会」開催

第1回となる実習会は北方圏センターと北海道国際婦人協会の共催で、講師はデンマーク在住の家事研究家・太田ひろろさん。デンマーク風ジャガイモ料理をテーマに、ジャンソン氏の誘惑、ジャガイモ卵ケーキ、など3品。若い世代から中年層までの女性25人が受講した。食材が身近なジャガイモのせいかな、楽しいムードの実習となった。

【北方圏】第42号

また、第2回からは、北海道の家庭料理を在道北方圏婦人に覚えてもらおうと企画、会場にはアメリカ、カナダをはじめ外国婦人13名、市内の婦人9名が参加。講師は辻クッキングスクール札幌校長・満田浩氏。献立は「豆腐のステーキ」、いわしのかば焼き、かに風味かまぼこ黄金焼き、など4品。講師のすばらしい包丁さばき、手さばきに見とれたあとでの実習では、なかなか思うようにいかないことに苦笑する場面もあったが、北海道料理を覚えようとする参加者は真剣そのもの。出来上がった料理に舌鼓を打っていた。

【北方圏】第41号

◆「北方圏経済交流協会(NOREX)」設立

北方圏センターなどが発起人となって、本道と北方圏諸国との経済交流の窓口となる「北方圏経済交流協会」が発足した。2月21日北方圏センターで開かれた設立総会には民間企業32社、道や関係各市、経済団体など24団体が参加。代表幹事に伊藤組会長で道経連総合企画委員長の樫原泰明氏を選任した。



【北方圏】第43号

同協会の事務局は道経連に置き、商談情報の相互交流、翻訳・契約作成・市場調査など実務への協力事業、懇談会の開催などを通じて、本道と北方圏諸国の企業間の商取引、技術提携などの経済交流を具体的に促進するための「橋渡し」をする。

【北方圏】第43号

2	1	1 11	10	9	8	8 8	8	7	7	6	6	6 6	6	4
「北方圏経済交流協会(NOREX)」設立	「カナダ地域暖房調査団」(3カ国)派遣 (共催・北海道地域暖房協議会)	「カーリング展(NRC展示室)開催」	「北欧インテリア展」(NRC展示室)開催	「北海道のガラス工芸展」(NRC展示室)開催	「北海道の冬と生活写真展」(NRC展示室)開催	「北海道道博覧会」(札幌彫刻美術館)開催(実行委員会へ参加)	「北の彫刻展」(札幌彫刻美術館)開催(実行委員会へ参加)	「北欧インテリア国際シンポジウム」(NRC参加4カ国14人・道内24人)開催	「文化講演会」(講師：團伊玖磨氏) (札幌、旭川)開催(共催・国際交流基金、他)	「北欧の生活用具展」(NRC展示室)開催	「北海道・アラスカ少年交流キャンプ団」(アラスカ州デナリ)派遣	「フィンランドの人々写真展」(NRC展示室)開催	「このほか、北方圏諸国の在日公館との連携して企画展を4回、所蔵の展示品貸し出しによる地方展を6市町で開催」	「カナダ生活環境視察団」(エドモントン、他)派遣 (共催・北海道町村会)



◆「北方圏冬の装い国際展」開催



北国にふさわしい装いの工夫を求めて北方圏センターは北方圏経済交流協会と共催し「北方圏冬の装い国際展」を2月中、展示室で開催した。カナダ、ノルウェーなど北方圏の6カ国と日本の帽子、手袋、靴、コート、セーター、ズボン、下着靴下類など約1000点が展示され、お国ぶりあふれた寒地衣料のアイデアと工夫が、訪れた人たちに北海道の防寒衣に対する方向性を考えさせた。

展協力の在日公館、企業などは次のとおり。「カナダ・アルバータ州政府、ノルウェー大使館、スウェーデン大使館、フィンランド大使館、大阪府貿易館、小杉産業(株)札幌支店、(株)金剛商会(神戸)、北海道文化服装専門学校、ハドソンズ・ベイCo(エドモントン)」

【北方圏】第43号

◆「冬の装い研究協議会」開催

北海道にふさわしい防寒の装いと北海道の衣料産業などについて話し合う「冬の装い研究協議会」が北方圏センターと北方圏経済交流協会の主催、北海道の後援で2月18日、北方圏センターで開かれた。同協議会には行政機関、学識経験者、服飾専門学校、服飾デザイナー、流通業者(百貨店など)、消費者、服飾メーカー、関係団体など38人(他



にオブザーバー約20人)が出席、東条猛猪北方圏センター会長を座長に意見交換が行われた。

北海道における防寒の装いは、最近、防寒と機能性を創造する動きが活発になってきている。北方圏センターは、北海道の防寒服飾のあり方について関係各界が考える機会を作るため、この2月の1カ月間、北方圏諸国のサンプルを集めた「北方圏冬の装い国際展」を開催したが、この機会に、広く関係者の知恵を集め、北海道の防寒服飾と衣料産業に大きな提言となった。

【北方圏】第43号

《これが契機となり、防寒衣料に対する問題点が洗い出され、このままではいけないとする意識が芽生えた。札幌市北国の消費者生活研究会」が行った子供の冬の屋外遊び着調査に対して、メーカー、デパート、販売店の「改善品制作」への素早い対応がそれを物語っていた。》

◆「北方圏経済交流シンポジウム」開催

北方圏経済交流協会極原泰明代表幹事と北方圏センター(東条猛猪会長)が共催した「北方圏経済交流シンポジウム」が6月10日、北方圏センター国際会議場で開催された。経済の分野での北方圏交流シンポジウムが開かれたのは今回が初めてで、カナダ、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドの北方圏5カ国の在日機関代表6名、本道側からは道開発局、札幌通産局、道庁、道経連など団体や企業から40人が参加し、北海道と北方圏諸国との経済交流促進について意見を交換した。その結果、お互いに相手地域に対する関心と経済交流の必要性を認識し、単に企業間だけでなく、関係団体、金融機関などを含めた広い協力体制の整備と情報交換の緊密化を確認するなど、大きな成果をあげた。

【北方圏】第44号

											58																											
11	10	10	9	9	9	8	8	7	6	5	5	5	4	2	2	2	2																					
											「北方圏交流写真展」(道庁道民ホール開催(共催・北海道))		「火と氷の島アイスランド写真展」(NRC展示室 開催)「このほか、企画展4回、所蔵の展示品貸し出しによる地方展を12市町で開催」		「北海道―スウェーデン経済交流懇談会」(NRC)開催(共催・北方圏経済交流協会)		「財団法人スウェーデン交流センター」設立(発起人代表・北方圏センター)		「北方圏経済交流シンポジウム」(NRC)開催(共催・北方圏経済交流協会)		「北海道―カナダ・カルガリー青少年吹奏楽団受け入れ」実施(実行委員会参加)		「講演会・最近の国際情勢」(講師・外務省・村田良平氏(NRC))開催		「北方圏国際人形展」(NRC展示室)開催(北海道ノルウェー協会設立(発起人代表・北方圏センター))		「北歐―北海道交流懇談会」(ホテルアルファ・サツポロ)開催(共催・北海道、北方圏経済交流協会)		「文化講演会」(講師・木村治美さん(札幌、釧路))開催(共催・国際交流基金(他))		「北歐―北海道テキスタイルデザインシンポジウム」(NRC)開催		「カナダの自然と人々写真展」(NRC展示室)開催		「カナダBC州鮭資源保護事情視察団」(バンクーバー、他)派遣		「ビーゲラン彫刻展」(札幌彫刻美術館)開	

◆「シンポジウム・外国人から見た北海道」開催

道内に住む北方圏諸国の人たちから北海道の生活、特に冬の過ごし方について意見を聞き、新しい生活のあり方を探ろうと12月15日、北方圏センターで開催された。フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、アイスランドの北欧各国、オーストリア、中国、イギリス、アメリカの8カ国9人の外国人、北海道側からは各界から26人が出席した。シンポジウムでは北海道の生活環境や住宅、防寒衣料、余暇の過ごし方、教育、スポーツ、国際交流など幅広く意見を交換した。外国代表からは自国での生活体験をふまえて、北海道の暮らし



点などについて率直な指摘があり、北海道側出席者もうなずいていた。

【北方圏】第47号】

◆「北海道古代文化財カナダ展」開催

北方圏学術交流の一環としての同展は、北海道(蝦夷)の先史文化遺跡出土品(石器、土器、土偶等、77種908点、アイヌ民族資料(20種107点)、古地図等を展示・紹介する同時に、北海道の現在を紹介する写真パネル(50点)や映画の上映を通じて北海道への理解を深めてもらうのが目的。会場はトロント大学エリンドール校「アート・ギャラリー」(トロント)とカナダ国立人類博物館「ピクトリア記念館(オタワ)の2カ所。北海道の古代文化財が大量に海を渡って展示されたのは初めてのことで、北海道への理解が深まり、より幅広い交流に向けての期待が高まった。

【北方圏】第49号】

◆北方圏交流基金、宝酒造株から2千万円の寄付を受ける

「カムバック・サーモン」のキャンペーンを展開している宝酒造(本社・京都)の久木田稔社長が8月3日来道し「サケ学習を通じての青少年の国際交流に役立てて」と財団法人北方圏交流基金に2千万円を寄付した。宝酒造は「さつぽろサケの会」が発足(53年)した翌年から同会のカムバック・サーモン運動を支援し、記念ポトルを売り出すなどキャンペーンを展開。今回の寄付に当たって久木田社長は「酒を扱う私の企業はきれいな水、美しい自然が大切。サケも大切なものは同じ。何かの形でカムバック・サーモン運動に役立つのなら」と話す。北方圏交流基金では寄付の趣旨を生かしてさつぽろサケの会とも相談し、サケの交流学習に役立てる。

【北方圏】第49号】

◆「北欧・北海道テキスタイルシンポジウム開催

北欧と北海道のテキスタイルデザイン関係者が一堂に会して、それぞれの活動について情報を交換し、これからのテキスタイルのあり方を探ろうという目的のシンポジウムが9月21日に北方圏センターで開催された。同シンポジウムには、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドの4カ国からテキスタイルデザイナーのほか駐日大使や大使館商務参事官など11名が出席、北海道側からはテキスタイル、あるいはインテリア等各方面で活躍する27人が出席。戸坂恵美子・北海道女子短期大学教授を座長に、北国の生活の中のテキスタイルについて活発な意見交換が行われた。特に、北欧の美しい自然景観をデザインに十分取り入れ、「アートテキスタイル」の方向を目指している北欧のテキスタイルの作家の姿勢が、本道の関係者に大きな指針を示した。

【北方圏】第50号】

										59							
10	10	9	9	8	8	7	7	7	6	6	6	5	4	3	1	12	
										「中国東北地方・人々と生活」展(NRC展示室)開催		「カナダの自然と交通写真展」(NRC展示室)開催		「極北の花・スケッチ展」(NRC展示室)開催		「84小樽博」北方圏館に北方圏諸国紹介の写真パネル、防寒衣料を展示	
										「北海道古代文化財カナダ展」(トロント大学エリンドール校)開催(共催・北海道開拓記念館、トロント大学)		「北方圏さつぽろ国際フェスティバル」開催(同実行委員会が参加)		旭川、恵庭、小樽 開催		北方圏交流基金、宝酒造株から2千万円の寄付を受ける	
										「北海道古代文化財カナダ展」(カナダ国立人類博物館)開催(共催・北海道開拓記念館、カナダ国立人類博物館)		「北欧・北海道テキスタイルシンポジウム」(NRC)開催		「ノルウェー王室写真展」(NRC展示室)開催		「北海道・冬の帽子ファッション展」(NRC展示室)開催	
										「北海道・地方のアイデア国際会議」(N							

◆「北海道・カナダ・サケ学習交流親善団」派遣  
を後援、協力

33人の小さなドサンコ・サケ大使が海を渡りカナダ野外自然学校を体験した帰ってきた。不自由なコトバを超えて通じた海外生活9日間。ホームステイの思い出、学んだ自然の中に棲む人間と動物たちのルール、そして自然保護。

5年前《カムバック・サーモン運動豊平川にサケを戻そう》がスタートした頃、カナダから太平洋サケ協会会長ジム・マレー氏が来日して札幌でのこの運動に感銘し、帰国後早速バンクーバーにカムバック・サーモンと同じ目的で《セーブ・サーモン》運動を開始した。スローガンは「トヨヒラに続け！」これはマレー氏が白石神社境内で見た東白石小学校のミニふ化場が大きなヒントになったという。カナダはカナダ独自の運動を展開し、北部バンクーバーにこの地区の3千人の小学生が体験できる学習観察用のミニふ化場を建設している。ロッキー山脈を背にカナダ杉の茂る森の中、その学校はあった。日本の子供をここに送り込みたい、そして共通の自然について、環境について語らせない。いま日本人が問われている地球人としてのセンス、それが子供の時代からごく自然に身につけることが可能ではないのか。国際的共感が思想として根ざしていくのではないか。

それが今回、サケ交流第1陣の派遣となったのである。そしてプロジェクトのベースは宝酒造に「カナダさけ交流基金」によるものであった。

〔さっぽろサケの会・菅原安信氏 寄稿〕

【北方圏 第52号】

◆「地方シンクタンク協議会」に参画

北方圏センターは、総合研究開発機構(NIRA)の提唱による「地方シンクタンク協議会」に参画することになった。同協議会は地方のシンクタンク

ク組織・団体との相互交流やNIRAとの情報交換、人物交流など幅広い交流を行いながら、我が国における政策研究のより一層の発展に資することを目的に、本年4月3日に設立された。全国から78の機関・団体が加入したが、そのうち道内からは当センターのほか、(株)たくぎん総合研究所、北海道開発コンサルタント(株)など7つの機関・団体が加入した。なお同協議会の幹事として道内からは、北方圏センターと北海道開発コンサルタントが選ばれた。

【北方圏 第52号】

◆デンマーク・オーフス大学(日本語研修生)北海道研修団受入

デンマーク・オーフス大学東アジア研究室のキーステン・レフシン助教授今年7月まで北大客員研究員、専門・アイヌ言語文化の学生8名からなる日本語研修団が6月28日から16日間札幌に滞在した。専攻は日本語、コンピュータ学、経済学、社会政治学などさまざま、いずれは日本と関わりのある職務に就くことが約束された23歳から30歳までの学生たちである。2週間を超える日程には、道庁への表敬訪問はじめ北海道デンマーク会(佐藤貢公会長)による歓迎会、酪農大学での交流会など行事も盛りだくさんであった。特に、北海道大学言語文化部では特別講座で村崎恭子教授らからベーシックな日本語を2週間学んだ。また、箕輪登代議士宅の柏葉コミュニティセンターでの8日間の合宿に続いて、北海道国際婦人協会会員の協力を得て5日間のホームステイを体験した。数多くの出会いの中で、彼らには数え切れないほどの出会いがあった。国を、人種を、言葉を超えた愛に包まれていた。友情が、連帯の心が、これからの日本とデンマークの関係を支える相互理解が芽生えていた。

【北方圏 第53号】

60	11	12	12	1	1	2	2	2	2	2	3	3	4	4	5	5	6				
RC「在日外国人10カ国13名、道内58名」開催	「北の染・織・編作品展」(NRC展示室)開催	「文化講演会」(講師:開高健氏(札幌))開催(共催:国際交流基金、他)	「北の手作り工芸展」(NRC展示室)開催	季刊誌「北方圏」創刊50号特別記念号を発売	刊	「北海道の冬」ポスター展(NRC展示室)開催	「カーリング指導者講習会」(三笠、他)3市町開催(道カーリング協会、他)	「昭和61(1986)迄継続」	「85ウインターロード」(オタワ)へ氷彫刻チーム4名を派遣	「新しい防寒衣料展」(NRC展示室)開催	「国際シンポジウム:外国人から見た北海道」(NRC在道外国人6カ国13名、道内58名)開催	「北方圏サケ学習交流(北海道・カナダBC州)」がスタート	「北海道秀作民芸品展」(NRC展示室)開催	「このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を31市町村で開催」	「北海道・カナダ・サケ学習交流親善団」派遣(さっぽろサケの会)を後援、協力	「北方圏センター」地方シンクタンク協議会」に参画	「スウェーデンSINDミッション(工業省)との懇談会」(札幌)開催(共催:スウェーデン交流センター)他	「デン交流センター」他	「スウェーデン・ノルドラント基金総裁との懇談会」(札幌)開催(共催:北方圏経済交流協会)他	「北方圏サケ学習交流写真展」(NRC展示室)開催	デンマーク・オーフス大学(日本語研修生)北海道研修団受入



◆「北方圏の釣りセミナー」開催

北方圏における代表的なスポーツフィッシングといえはサケとあって、8月31日開催のセミナーでも中心はサケ。会場の北方圏センター会議室には200人を超える釣りファンが参加した。カナダ映画「サケを守る」の上映に続いて岡田鳳二・道立水産ふ化場育種資料長がスライドを使い「サケ・マス増養殖へのバイオテクノロジーの導入」と題しニジマスの性をコントロールし生まれる稚魚を全部メス、またはオスに転換させる研究結果を発表した。次いで、マンガ家で「釣りキチ三平」でおなじみの矢口高雄氏が「中国の釣りを語る」と題して講演。取材で得た経験や中国大陸での釣り体験をユーモアを交えた話に詰めかけた人たちは熱心に聞き入っていた。

【北方圏】第53号

◆「スウェーデンS A F中小企業ミッショントの懇談会」開催

スウェーデン経営者連盟(S A F)中小企業ミッションの一行21名(カール・エリック・ブランド代表)が8月30日に来道し、北方圏経済交流協会、北方圏センター、スウェーデン交流センター、ジェトロ北海道貿易情報センターの4者共催の懇談会(会場:京王プラザホテル)に出席した。同ミッションは日本の中小企業の現状を視察するため来日、東京で中小企業庁、日経連などを訪問した後、来道した。ミッションの構成メンバーはスウェーデン経営者連盟の役員はじめ中小企業の経営者であり、北海道側の出席も中小企業の経営者、経済団体など。そのため質問の内容も、本道の失業率、賃金水準、技術や経営のアドバンス制度、企業立地の優遇制度、貿易・技術提携など、多岐にわたる、予定の時間を大幅に超過した。

【北方圏】第53号

◆「北海道冬の装い・旭川シンポジウム」開催

道内で売られている防寒衣料、靴、手袋などは、ほとんどが温暖な本州で作られており、ファッション重視、防寒性軽視の傾向が強く、本道の冬に不適合な製品が多かった。最近、この点に問題意識を持ってその改善提言を行っている消費者団体や、それを受けて改良製品を開発、販売する企業等の動きが活発になり、開道110数年の歴史の中に初めて「暮らす人がつくる人」の意識が芽生えてきた。これらの動きは、札幌圏だけではなく旭川を中心とした地域でも次第に盛り上がりを見せてきた。そこで北方圏センターと旭川北方圏交流協会は11月1日、旭川ターミナルホテルで「北海道冬の装い旭川シンポジウム」を開催。冬の装いに関心を持つ約230人の市民が参加して、フィンランド、ドイツ、スウェーデンからのゲストも加わって熱心な討論が行われた。北方圏センターの東条猛猪会長が「地元旭川の方々の熱意に敬意を表すとともに、本道にふさわしい防寒衣料の創造と本道の関係産業の誇りある発展と本シンポジウムが実りあるものになるよう期待します」。続いて、旭川北方圏交流協会の小椋山亭会長のあいさつの後、シンポジウムに入り、「北海道にふさわしい防寒の装い」「北海道の衣料産業を考える」「消費者意識の今とこれから」の3つのテーマでそれぞれ講師の方々による意見発表と会場との質疑応答が行われた。



旭川を中心とした地域でも次第に盛り上がりを見せてきた。そこで北方圏センターと旭川北方圏交流協会は11月1日、旭川ターミナルホテルで「北海道冬の装い旭川シンポジウム」を開催。冬の装いに関心を持つ約230人の市民が参加して、フィンランド、ドイツ、スウェーデンからのゲストも加わって熱心な討論が行われた。北方圏センターの東条猛猪会長が「地元旭川の方々の熱意に敬意を表すとともに、本道にふさわしい防寒衣料の創造と本道の関係産業の誇りある発展と本シンポジウムが実りあるものになるよう期待します」。続いて、旭川北方圏交流協会の小椋山亭会長のあいさつの後、シンポジウムに入り、「北海道にふさわしい防寒の装い」「北海道の衣料産業を考える」「消費者意識の今とこれから」の3つのテーマでそれぞれ講師の方々による意見発表と会場との質疑応答が行われた。

【北方圏】第54号

11	11	11	10	10	10	10	9	9	9	8	8	8	8	7	7	6
駐日E C委員会代表部	北海道冬の装い・旭川シンポジウム(旭川)開催(共催:旭川北方圏交流協会)	北海道冬の装い旭川展(旭川西武開催)	「札幌E Cウィーク」(札幌)開催(共催:北海道E C委員会代表部)	「アゼルバイジャン展」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催:北海道日ソ友好文化会館)	「スウェーデンの暮らし写真展」(N R C展示室)開催	「国際理解セミナー」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催:北海道日ソ友好文化会館)	「国際理解セミナー」(講師:外務省・斎藤邦彦氏(N R C))開催	「スウェーデンの暮らし写真展」(N R C展示室)開催	「アゼルバイジャン展」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催:北海道日ソ友好文化会館)	「札幌E Cウィーク」(札幌)開催(共催:北海道E C委員会代表部)	北海道冬の装い・旭川シンポジウム(旭川)開催(共催:旭川北方圏交流協会)	北海道冬の装い旭川展(旭川西武開催)	「札幌E Cウィーク」(札幌)開催(共催:北海道E C委員会代表部)	「アゼルバイジャン展」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催:北海道日ソ友好文化会館)	「スウェーデンの暮らし写真展」(N R C展示室)開催	「国際理解セミナー」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催:北海道日ソ友好文化会館)

◆「北方圏ヤングトークイン'85」開催

道の新計画基本構想では、北方圏とアジア・太平洋地域をつなぐ「北の玄関口」として、北の拠点としての役割を積極的に広げ、諸外国との交流を深めていくことがうたわれている。北方圏センターでは、こうした流れを背景に、『北方圏』誌で特集「北海道の国際化を考える」を連載、また国際感覚についての多くのシンポジウムやセミナーを開催してきたが12月20日、在札の外国人留学生や北方圏センター会員らが集まり、「北方圏ヤングトークイン'85」と銘打って、北海道の国際化をテーマに活発に意見を述べた。この「トークイン」では、北海道開発問題調査会の五十嵐智嘉子・研究員をコーディネーターに、まず中国、韓国、ブラジル、インドネシア、マレーシア、米



◆「今日のソ連写真展」開催

北海道に最も近い国、世界一の国土に15の共和国と120以上の民族が暮らしている国「ソ連」の今日の姿を紹介する写真展「今日のソ連」が2月25日から3月12日まで展示室で開催された。人々の暮らしと文化を紹介、相互の友好と交流の一層の進展を図るため北方圏センターと在札幌ソ連邦総領事館、北海道日ソ友好文化会館が共催。主催

者代表としてオコニシニコフ総領事が「隣国ソ連の理解を深めてほしい」とあいさつ。展示写真は同総領事館の寄贈によるもので、美しい自然や建物、産業や文化、人々の生活が生き生きと写し出されているものばかり。会場には写真のほか、民族衣装や壁掛け、マトリョーシカなどの人形も飾られており、また、同総領事館の提供による観光ビデオも放映され、来訪者の目を楽しませていた。

◆「北海道職場企業国際化シンポジウム」開催  
北方圏センターが札幌通商産業局から委託(昭和60年度)を受けた「北海道職場中小企業指導指針策定事業(北海道における中小企業の国際化)」の調査報告書の完成を機会に、企画開催した。北海道は、21世紀に向けて産業構造を高度化し、国際化に対応していくことが望まれており、とりわけ中小企業の国際化を推進していくことが重要な課題となっている。

◆「今日のソ連写真展」開催  
北海道に最も近い国、世界一の国土に15の共和国と120以上の民族が暮らしている国「ソ連」の今日の姿を紹介する写真展「今日のソ連」が2月25日から3月12日まで展示室で開催された。人々の暮らしと文化を紹介、相互の友好と交流の一層の進展を図るため北方圏センターと在札幌ソ連邦総領事館、北海道日ソ友好文化会館が共催。主催

◆「北海道職場企業国際化シンポジウム」開催  
北方圏センターが札幌通商産業局から委託(昭和60年度)を受けた「北海道職場中小企業指導指針策定事業(北海道における中小企業の国際化)」の調査報告書の完成を機会に、企画開催した。北海道は、21世紀に向けて産業構造を高度化し、国際化に対応していくことが望まれており、とりわけ中小企業の国際化を推進していくことが重要な課題となっている。

◆「今日のソ連写真展」開催  
北海道に最も近い国、世界一の国土に15の共和国と120以上の民族が暮らしている国「ソ連」の今日の姿を紹介する写真展「今日のソ連」が2月25日から3月12日まで展示室で開催された。人々の暮らしと文化を紹介、相互の友好と交流の一層の進展を図るため北方圏センターと在札幌ソ連邦総領事館、北海道日ソ友好文化会館が共催。主催

6	6	5	5	5	3	3	3	3	2	2	2	2	12	11	
出亮氏(NRC)開催	「国際理解セミナー」(講師:外務省・川	「NRC会員海外旅行」招待派遣(カナダ	「NRC」開催	「北海道職場企業国際化シンポジウム」(N	「北方圏のまちなみ写真展」(札幌、北見	「日本産業デザイン振興会」他	「家・清家清氏(道新ホール)」開催(共催・	「北方圏デザイン振興会」他	「NRC」開催	「今日のソ連写真展」(NRC展示室)開催	「水彫刻チーム5名を派遣(共催・日本水彫	「エドモントン・ウインターフェスト'86」	「留学生6カ国7名、道内48名」開催	「5周年を迎えた姉妹交流―北海道とアル	「共催・旭川パレルファッション連絡協

◆「スウェーデン経済事情懇談会」開催

スウェーデン・ノルボッテン県商工会議所専務理事のレナート・フォッシュペリイ氏が「北海道とノルボッテン県は気候も似ているし、中小企業の抱える問題にも共通点が多いと思う」と、冒頭でありさつ。7月4日北方圏センター会議室で2時間にわたって懇談会が開催された。ノルボッテン県はスウェーデンの最北に位置し、鉄の産地キルナを擁する広大な地域であり、今後の開発が待たれる地域。わが国では大企業の進出が盛んだが、中小企業の育成も重要と考えており、地方政府と地元が協力を果たして育成に当たっている」と、ノルボッテンの現状をスライドを用いて紹介、質疑応答に入った。参加者からの質問には詳しい説明が、また、北海道側への質問もあり、本道とノルボッテン県との相互理解の第一歩にふさわしい懇談会となった。

【北方圏】第57号】

◆「北方圏住宅セミナー」開催

北国の家づくりをもう一度総合的に考え直してみよう」と、北方圏住宅セミナー「トータルに考えよう家づくり」が7月11日、センター会議室で開催された。「北方圏交流によって、北欧やカナダの家づくりのノウハウが入ってきたことにより寒地住宅の進歩が見られるが、さらに家づくりを考える機会に」と、東条猛猪北方圏センター会長があいさつ。北海道大学工学部の洪悦郎教授のオリエンテーション、住宅コンサルタントの中村剛氏、道都短期大学の佐藤勝泰講師がそれぞれ「結露を防ぐには」「北国の家と暮らし」と題して講演。北海道には北海道にあった家づくりがあることを確認したセミナーとなった。

【北方圏】第57号】

◆「産学官協力国際シンポジウム」開催

北方圏センター、北海道地域振興技術センター

など4団体の主催により「産学官協力国際シンポジウム」が、スウェーデン・ウメオ大学事務総長ダーレン・ブレンストリーム氏を迎え11月27日室蘭28日北方圏センターで開催された。北部スウェーデンは鉄鉱業の衰退により経済的に打撃を受けていたが、その地域再開発のために設立されたのが国立ウメオ大学。構内に市、県、及び地元の経済界が一体となってハイテクパークを設置し、バイオ・医療・エレクトロニクス関係の企業を育成する一方、地元の銀行(ノルドランド貯蓄銀行)と共同で、財団法人ウメオ技術センターを設立し、機械を中心とする製造業の育成に努力している。ダーレン・ブレンストリーム氏はこうした産学官協力を実質的に推進してきた中心人物。北海道経済の置かれた状況下ではこうした先進事例を学ぶことが必須として招待された。同氏は、産・学・官の協力は地場企業の育成を通じて地域社会への貢献や、異業種間交流の促進はウメオ市のみならず、北部スウェーデン全体の産業構造の高度化につながったことなどを講演した。

【北方圏】第58号】

◆「北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流水」」開催

2回目を迎えたこのシンポジウムは、北方圏国際シンポジウム実行委員会、北方圏センターなど4団体が主催し、道開発庁、科学技術庁などが後援。ソ連、アメリカ、カナダから流水研究者7名を招いて流水と氷海が人間の生活に及ぼす影響を語り合う学術シンポジウムや記念講演会を開催した。また、市内の小中学生による「子ども流水シンポジウム」も開催され、「流水の海の中を見ることが出来る海中トンネルを作って」というアイデアとお願ひも出され、金田武市長が「努力します」と公約する一幕もあった。

【北方圏】第59号】

《このアイデアは平成8年2月、氷海展望塔「オ

6	北海道まちづくりシンポジウム(北見市ホテル黒部)開催(共催:北海道)
6	「中国 患電江省写真展」(道庁道民ホール、NRC展示室)開催(共催:北海道)
7	「北のまちづくりパネル展」(9市町巡回)開催(共催:北海道)
7	「北方圏のお国自慢写真展」(札幌地下街オーロラプラザ)開催
7	「カナダ現代クラフト秀作展」(6市町巡回)開催
7	「スウェーデン経済事情懇談会」(NRC)開催(共催:スウェーデン交流センター)
7	「北方圏住宅セミナー」(NRC)開催(共催:80年代北方圏住宅研究会)
9	「北海道アルバータ州経済交流セミナー」(講師:ア州農務省・ジャクソン・ガードナー氏(北海道会館))開催(共催:北海道、他)
9	国際シンポジウム「長寿社会と福祉」(NRC、紋別)開催(共催:道都大(学他))
10	「北方民族文化シンポジウム」(NRC、網走)開催(共催:オホーツク国際流水ロード実行委員会)
10	「赤毛のアンのふるさと写真展」(10市町巡回)開催
10	「国際アキスタイルフォーラム1986」(札幌芸術の森)開催(共催:札幌芸術の森)
11	「国際理解セミナー」(講師:アイスランド極東地域担当大使・ペトゥール・トールステインソン氏(NRC))開催
11	「北方圏地方文化講演会」(講師:ニユースキヤスター・野中ともよ氏(釧路))開催
2	「産学官協力国際シンポジウム」(講師:スウェーデン・ウメオ大学事務総長・ダーレン・ブレンストリーム氏(室蘭、NRC))開催
2	北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流水」(紋別)開催(共催:同実行委員会)(現在継続)
2	第2回「湧別原野オホーツク100キロ



ホーツクタワー」の完成で実現した。」

◆「ウインターシティー・セミナー」開催

カナダ・トロントのイトトンセンター設計者として、また都市プランナーとして有名な建築家エバーハート・H・ザイドラー氏を講師に招いて3月23日開催されたセミナーには、同氏の「ウインターシティー構想」に興味を持つ大学や建築関係者およそ70名が参加した。

同氏は「都市における生活は夏だけでなく冬も快適に過ごせるものでなくてはならない。私が言うのは、巨大なドームに覆われた環境を作ったり、その中に温帯地域を作ろうというのではない。冬には冬の楽しみがあることを忘れてはならないのだ。冬の戸外を楽しむと室内の温かさを同時に楽しむものでありたい。このように喜びの要素を注ぎ深く紡いでいけば、私たちのウインターシティーの魅力は大きく広がり、やがてはサンベルトの魅力をしるものにしていけるのではないかと思っている。そのためにも人間らしさのために技術を使う方法を学ばねばならない」と、語った。

【北方圏】第59号

◆「北方圏バイオテクノロジー・セミナー」開催

バイオテクノロジーに関する研究や実践が、世界の各地で進められている。こうしたなか、カナダ、アメリカの北海道の研究者を招いたセミナーが、北方圏センター、北海道バイオインダストリー懇話会等4団体の主催で3月17日北大学術交流会館で開催された。講師は、カナダ・アルバータ州研究所応用科学部リサーチフェローの金田敏氏、元帯広畜産大学学長・前酪農総合研究所所長の大原久友氏、アメリカ・ユニテック・アソシエーツVSA社長・国際微生物協会連合会会長補佐の妙田俊夫氏の3氏。また、コーディネーターには静修短期大

学学長の江口良友氏が当たった。3講師はそれぞれに「カナダにおけるバイオテクノロジー」ヨーロッパ酪農におけるバイオの活用と展望」バイオ関係国際交流における諸問題を講演。バイオ関係に従事する120人ほどが参加、今後のバイオ交流に期待が集まっていた。【北方圏】第59号

◆北方圏国際交流ジュニア親善団「夏休み少年少女オーロラスクール・イン・アラスカ」派遣

7月27日から8月2日までの1週間「夏休み少年少女オーロラスクール・イン・アラスカ」としてジュニア親善団が派遣された。アラスカ州と北海道とのなじみは深い。州内の市と姉妹交流をしている道内の自治体は6市町(帯広、紋別、根室、千歳、天塩、佐呂間)、学校間交流をしている小・中・高校は39校に上っている。このほか水産、木材、エネルギーなどの経済面、また文化の面でも結びつきは強い。今回の親善団は子供37人、大人13人。アラスカの生の自然に触れながら、そこに住む人々と交流、次代を担う子供たちに国際感覚と幅広い知識を養うのが目的である。姉妹交流、学校間交流をしている児童・生徒を中心に、道内各地はもちろん、遠く石川県からも参加した。



「この旅行中、子供たちの目は輝いていた。荘厳なまでの大自然を目の前にして時には黙し、時には歓声をあげた。交流の場では言葉は通じなくとも身振り手振りで意志を通じ合っていた。英語を勉強しなきゃという子もいた。素直な驚きと感

を勉強しなきゃという子もいた。素直な驚きと感

7	7	7	7	7	7	6	5	4	3	3	3	3	3	
カ学芸会	「アメリカ研究・札幌クールセミナー」(北大学術交流会館開催)共催・北海道アメリカ学芸会	「アフリヤート展」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催・同文化会館)	「期待派遣」	「NRC会員海外旅行」(カナダ、2名招待派遣)	「北方圏体験ツアー」交流・生活・体験インカナダ(エドモントン、他)実施	「NRC」開催(北海道地熱総合研究所)	「北方圏体験ツアー」交流・生活・体験インカナダ(エドモントン、他)実施	「国際セミナー」長寿社会への対応(NRC)開催(協力・道都大学)	「北国の快適環境とまちづくり写真展」(道庁道民ホール、NRC展示室、他)開催(共催・北海道)	「北方圏」木と暮らし展(NRC展示室、根釧地区15公民館巡回)開催	「ローカルエネルギー研修会」(NRC)開催(共催・北海道地熱総合研究所)	「北方圏体験ツアー」交流・生活・体験インカナダ(エドモントン、他)実施	「NRC」開催(北海道地熱総合研究所)	「北方圏体験ツアー」交流・生活・体験インカナダ(エドモントン、他)実施

激の中から、自然を愛する心、人間を愛する心が育っていくのを感じた。〔毎日新聞道支社・江畑洋一記者の同行記〕

【北方圏】第61号】

◆北方圏シンポジウム「北海道の地域開発を考える」開催

シンポジウムは9月2日、北海道市町村振興協会、北海道市長会の後援を得て、北方圏センター国際会議場で開催され、70人が参加した。北大農学部教授・黒柳俊雄氏の基調講演では、活力とうるおいのある地域づくりに向けて、今日の不況の克服のため行政と一体になって社会基盤の整備、企業の設備投資への融資、大学の拡充、人材の地域内での確保などが重要。このほか、高齢者の経験と知恵、若者のエネルギーを大切に、地場産業振興にプラスさせる。多目的に物を見、数字に強い経営チャンピオンを育てることも欠かせない。弱い北海道というイメージを逆発想で変え、新しい北海道づくりを強調した。また、事例報告では、保健医療情報システムの構築(旭川市)、十勝地域ISN構想(帯広市)、札幌芸術の森構想(札幌市)、西部地区の町並み保存(函館市)、産・学・官協力の事例(室蘭市)など、各市のそれぞれの取り組みが発表され、明日の北海道開発のあり方について熱心な討議が行われた。

【北方圏】第61号】

◆「子供の生活環境シンポジウム」開催

北海道私立幼稚園協会と共催で11月7日、子供にとつての望ましい生活環境のあり方などについて、北方圏諸国のゲストスピーカーを交えてシンポジウムを開催した。

「3人の先生の報告は、子供の遊びについて深く考えさせられ、大いに反省させられました。また、シンポジウムの後半では、日常ほとんど接す

ることのない外国の方からきれいな日本語でお話を聞くことができました。高田メリアさんからはフィンランドについて初めて耳にすることはかなり興味を覚えました。また、中国の裴峙(ペイ・ジュン)さんのお話も良かったです。裴さんの「私たちにとつて最初で最後の子」とご自身の子供について語っていたことが印象的でした。一人っ子政策が日本になくて良かったと思いました。約3時間という時間でしたが、終わってみると非常に短い時間のように思えるほどすばらしいシンポジウムでした。〔松山真理子さん「参加者から寄せられたの感想」から〕

【北方圏】第61号】

◆国際シンポジウム「2000年に向けて―住環境の未来を拓く」開催

国際居住年の記念事業として11月20日、京王プラザ札幌で国際シンポジウムが開催された。横路知事をはじめカナダ、フィンランドからも特別参加、各地の住みよい住居や住環境について講演、パネルディスカッションが行われ、世界の知恵を集めてよりよい生活を目指す住環境のあり方について熱心に討論した。同シンポジウムには、北国の生活を豊かにする住宅、住環境への関心の高まりを示し、道内各地から約350人が出席した。

北海道知事・横路孝弘氏が「北海道ライフの確立を目指して」、カナダ・カルガリー大学教授ウォルター・ジェミーンソン氏が「カナダにおける居住地域の改善と実際」と題して基調講演。引き続きヘルシンキ市都市計画局・吉崎恵子氏、建築家・圓山彬雄氏、札幌大講師・ハワード・ターノフ氏をパネリスト、道教育大学教授・伊藤隆一氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションに移り、各国の住環境や行政のあり方、将来展望などについて話し合いが行われ、活発に質疑が行われた。

【北方圏】第62号】

7	「日米札幌夏季スラブ研究セミナー」(NRC)開催(同実行委員会に参加)
7	北方圏国際交流ジュニア親善団「夏休み少年少女オーロラスクール・イン・アラスカ」派遣〔平9(1997)迄継続〕
8	「カナダ防寒衣料展示会」(帯広、他)開催(共催・道家庭生活カウンスelingセンター、他)
8	「国際理解セミナー」〔講師：駐道大使・太田正利氏(NRC)〕開催
9	北方圏シンポジウム「北海道の地域開発を考える」(NRC)開催(共催：札幌市、他道内主要11市)
9	「ソ連邦カムチャツカ地方の少数民族カリアーク展」(NRC展示室)開催(共催：日ソ協会北海道連合会、他)
10	「カナダ紹介写真展」(札幌地下街オーロラコーナー、道庁道民ホール、他)開催
10	「北海道―スキャンジナビア・ガラス工芸セミナー」(NRC、他)開催(共催：北歐閣僚評議会、スウェーデン交流センター)
10	「北方圏都市の高齢型ユー・マンシステム」シンポジウム(NRC)開催
11	「子どもの生活環境シンポジウム」(NRC)開催(共催：北海道私立幼稚園協会)
11	国際シンポジウム「2000年に向けて―住環境の未来を拓く」(京王プラザホテル札幌)開催(共催：北海道)
11	「人間らしい住まいの実現に向けて」国際居住年記念シンポジウム(NRC)開催(共催：80年代北方圏住宅研究会)
11	「在道スウェーデン人陶芸家シャシティ・ヘルクビスト展」(NRC)開催(このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を41市町村で開催)
12	「北方圏ヤングトークイン87」(NRC)開催(共催：アイセック北海道地区委員会)
12	「文化講演会」〔講師：東京国際大学教授・國弘正雄氏(道新ホール、他)〕開催(国際交流基金、他)

◆「ウォーターフロント活性化シンポジウム」開催

ウォーターフロントの再開発による都市の活性化、もつと水辺を見直そうという気運を受け3月12日、小樽市との共催で「歴史と港の見える街・おたる再生」をテーマにシンポジウムを開催した。会場の小樽市消防庁舎大会議室には、小樽の将来を語ろうという市民およそ80名が集まり、熱心な討論が続いた。基調講演にたった新谷小樽市長は、運河を中心とした連続性のある水辺づくり構想について市民とともに手を携えてこれに当たりたいと語った。また、小林英嗣北大助教授をコーディネーターとしたバネルデイスカッションでは、各パネリストから欧米の先進事例、なかでもポートランドやボルチモアの街づくりに掛ける市民の意欲と関心の強さが紹介され、参加者の共感呼んだ。

【北方圏】第63号】

◆「北方圏センター発足10周年記念祝賀パーティー」開催

北海道の新しい生活・文化の創造と産業・経済の発展を目指して「北方圏構想」が登場して17年。そしてこの構想の総合的推進機関として発足した北方圏調査会を展的に改組、拡大して新発足した社団法人北方圏センターは、本年度10周年を迎えた。これを記念して『北方圏センター発足10周年記念祝賀パーティー』が5月12日に開催された。会場の札幌プリンスホテルには、横路孝



北海道の新しい生活・文化の創造と産業・経済の発展を目指して「北方圏構想」が登場して17年。そしてこの構想の総合的推進機関として発足した北方圏調査会を展的に改組、拡大して新発足した社団法人北方圏センターは、本年度10周年を迎えた。これを記念して『北方圏センター発足10周年記念祝賀パーティー』が5月12日に開催された。会場の札幌プリンスホテルには、横路孝

弘北海道知事をはじめ、黒柳雄二北海道開発局官房長、堂垣内尚弘元北海道知事、ジョン・R・デングァー在札幌アメリカ合衆国総領事、アレクサンドロフ・V・シャロフ駐札幌ソビエト連邦総領事、許世麟在札幌大韓民国総領事、千昌奎在札幌中華人民共和国総領事、アイバム・バムステッド・カナダ・アルバータ州東京事務所長ら内外の来賓、北方圏諸国の公館を代表する方々や北方圏センター会員など470余名が出席、盛大な中にも和やかな雰囲気であった。

開宴に先立って東条猛猪会長は「北方圏センター10年の活動が道民生活の向上や本道の発展に少しでも役立っているとすれば、それは会員をはじめとする道民の皆様のご支援と、北方圏諸国在日公館、北海道開発庁、北海道庁、各市町村の皆様、加えて、北方圏交流を推進されている多くの友好団体の皆様の絶大なご助力のためものであり、この機会に心から感謝の意を表します。また、10周年を期に一層の事業の展開を図って参りたい」とあいさつ。また、祝辞を粕谷茂・北海道開発庁長官(黒柳雄二北海道開発局官房長が代読)、横路知事、シャロフ総領事のお三方からいただいたが、その言葉の中には、北方圏センターの活動やさらなる交流の拡大、推進に向けての期待が込められていた。

ホールの中央には北方圏のお国料理も並べられ、それを囲むように、会場いっぱいには今後の北方圏交流についての話が輪が広がった。本パーティーでは特に10周年記念海外旅行プレゼントの抽選会も催され、中国へ3名、アラスカへ2名の計5名の方に幸運の女神が微笑んだ。

最後に榎原泰明北方圏経済交流協会代表幹事の音頭で北方圏交流の一層の発展を祈って「万歳」を三唱して閉宴した。

【北方圏】第64号】

63

2	講演会「中国の寒冷地における住環境と住宅政策」(講師・黒竜江省都市科学研究所・唐恢一氏(NRC))開催
2	「まちづくり国際シンポジウム中支知一スウェーデン・キルナに学ぶ」(滝川)開催
3	「まちづくり懇談会」(まちづくりすとのつどい)(NRC)開催(共催・北海道)
3	「ウォーターフロント活性化シンポジウム」(小樽)開催(共催・小樽市)
3	「国際理解セミナー」(講師・元エドモントン総領事・船越衛氏(NRC))開催
4	「スウェーデン絵画展」(NRC)開催(共催・スウェーデン交流センター)
4	「日ソ経済セミナー」(I)(NRC)開催(共催・日ソ技術経済社会研究会)
5	「北方圏センター発足10周年記念祝賀パーティー」開催
5	「新北方圏時代」刊行(企画・北方圏センター・発行・同刊行会)【北方圏センター10周年記念事業】
5	「セミナー・長寿社会への対応II」(NRC)開催(協力・道都太学)
5	「フィンランドの詩に親しむ夕べ」(札幌豊平館)開催(共催・北海道フィンランド協会)
5	「中国・黒竜江省技術研修員(歯科技士2名)受入れ」
6	「フィンランド・グッドデザイン&ポスター展」(札幌芸術の森)開催(共催・札幌国際デザインメッセ'88実行委員会)
6	「札幌国際デザインメッセ'88」(札幌芸術の森)開催(同実行委員会に参加)
6	「デンマーク工業製品紹介展」(NRC)開催(共催・デンマーク大使館)
6	「デンマーク・北海道トレードセミナー」(NRC)開催(共催・デンマーク大使館、デンマーク通商事務所)
6	中国・黒竜江省技術研修員(旅行社社員)受入



◆中国・黒竜江省技術研修員(旅行公社職員)受人  
中国国際旅行公社(国营)のハルビン分社の日本部長という肩書きの研修生は金紹武氏。だが、まだ32歳という若さ。日本へ、というより外国に出たのは初めてとのことだが、「中国に來られる日本人や外国人旅行者のお世話をしているので特に外国に來た気がしない」と流暢な日本語。その日本語は、大学時代の3年半、毎日欠かさず受けた講義とさらに独習した成果と言う。研修期間は3カ月間。「中国へ多くの日本人観光客を招くにはどうしたらよいか、また、観光行政についても学ぶことが山ほどあります」と目を輝かせた。

【北方圏】第64号】

◆スウェーデン・ウメオ市エストラ高校日本語研修生9名受入  
北海道で民泊しながら、見聞を広め日本語を学びたいというスウェーデンの高校生の夢が北方圏センターの仲介で7月20日から26日にかけて実現した。この高校生らはウメオ市のエストラ高校の工科系の男子生徒たちで、ペル・ブルンテルン君をはじめとする8名。彼らの担任である中山ヤコブセン静子先生に引率された一行は長旅の疲れもなく、初めて踏み北海道の地にいざさか興奮気味。それでも、ホストファミリーとの対面式では一人ひとり自分の趣味や家庭のことを話し、すっかりうち解けた様子。北方圏センターは日本スウェーデンの高校生の交流を目的に札幌市内の高校視察をアレンジ。藻岩高校では書道の授業を見学し、たどたどしい筆運びながらも「日本」「山」などを書いて藻岩校生の喝采を浴びていた。一行は茶会など日本文化を体験したり、市内見学などして、次の目的地の滝川、旭川に向かった。

【北方圏】第64号】

◆「NRC会員招待海外旅行」(中国・黒竜江省3名)派遣  
北海道と中国・黒竜江省とが友好提携をして以來、両地域の交流は広範囲に拡大している。北方圏センターはこの交流をさらに推進するために、黒竜江省から研修生を受け入れ、また、北方圏センターから中国訪問団を派遣(9月23日~10月2日)した。この訪問団には「海外旅行プレゼン」に当選した幸運な3名も加わった。

「10日間という限られた時間の中で広大な中国の一部をかいま見たにすぎない研修旅行ではあったがであった人々の温かさを感じた中国であった。北海道で研修を終えた金紹武さんが「中国と日本は同じ肌の色、顔形、草や花も同じように思う」と話してくれたが、それに親しみが自然と伝わってくるような気ささえる。(NRC会員・佐々木淑子氏、佐藤國男氏の中国印象記)」

【北方圏】第66号】

◆「まちづくり国際会議88イン室蘭」開催  
構造不況で落ち込んだ地域経済をどう活性化させるかをテーマに10月28・29日の両日、室蘭市で、世界規模で地域活性化などの活動をしている西独のアデナウア財団が地域レベルの催しとしてはわが国で初めて主催に加わって開催された。

この国際会議は暮らしや経済の停滞に直面する室蘭市が地域再生の強い意気込みを示したものである。この中で、同じく産業構造転換を経験した西独(ルール地方)、米国(ピッツバーグ市)の地域代表から、活性化に成功した事例が報告され、また、海外からの専門家6名に地元や東京からの専門家4名も加わって、「先進事例に学ぶ」「開発政策への提言」の2部にわたるパネルディスカッションが行われ、集まった各界の参加者に大きな示唆を与えた。

【北方圏】第66号】

7	「ソ連のバレストロトカ・図書展」(北海道日ソ友好文化会館開催(共催・北海道日ソ友好文化会館))
7	「ウオーターフロントセミナー・再開発による地域活性化方策」(函館開催(共催・函館市・函館一ハリアフックス協会))
7	「北欧・トナカイ遊牧民の工芸展」(北海道開拓記念館開催(共催・北海道開拓記念館、他))
7	「ウオーターフロントシンポジウム・都市開発の動向」(NRC開催(共催・北海道開発技術センター、他))
7	「NRC会員海外旅行」(米国・アラスカ州、2名)招待派遣【北方圏センター10周年記念事業】
7	スウェーデン・ウメオ市エストラ高校日本語研修生9名受入
8	「ソ連極東との経済交流発展に向けて」北海道経済代表団訪ソ報告会(NRC)開催
9	「北欧の音楽と言葉に親しむ夕べ」(NRC)開催
9	「高齢者のための交通サービスシステム・シンポジウム」(NRC)開催(共催・地域と交通研究会)
9	「スウェーデン交流センターガラス工房工芸展」(NRC)開催(共催・スウェーデン交流センター)
9	「日ソ経済セミナー(Ⅱ)」(NRC)開催(共催・北海道水産部)
9	「NRC会員招待海外旅行」(中国・黒竜江省、3名)派遣【北方圏センター10周年記念事業】
10	「イワナ・サクラマス国際会議」(北大学術交流会館)開催(同会議組織委員会に参加)
10	「北海道―マサチューセッツ州交流写真展」(NRC)開催(共催・北海道)【このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を24市町村で開催】
10	「まちづくり国際会議88イン室蘭」開催(共

◆「文化講演会」講師・黒柳徹子さん 開催

北方圏センター10周年記念の「文化講演会」が12月9日、札幌道新ホールで行われた。国際交流基金、北海道新聞社、北方圏センターの3者の主催。講師は俳優、ユニセフ親善大使の黒柳徹子さん。演題は「トットちゃん国際交流」。講演では、ユニセフ親善大使の仕事としてベトナム、カンボジアを訪問し、そこで見た子供たちの様子、貧しさ、医療の不備などについて、声を詰まらせながら「もつと皆さん手をさしのべてあげてください」と、恵まれた日本の果たすべき役割や国際協力の必要性について熱く語った。また、豊富な海外での経験談やユーモアにあふれた話には超満員のホールが爆笑のウズとなった。テレビで見慣れた親しみと幅広い人間性、そして優しさにあふれた話は、詰めかけた人たちに時間を忘れさせるほど深い感銘を与えたようだった。

【北方圏】第66号

◆「北国の風土に根ざした暮らしを考える」シンポジウム開催

網走管内婦人団体協議会では冬期研修会の一環として、北国の風土に根ざした生活や文化を学ぼうと北方圏センターと共催して1月17・18日の両日、留辺蘂町でシンポジウムを開催した。北海道東海大学助教授川崎一彦氏の「北方圏の暮らし」と題しての講演に続いてのシンポジウムでは、同氏をコーディネーターにスウェーデンのペーター・ヘルクビイスト氏（旭川在住・家具デザイナー）、フィンランドの川上セイヤさん（札幌在住・主婦）、ノルウェー大使館一等書記官夫人の香子ダルトレさんの3人がそれぞれのお国ぶり・暮らしぶりが紹介された。会場を埋めた470余名の参加者からは時間いっぱいまで活発な質問があり、それに対して丁寧な応答があった。2日目の

分科会では、高齢化社会における福祉の問題について話題が集中、福祉の先進国北欧の現状などについて有意義な話し合いが続けられていた。

【北方圏】第67号

◆「北方圏住宅フォーラム・北欧における住まいと住まい方」開催

北海道の住宅、住環境はどうあるべきか、今後多様化する生活様式や高齢化、都市化に対応する「住まい」はどうあるべきかを考える「北方圏住宅フォーラム」が北欧における住まいと住まい方をテーマに2月28日、北方圏センターで開催された。講師にはスウェーデン在住で王立建築家協会会員の田中久氏。田中氏は、スウェーデン人の住宅への考え方と歴史的背景、現在の住宅建築状況などについてスライドを用いながら講演した。続いて、田中氏に倉本たつひこ建築計画室の倉本龍彦氏、(株)北海道建築工房の小室雅伸氏の3人による北海道の住宅、住環境の向上についての鼎談が行われた。

【北方圏】第66号

◆北方圏センター10周年記念事業・図書3冊を発売

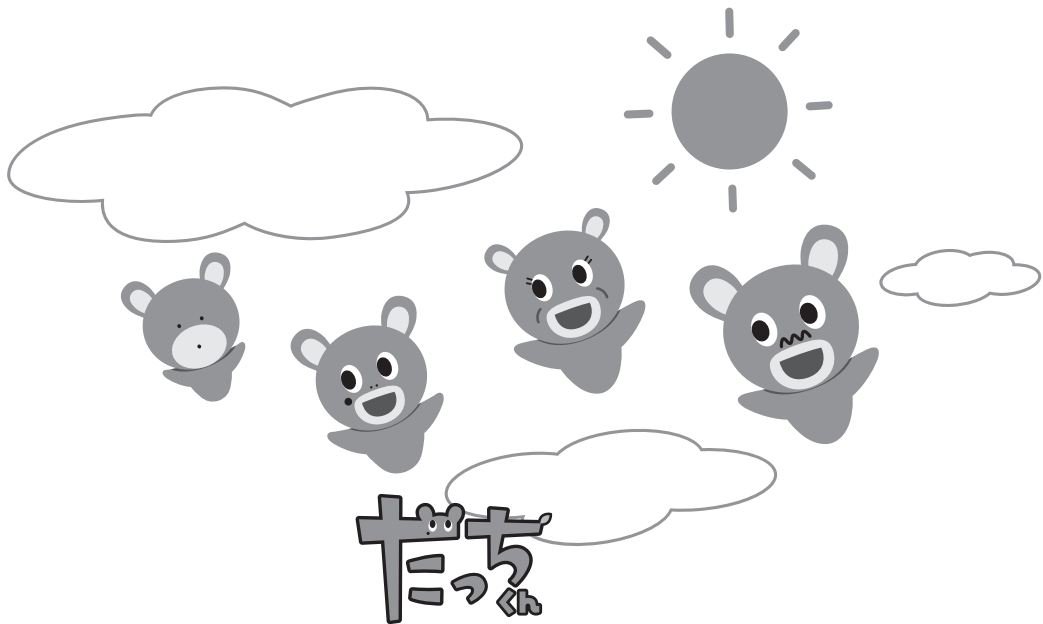
北方圏センターでは、その設立10周年を記念する出版物として、新たな段階に入った北方圏交流の実績について道内のさまざまな事例をあげて紹介し、さらに将来を展望する図書『新北方圏時代』（A5版350頁）、北方圏センターの設立から北方圏構想の推進に携わった方々による座談会の記録集『北方圏センターの歩みをふりかえる』（A5版82頁）、国際交流の一層の発展に資するため国際交流の意義やプロトコルを盛り込んだ『国際交流ガイドブック』（A5版130頁）の3冊を刊行した。

【北方圏】第67号

10	12	12	12	1	1	2	2	3	3	3	3	
催：室蘭市、コンラート・アデナウア財団他	「ローカルエネルギー研修会」（札幌ジャスマックプラザ）開催（共催：北海道地熱総合研究所）	「北海道東海大学フロンティアセミナー」（講師：前デンマーク首相アンカー・ヨージェンセン氏（NRC））開催（共催：北海道東海大学）	「文化講演会」（講師：俳優・黒柳徹子さん）道新ホール開催（共催：国際交流基金他）北方圏センター10周年記念事業	「フィンランドを語る会」（講師：前駐フィンランド大使・高橋正太郎氏（NRC）開催	「北国の風土に根ざした暮らしを考える」シンポジウム（留辺蘂）開催（共催：網走管内婦人団体協議会）	「日ソ経済セミナーⅢ」（NRC）開催（共催：ソ連東欧貿易会）	「セミナー」中国における経済開放政策と東北アジア経済圏」（講師：中国社会科学院世界经济政治研究所・凌星光氏（NRC））開催	「北方圏住宅フォーラム・北欧における住まいと住まい方」（NRC）開催（共催：新日本建築家協会北海道支部）	「文化講演会」（講師：作家・戸川幸夫氏（土別、稚内））開催（共催：国際交流基金他）北方圏センター10周年記念事業	「文化講演会」（講師：TVプロデューサー・石井ふく子さん（帯広））開催（共催：国際交流基金）他 北方圏センター10周年記念事業	「北方圏センターの歩みをふりかえる」、『国際交流ガイドブック』、『新北方圏時代』発刊 北方圏センター10周年記念事業	「ジオフロント・セミナー」（講師：都市地下空間活用研究会・西淳一氏（NRC））開催（共催：環境計画研究会）

読売新聞は[メガ文字]に。

読 → 読



目にやさしく、読みやすさ紙上最大。

# 読売新聞

フリーダイヤル よみうり よみうり ハイ どうぞ

購読のお申し込みは ☎ 0120-4343-81



# 第三章

## 北方圏交流と国際理解の促進

国際社会の相互依存関係が一層緊密化する中で、産業や経済はもとより、地域社会のあらゆる面で北方圏構想が打ち出された頃とは国際環境が著しく変貌してきた。特に国際社会において重要な位置を占めるよう

### 国際環境の変貌と定款の一部変更

ヘンの国デンマーク（50点）、「カナダ紹介写真（60点）」、「北欧の人々と暮らし（51点）」など全部で13テーマの展示用資料を常備し地域の借し出し要望に応えた。これらの資料は平成元年から7年までに延べ109回の展示会が町役場のホールで、中学や高校の文化祭で、地方百貨店のイベント会場で展示されている。また、北方圏各国大使館の協力を得て「スウェーデン王国写真展」、「ノルウェー民族衣装・ブーナッド展」など、様々な企画展を同じく46回実施している。

青年ジェット、市民ジェット等々、あらゆる分野にわたっている。しかも、それは単に親善だけにとどまらず、自分たちの目で北方圏の実情を探り、その成果を報告書としてまとめ、町づくりや新しい生活・文化の創造など、実生活にあつたものであったことである。さらにまた、道内各地で繰り広げられる地道な交流活動、積極的に雪や寒さを生活に取り込もうとする活動もあがる

### 北方圏センターの事業の充実

事業は大きく分けて、①北方圏に関する資料の収集・提供（データベース機能）②北方圏に関する専門調査（シンクタンク機能）③北方圏諸国との交流の推進（エクステンション機能）を軸に進められ、具体的な事業展開を図っている。

つぎへの一歩はじまります



SINCE 1925

<http://www.tomita-sp.co.jp>

プレミアム・ノベルティ・カレンダー・うちわ・タオル他・セールスプロモーション活動の企画・開発・制作

株式会社 富田商会

本社 / 〒060-0041 札幌市中央区大通東5丁目 富田ビル TEL 011-231-4824 FAX 011-222-4854  
AT事業部 / 〒060-0032 札幌市中央区北2条東12丁目98-29 TEL 011-222-9040 FAX 011-222-9042

インターネットショッピング 北海道グルメエクスプレス <http://www.rakuten.co.jp/gurume-ex/>

# 《平成元(1989)年～同7(1994)年》

～道民生活に定着した北方圏意識、道民の国際理解を促進した北方圏交流～

### 発展する北方圏構想と道民の意識改革

北方圏諸国は、いずれも北海道を遙かに上回る北国としての長い歴史を持つている。そして、北海道よりも厳しい自然条件の中でその地域に根ざした独特の生活を積み重ねて今日に至っている。北海道が持つている特性を理解した上で、北方圏諸国との交流の中から学ぶべき点は学び取ることが重要であろう。それは何よりも、豊かな郷土づくり、北海道づくりを目指したものに他ならない。この北方圏交流は「手段」であって「目的」ではなかった。

道内から派遣される視察団、調査団、研修団による北方圏交流はさらに広範な広がりを見せていった。その内容も多岐にわたっている。衣・食・住などの生活に関する視察団、本道の文化あるいは日本の伝統文化の紹介に関する使節団、各種のスポーツ親善団や歩くスキー、カーリングといった新しい冬のスポーツ研修団、学術提携に伴う研究者の派遣、冬季及び寒地技術に関する調査団、サケを通じての学習や環境や自然について学ぶ青少年少女の交流団、経済視察団、友好親善を目的とした

を企画する。写真や実物資料による北方圏紹介展示会、また、講演会やセミナー等の各種催しの実施。このほか出版・広報の部門では、季刊「北方圏」誌の発行、単行本、グラフィ誌、小冊子の発行、調査研究では各種の専門調査の実施と報告書の刊行などを行っている。資料収集では関係図書、資料・パンフレット類の充実に努め、また、ビデオ、映画、スライド等の整備や英文ニュースなどの発行により、北海道と北方圏諸国との懸け橋としての役割も努めている。さらに、国際交流の一助にと語学研修講座も開講している。

◆「ソ連のホログラフイー展」開催

古代スキタイ人の芸術品記念物などのホログラフイーを集めた「ソ連のホログラフイー展」が6月1日から14日まで(勤)北海道日ソ友好文化会館で開かれた。主催は同文化会館、北方圏センターなど。初日のテープカットでは、ウクライナ科学アカデミー物理研究所のM・プロディン所長をはじめ多くの来賓を迎えたなかで、柴野安三郎同会館理事長が「ホログラフとして門外不出の美術品を、実物そのままに見られることは喜ばしいかぎり」とあいさつ。ホログラフは辞書によれば「立体写真」。会場に展示されたのは約100点。エルミタージュ美術館などに収蔵の美術品が薄明かりのほか、スポットライトに浮かび上がっている様は幻想的でもある。16世紀から19世紀までがメインの貴重な宝石金銀細工品が見られるとあって、見学に訪れた人々は「様にその美しさと、立体的に再現して見せてくれるホログラフ技術にため息をついていた。」

【北方圏】第68号

◆「北方圏住宅フォーラム・理想的な住環境計画」開催

北方圏センターでは設立当初からその活動の一つに寒地住宅問題を取り上げ、北方圏に住宅に関するさまざまな情報を道民や関係機関に提供してきた。この「住宅フォーラム」では、北欧諸国の住宅事情の歴史の変遷、人々の住まいに対する意識の変化、官民一体となって住環境の改善に取り組む、世界でもっとも住環境水準の高い国となったスウェーデンの例を分かりやすく語ってもらおうというもので、8月25日開催。スウェーデン王立建築家協会会員で王立スウェーデン芸術大学教授ヨーン・シヨウストローム氏が、「理想的な住環境計画について」を講演した。100枚のスライドを使いスウェーデンの歴史から住宅に対する考え

方、かつての住環境と現在の環境について、考え方の基本的な違いや問題点を説明した。会場の当センター国際会議場では100人程の参加者が熱心にメモをとっていた。 【北方圏】第69号

◆「北方圏センター活動紹介写真」出展

8月5日から13日までスウェーデン・ウメオ市(ストックホルムから北へ700km)で開催された「89ノリア国際見本市」に、ノリア国際見本市参加と北海道紹介展開催実行委員会に参加し、北方圏センターの活動を紹介する写真を出展した。

同国際見本市の「TOP OF JAPAN」と紹介された北海道ブースには、北海道、札幌市、北方圏センター、北方圏経済交流協会の写真や解説パネル、工芸品などで北海道を紹介したほか、北海道内の銀行、医療機器、防寒衣料、省エネルギー等の企業9社の製品等を出展した。北海道からの出展に地元は高い関心を示し、ノルドベルグ工業大臣やベストエルボッテン県ヨハンソン知事もブースを訪れ、熱心に説明を受けていた。同時に北海道から檜原泰明・北海道経済交流協会代表幹事を団長とするミッションを派遣し、同見本市会場でエネルギーセミナー、対日貿易セミナーを開催。地元の木材、家具、住宅資材、パルプ等の林産関係企業や医療、バイオ等の先端技術の企業関係者60名が参加するなど、日本・北海道への関心の高さを伺わせていた。 【北方圏】第69号

◆「89国際交流の集い(講演会、シンポジウム)」開催

北海道との共催による「89国際交流の集い」が10月20日、札幌プリンスホテルで開かれた。会場には約600人が詰めかけ、講演やシンポジウム、交流パーティーで国際的な視野を広げた。同集いは、道内での国際交流の気運の高まりと広がり

元	月	履
4	4	「北方圏諸国の建物スケッチ展」(NRC 展示室) 開催
4	4	「寒地住宅セミナー」(NRC) 開催(共催・北方圏住宅研究会、他)
5	5	「セミナー・デンマークと北海道の経済交流」(NRC) 開催(共催・デンマーク通商事務所)
6	6	「ソ連のホログラフイー展」(北海道日ソ友好文化会館) 開催(共催・北海道日ソ友好文化会館)
6	6	写真展「小石からコンピュータまで」(NRC 展示室、他) 開催(共催・在日カナダ大使館)
6	6	「デンマーク・オーフス大学日本語研修生10名受入」実施
8	8	「ロシアの憂愁・アントン・チエーホフ展」(北海道開拓記念館) 開催(共催・同実行委員会)
8	8	「ソ連極東セミナー」(講師：ソ連アカデミー極東経済研究所・ミナーキル・バーヴェル氏(NRC)) 開催
8	8	「北方圏住宅フォーラム・理想的な住環境計画」(講師：王立スウェーデン建築家協会・ヨーン・シヨウストローム氏(NRC)) 開催(共催・北海道建築士事務所協会、他)
8	8	「北方圏センター活動紹介写真」出展(スウェーデン・ウメオ市)
9	9	「ソ連の図書展」素顔のソ連」(北海道日ソ友好文化会館) 開催(共催・北海道日ソ友好文化会館)
9	9	「ノルウェー王国紹介写真展」(NRC 展示室) 開催(協力・スカンジナビア政府観光局)
9	9	「中小企業による北の国際シンポジウム・地方における国際経済交流」(旭川) 開催(共催・同実行委員会)
9	9	「北海道・マサチューセッツ州芸術交流会」

図るため、北海道はじめ、各種の国際交流を行っている機関・団体が一体となって実施する『国際交流月間』（毎年10月を設定の一環として実施されたもの。初めに女優の中井貴恵さんが「私のアメリカ530日」と題して基調講演。中井さんは米国・マサチューセッツ州ボストンで挙式、そしてハーバード大学に留学。その際の体験やエピソードを交えながら日米の文化の違いを語った。続いて、「ここが違う私の生活文化論」をテーマにシンポジウムが行われ、北方圏センター佐藤直一事務局長をコーディネーターに日本人、外国人合わせて5人のパネリストが日本と欧米の違いについて意見を発表し、熱心な討議がなされた。最後にこれらパネリストと参加者が一堂に会して交流会が行われ国際交流月間のメイン行事を締めくくった。

【北方圏】第70号】

◆「カール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下 来道記念シンポジウム」今日における環境問題への挑戦」開催

『名譽ある来賓の皆様、ご出席の皆様、環境は地球規模のグローバルネットワークであります。あらゆる人々と、あらゆる国民を結びつけています。1972年ストックホルムで開催された第一回国連人間環境会議のモットーは「かけがえのない地球」でありました。当時、私たちが憶測した以上に、これが正確な意味を持っているものとなったのであります。

真の問題はこういうことであります。明日の世界、すなわち100億人の人口を持った明日の世界は、どのようになるのでありましようか。すべての人間が住むために、本当に良好な環境を作り出すことができるのでしょうか。今日、資源の不足の結果、貧しい国々におきましては、環境の悪化が発生した反面、豊かな国におきましては、そ

のライフスタイルの結果、浪費し汚染が発生いたしました。しかし同時に、このことも明確であります。良好な高い生活水準とクリーンな環境を両立させる、結びつけることは可能であります。このためには、いわゆるクリーンな技術と、賢明な生活様式が必要なのであります。

歴史を通して、先進的・高度な工業社会が顕著に発展いたしました。これは環境に対して大きな影響を与えました。そして将来の破壊を回避するためには、人類は、その未来に対して責任を負わなければなりません。この惑星の本当の管理者にならないといけません。生存のために適した環境の保全は、チャレンジであります。これを一人、あるいは一カ国で、問題を解決することはできません。国際的なレベルで協力しなければいけません。日本やスウェーデンのような先進工業国は、特別な責任を有しています。これらの国々には、資源が存在しており、テクノロジを生み出すことができ、そして他国に模範を示すことができるのであります。すなわち、クリーンな大気や水、自然の保全のための模範となることができます。

私はこう確信しています。このセミナーは、日本とスウェーデンの間の今後のさらなる協力に向けての第一歩、そして重要な第一歩であると確信しております。優れた講演者、専門家がこの会議に集まっております、必ずやレベルの高いディスカッションが行われるのでありましよう。私はこの後の時間を大変楽しみにしております。

「今日における環境問題への挑戦」シンポジウムの開会をここに宣言します。」

\*シンポジウム「今日における環境問題への挑戦」（平成2年3月17日）の開催に当たって、カール16世グスタフ国王陛下のお言葉。

【環境問題シンポジウム報告書】平2・11刊】

3	3	3	2	2	2	2	2	1	11	10	10	10						
「しべつまちづくりフォーラム'90」（士別）開催	「中国経済交流セミナー」（講師：黒竜江省計画経済委員会・陳文業氏（NRC）開催	「カール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下来道記念シンポジウム」今日における環境問題への挑戦」（ホテルアルファサツポロ）開催（同実行委員会に参加）	「カナダの防寒衣料展」（NRC展示室開催（共催：J・Cトリース）このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を38市町村で開催	「カール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下来道記念シンポジウム」今日における環境問題への挑戦」（ホテルアルファサツポロ）開催（同実行委員会に参加）	「カナダの防寒衣料展」（NRC展示室開催（共催：J・Cトリース）このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を38市町村で開催	「名寄ミニ雪像コンテスト」（名寄）開催（共催：名寄青年会議所）	「下川町アイスキャンドルフェスティバル」（下川）開催（共催：同実行委員会）	「名寄ミニ雪像コンテスト」（名寄）開催（共催：名寄青年会議所）	「北方圏フォーラム」冬を楽しくの集い」（京王プラザホテル）開催（共催：同実行委員会）	「マサチューセッツ州紹介写真パネル展」（NRC展示室）開催	「アクセリガレンリカレラ絵画展」（札幌芸術の森）開催（共催：北海道フィンランド協会、他）	「北方圏住宅フォーラム・成熟高齢化社会の理想的な住環境」（講師：王立スウェーデン建築家協会・クリステイナ・ペルリン氏（NRC））開催	「北海道バイオセミナー」（北大学術交流会館）開催（共催：北海道バイオステージ実行委員会）	「89国際交流の集い」（講演会、シンポジウム）（講師：女優・中井貴恵さん（札幌プリンスホテル））開催（共催：北海道札幌アメリカンセンター）	「アメリカ農業セミナー」（講師：ミズーリ州立大学食糧・農業政策研究所・グレッグ・シューラー氏（NRC））開催（共催：札幌アメリカンセンター）	「アメリカ農業セミナー」（講師：ミズーリ州立大学食糧・農業政策研究所・グレッグ・シューラー氏（NRC））開催（共催：札幌アメリカンセンター）	「アメリカ農業セミナー」（講師：ミズーリ州立大学食糧・農業政策研究所・グレッグ・シューラー氏（NRC））開催（共催：札幌アメリカンセンター）	「アメリカ農業セミナー」（講師：ミズーリ州立大学食糧・農業政策研究所・グレッグ・シューラー氏（NRC））開催（共催：札幌アメリカンセンター）



◆「セミナー」「スウェーデンの男女平等とオンブズマン」開催

このほど来札したスウェーデン男女平等オンブズマンのグン・ノイマン女史を招いて5月25日、「スウェーデンの男女平等とオンブズマン」と題してセミナーを開催した。1809年に世界で初めてスウェーデンで制度化されたオンブズマンシステム(行政監察専門委員制度)は、各国で任命者、権限などの違いはあるが、今や制度導入を行う国が多くなっている。オンブズマンは、行政の監察や行政に対する苦情処理、調整などに大きな権限を持ち、日本でもこのシステムの研究、導入を進める自治体が多くなってきた。講演の中でノイマン女史は「オンブズマン制度を日本で説明するのは難しい」としながらも、スウェーデンにおけるオンブズマンの種類、歴史、また、自身の男女平等オンブズマンの仕事について男女差別の例を挙げ、苦情の85%は女性からのもので、その解決のため労働裁判所に提訴し被害者を弁護することであると、「オンブズマンの最も重要な目的は、男女を問わず人生の主要分野で権利、義務、機会をもてるよう努めること」を強調した。

【北方圏】第72号

◆「北海道・カナダ・アルバータ州姉妹提携10周年記念親善使節団派遣事業」実施

北海道とカナダ・アルバータ州との姉妹提携10周年を記念する行事を州都エドモントン他で開催するため、道内の関係機関約60団体で構成する「北海道・アルバータ州姉妹提携10周年記念親善使節団派遣実行委員会(委員長・東条猛猪、北方圏センター会長)」の事務局を北方圏センターが担当。この派遣事業はこれまでの10年間の地域間交流の実績を踏まえ、新たな交流の出発点にすること、北海道とアルバータ州政府がエドモントンで開催



する記念行事を側面から盛り上げるために、民間の親善使節団の派遣について2年前から計画されていたもの。9月10日から21日まで、北海道から市町村、団体、文化関係者ら総勢約700名が参加するアルバータ州訪問団の派遣実施となった。使節団は千歳空港からの2機のチャーター機

で直接エドモントンへ到着。現地時間13日から3日間にわたってエドモントン・コンベンションセンターで開催の「北海道デー特別展」は、日本の文化や北海道を紹介する催しで、人形、刺繍、活け花、ちぎり絵などの作品を展示。ステージでは和太鼓や琴、剣舞、書道、などが披露され、初日から大勢のエドモントン市民であふれた。また、同会場で開かれた「両地域の合同レセプション」には双方から約1000人が参加。横路北海道知事とホースマン州副首相が記念品を交換し、これからの交流の発展を誓い合った。使節団が滞在した期間中、州内の各地でさまざまな交流行事が開催され、エドモントン市内は北海道一色となっていた。

【北方圏】第72号

◆「ソ連極東経済セミナー」開催

9月25日から27日までの3日間、ソ連極東の対外政策と現状を総合テーマとして、北方圏センターで開催された。ソ連においては、ペレストロイカの一環として1978年に貿易の国家独占が打破されて以降、貿易権限の企業への解放や合併企業への解放や導入、さらには経済特区の設立が

2	開催(共催・同実行委員会)
4	国際理解セミナー「ECCと北海道」(講師・駐日ECC委員会代表部・マイケル・レイク氏(NRC))開催
4	「デンマークセミナー」(講師・オーフス市・ソーレン・ポールセン氏他(NRC))開催(共催・北方圏経済交流協会)
5	セミナー「スウェーデンの男女平等とオンブズマン」(講師・王国政府平等オンブズマン・グン・ノイマン女史(NRC))開催
9	「北海道・カナダ・アルバータ州姉妹提携10周年記念親善使節団派遣事業」(エドモントン、他)実施(同実行委員会に参加)
9	「ソ連極東経済セミナー」(講師・ソ連科学アカデミー極東経済研究所・ミナーキル・パーヴェル氏、他(NRC))開催
9	「第3回北方圏会議」(テラスカ州アンカレジ)へNRC職員派遣
10	「セミナー」地域活性化と国際空港(講師・マサチューセッツ工科大学・リチャード・スプリル氏(NRC))開催
10	「カナダ・アルバータ紹介写真展」(道庁道民ホール、他)開催
10	「シベリア展」(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催・北海道日ソ友好文化会館)
10	「北方圏3極バイオテクノロジー・シンポジウム」(北大学術交流会館)開催(共催・北海道バイオ産業振興協会)
11	「カナダ経済講演会」(講師・日本カナダ学会・岩崎力氏(NRC))開催(共催・北海道新聞社)
12	「ロシア文化セミナー」ドストエフスキーの人間本質論をめぐって(北海道日ソ友好文化会館)開催(共催・北海道日ソ友好文化会館)
1	「アルバータ州児童絵画展」(NRC)開催
1	「このほか、所蔵の展示資料貸し出しによる地方展を13市町村で開催」
1	「世界の北の教育と文化」講演会(小樽開

相次いでいる。極東地域はこの動きの中で、アジア・太平洋地域との経済関係を進展させることにより、地域経済の自立を図っている。また、北海道においては国際化、経済自立化はもつとも重視されるべき施策として位置づけられ、極東地域との経済関係は発展しつつある。セミナーは、このような情勢を踏まえて、両者間の産業交流がさらに発展することを目指して開催されたもの。講師には、ソ連科学アカデミー極東研究所所長P・A・ミナーキル氏、同副所長A・S・シェインガウス氏ら、専門家4氏が来道し、極東の現状について報告した。

【北方圏】第74号】

◆「地域魅力ゾーン形成プログラム」開催

北方圏センターでは、道内各地の地域活性化と国際交流を連動させた事業を推進するため、平成2年度から新しい事業として「地域魅力ゾーン形成プログラム」を実施した。これは、海外のユニークなスポーツやイベントを、道内各地のイベントや催事と結んで新しい発想の中から地域の活性化を考えてみようとの試みで、1月23日から30日まで、カナダB・C州からロギング(木こり)チャンピオンのブライアン・コーチャ氏とレス・スチュワート氏の2名が、26・27日、津別町で開催された「第8回つべつ冬まつり」(津別観光協会など実行委員会主催)に特別参加した。両氏は、高さ10mの丸太に登り先端を切り落とすまでにとったの15秒、チェンソーを自在に操り丸太から1脚のイスを作るのにおよそ3分、手斧を使った的当ての正確さ、種目は想像以上にバラエティーに富んだ本場の「ロギングショー」を披露。津別町及び近隣の市町村から集まった延べ8000人の観衆がチャンピオンの妙技を楽しんでいた。

【北方圏】第75号】

◆「フィンランド・ログハウスセミナー」開催

4月24日、北方圏センターでセミナー「フィンランドが誇るログハウス・環境と調和」が開催され、110名が参加した。講演では、フィンランドの建築家イオリ・グロテンフェルト氏がスライドを用いて日本建築とフィンランド建築の共通点やログハウスの古代からの流れ、建築様式などを紹介。続いて、ログハウスメーカーのホンカラケンネ社のエーロ・サーレイネン副社長が「フィンランドのログハウス産業」をテーマに、ログハウスのすばらしさとフィンランド国内の現状について解説した。また、ログハウスメーカー7社によるプレゼンテーションもあり、フィンランド側の熱意が伺われた。このセミナーは、北海道とフィンランドとの関係強化のためのプロジェクト第1弾で、今後テーマを変えながら各種事業が開催される予定。

【北方圏】第76号】

◆「日米の競争力」開催

セミナー「日米の競争力」が6月10日、KKR札幌で開催された。札幌アメリカンセンター、北方圏センター、北方圏経済交流協会の3者の主催で、70名が参加した。講師は、米国競争力評議会会長のケント・H・ヒューズ氏。講演でヒューズ氏は、競争力を決める要因の中で最も重要なのはテクノロジであるとし、米国の競争力の強い点、米国が競争問題の中で抱えている問題、さらに今後米国が国家として技術政策に取り組んでいく内容、日米の競争力のメカニズム等について詳細に述べた。ヒューズ会長の講演に続き、コメントーターの藤井栄一氏(小樽商科大学学長)による解説、モデレーターの野島和夫氏(北海道拓殖銀行常務)からコメントがあり、さらに参加者からの質疑応答を交えて、活発な意見が交換された。

【北方圏】第76号】

10	10	7	7	7	7	6	6	5	4	3	3	3	1	
「ソ連極東経済セミナー」(講師:サハリ石油天然ガス研究所・ウラジミール・ア	「寒地住宅セミナー」(共催:北方圏住宅研究会)	「国際交流シニア」(共催:札幌アメリカンセンター)	「女性の国際交流シンポジウム」(NRC)	「講演会」(実行委員会を構成)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(ワシントンポスト紙・ホワン・ウィリアムス氏)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)	「講演会」(最近のエスニック問題とその課題)

◆「北海道サケ会議」開催

「サケ」を通して、自然・生活・情操などの教育環境についての認識を深め、それを未来に伝えるようと、カナダB・C州からサケ学習交流団を迎えて10月14日、「北海道サケ会議」が北海道サケ友の会、北方圏センターの主催で開かれた。カナダからはセーブ・ザ・サーモン運動創始者のジム・マクドナルド氏ら4人、日本側からは札幌市豊平川さけ科学館の長内稔氏をはじめ道内サケの会7人、子供たちのサケ学習に取り組んでいる小・中学校から13人の教師が参加。それぞれの活動を報告し、交流を深めた。会議は、北海道でのカムバック・サーモン運動の創始者でもある吉崎昌一・さつぼろサケの会代表を議長に始められ、ジム・マクドナルド氏による「カナダのサケ保護市民運動の目指すもの」と題する記念スピーチに続いて、カナダの小中学校での活動報告、また、長内稔氏による「カムバック・サーモンのルーツ」豊平川の現状と将来」と題してさけ科学館の活動報告がなされた後、道内サケの会の活動報告、道内小・中学校13校から地域の特性、学校の規模を生かしたサケ学習の活動報告などが行われた。

【北方圏】第78号

◆「北方圏姉妹州4極バイオテクノロジージンポジウム」開催

「農業・食品分野におけるバイオ研究の現状と将来方向」をテーマに11月15日、北方圏センター国際会議場で開催された。北方圏センターでは、最先端の技術分野であるバイオテクノロジの研究推進は北海道にとつての重要課題の一つと考え、バイオ関係のセミナーを過去5回開催してきた。特に昨年度は米国・マサチューセッツ州、カナダ・アルバータ州、北海道の姉妹州3極によるシンポジウムを実施し、今回はさらに中国・黒竜江省

からの参加を得て姉妹州4極シンポジウムとして行われた。講師は、マ州のバイオテクノロジ協会のフェルナンド・ケサダ代表、ア州立研究所の金田敏代表研究員、黒竜江省東北農学院の王文超院長、道立中央農業試験場の相馬暁農芸化学部長。コーディネーターは北海道バイオ産業振興協会の江口良友会長。特に今回は、各州・省と北海道の共通の課題である農業と食品をテーマとして研究交流の推進、頭脳のネットワーク化、産業の推進等を視野に入れながら情報交換と論議が進められ、参加者は姉妹州各地域の実情等を直接聞くことができた。

【北方圏】第78号

◆「特別講演会 北海道とEC—これからの展望」開催

ECにおいては92年に市場統合すべく準備を進めており、この統合がなると、国際的に非常に大きな組織体となり、世界市場にとって大きな出来事となる。このような状況を踏まえ、北方圏センター、北海道経済連合会、北方圏経済交流協会などの主催で6月11日、駐日EC委員会代表部、ジャン・ピエール・レング大使を講師に迎え、札幌グランドホテルで開催された。大使は、EC委員会の要職を歴任され、ECについてのエキスパートであり、各国間の交渉にも数多く臨まれた経験豊かな方。講演では、ECが結束を強化しようとしている欧州、一つのヨーロッパの創設について語った。明日のECの課題は、機能できる一つの共同市場を作ることにある。この市場では、物、人、資金が何の生涯もなく交流し、機能できることが93年のECの姿である。ECのほかにもう2つ民主主義の安定勢力があるが、それは日本とアメリカで、この3極はより強い結束を持ち、産業の強い基盤と民主主義の制度を生かして世界に貢献していかなければならないことを強調した。そして、

4	6	4	3	3	3	2	2	1	1	12	11	11	10	10	
	「日米競争力セミナー」(NRC) 開催 (共催・札幌アメリカンセンター)	「特別講演会」北海道とEC—これからの展望」(講師:駐日EC委員会代表部大使・ジャン・ピエール・レング氏 (札幌グランドホテル)) 開催	「ロシア極東シンポジウム」(京王プラザホテル)開催(共催・北海道経済連合会、他)	「独立国家共同体(CIS)を考えるセミナー」(札幌アメリカンセンター)開催(共催・札幌アメリカンセンター)	「ロシア極東・北海道シャーナリスト交流会」(小樽、他) 実施	日本・スウェーデン「地域開発問題」シンポジウム(NRC)開催(共催・北海道開発局、他)	「国際理解セミナー」(NRC) 開催	「野々垣哲夫氏」(NRC) 開催	「国際理解セミナー」(NRC) 開催	「世界の北の教育と文化」講演会(小樽開催 (共催・小樽市教育振興会))	「東欧映画祭」(赤れんがホール)開催 (共催・朝日新聞北海道支社)	「北方圏セミナー」製造物責任制度」(講師:ヨーロッパ弁護士協会・アンソニー・スリングビー氏 (NRC)) 開催(共催・北方圏経済交流協会)	「北方圏姉妹州4極バイオテクノロジージンポジウム」(NRC) 開催 (共催・北海道バイオ産業振興協会)	「東欧映画祭」(赤れんがホール)開催 (共催・朝日新聞北海道支社)	「世界の北の教育と文化」講演会(小樽開催 (共催・小樽市教育振興会))



日本とECが協力できることとして、経済・通商面でのバランスの改善、多国間の貿易強化、旧ソ連に対する支援と対策、環境問題への貢献、開発途上国への援助など、具体的に5項目を挙げた。特に旧ソ連に対しては、北方領土問題を承知しており、ECとしても介入する準備があり、その立場を表明してきた経緯のあることを語った。

【北方圏】第80号

◆季刊「北方圏」創刊20周年記念号(第80号)発行  
昭和47年秋、北方圏調査会によって年4回発行の季刊誌として発刊された『北方圏』が80号という誌齢を数えた。この創刊20周年を記念して、北方



圏6カ国の駐日大使からメッセージが寄せられた。それぞれのお国と北海道の交流について、温かな励みや今後への期待が寄せられ、また、北海道知事はじめ道内各界の8名の方からもメッセージと祝辞が寄せられ特集として掲載した。また、「北方圏」誌の編集発行人でもある歴代事務局長の方々にお集まりいただき、折々の思い出と今後の提言を語ってもらう座談会を開催し集録した。この号では創刊号から前79号までの970名の執筆者(座談会等の出席を含め)を紹介するコーナーを設けた。

【北方圏】第80号

◆マサチューセッツ・センター・オブ・エクスゼレンス・コーポレーションとの間でバイオテクノロジー研究協力交流について協定締結

9月10日から18日までの9日間、「友好の翼」として横路知事をはじめさまざまな分野を代表する

およそ280名が姉妹州である米国・マサチューセッツ州を訪問、「北海道ウィーク」の開催などを通して相互の一層の友好・親善、相互理解の輪を広げた。北方圏センターではこれを機に、マリノバイオをはじめ2冊の先端技術分野コーディネイト機関マサチューセッツ・センター・オブ・エクスゼレンス・コーポレーションとの間で同11日、研究協力に関する覚書に調印した。また、北海道から北大農学部・富田房男教授、道立中央農試生化学部・関谷長昭部長、道立中央水試増殖部・西川良信部長が出席し、同コーポレーションと共催してバイオテクノロジーのシンポジウムを開催した。

【北方圏】第82号、「93年報」

◆「ロシア極東地方企業経営指導者育成支援事業」実施  
本事業は、平成2年に当時ロシア共和国と北海道との間で締結した「北海道とロシア共和国との友好的パートナーシップに関する合意書」に基づき採択された「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」の一環の事業で、極東地域(沿海地方、ハバロフスク地方、サハリン州)から9名の企業関係者を北海道に招き、日本経済・北海道経済の現状、流通、各種産業について研修を行い市場経済の実態についての理解を深めてもらい、極東における市場経済化を支援しようというもので、北方圏センターが北海道の委託を受けて初めての実施となった。今回の来道者は8名で、年齢も30歳から54歳の男性6名、女性2名。日本・北海道経済、行政、金融・財政、市場経済、流通など11の講義、金融機関や卸売市場などの関連施設の視察などが行われた。講義と視察に伴う質疑応答では、活発に質問、意見が出され、研修生の意気込みと積極的な姿勢がうかがわれた。

【北方圏】第82号

6	「講演会：北海道とスウェーデンとの経済交流」(講師：元スウェーデン・ノルドランド基金総裁・ヨアキム・ハーツベリー氏(NRC))開催
6	「北太平洋の共生と協力：日米・CISBプログラム」(講師：コロンビア大学ソ連研究所・ロバート・レグブオール氏(NRC))開催(共催：札幌アメリカンセンター)
6	「国際理解セミナー」(講師：外務省・丹波實氏(NRC))開催
6	「デンマークのデザイン建築セミナー」(講師：デンマーク通産大臣・アネ・ルンホルト氏、他(NRC))開催(共催：デンマーク通商事務所、他)
7	季刊「北方圏」創刊20周年記念号(第80号)発行(特集：北方圏各国大使からのメッセージ)
8	「地域魅力ゾーン形成プログラムinかなやま湖」(南富良野)開催
9	「フィンランド独立75周年記念セミナー」(札幌国際プラザ)開催(同記念事業連絡協議会に参加)
9	「世界の北の教育と文化」(小樽)開催(後志地区北方圏交流推進委員会、他)
9	「ロシア極東経済セミナー」(講師：ロシア科学アカデミー極東経済研究所・シェイナウス氏、他(NRC))開催(共催：北海道新聞社、他)
9	「マサチューセッツ・北海道ウィーク」派遣事業(マサチューセッツ州)実施(同実行委員会に協力)
9	マサチューセッツ・センター・オブ・エクスゼレンス・コーポレーションとの間でバイオテクノロジー研究協力交流について協定締結(マ州ハーバード大学)
9	「ロシア極東地方企業経営指導者育成支援事業」(札幌、他)実施(委託：北海道)「平成14(2002)」(完結)
9	「ライラ・ルイス・アーヴィング版画展」(NRC)開催(共催：北海道開拓記念館)

◆「北方圏ヤングトークイン」開催

「日露間の異文化コミュニケーション」両国民の相互理解をいかに進めるか」をテーマに3月18日、札幌かでる2・7の研修室を会場に「北方圏ヤングトークイン」が開催され、学生を中心に一般参加を含めた約60名が参加した。基調講演では北大スラブ研究センターの望月喜市教授が「若いうちに見聞を広げておくことが新たな発想につながる。その努力をすることが必要」と提言。パネルディスカッションでは在札幌ロシア連邦総領事がロシアの教育問題に触れ「イデオロギーに基づいた旧ソ連の教育から、人間としてどうあるべきかの教育に変わる過渡期にあるので見守っている」との見解を示した。また、(株)粧連の西脇社長が「互いに信頼関係と互いの文化を認識し理解し合うことが大切」と提言した。

【北方圏】第83号

◆北海道・ノルウェー合唱団交流コンサート「北を歌うクワイア交流の夕べ」開催

北海道とノルウェーとの親善と文化交流の推進のため、ノルウェーの大作作曲家エドヴァルド・グリーグ生誕150周年を記念して初来日する合唱団「スコラ・カントールム」を北海道に招き、北海道の代表的市民コーラスとして活躍する「札幌アカデミー合唱団」との「北を歌うクワイア交流の夕べ」が、4月8日、ザ・ルーテルホールで開催された。「スコラ・カントールム」は1964年オスロ大学に創設され、同大学音楽研究所の活動の一翼を担っており国外での活動も数多い。特にノルウェーの作曲家の作品紹介に力を入れており、今回は北欧音楽協会世話人の大東省三氏とともに同音楽研究所のアルウイド・ヴォルスネス教授、指揮のコーレ・ハンケン氏はじめ男性12名、女性16名の総勢30名で来札。「札幌アカデミー合唱団」は

1984年に創設で、PMFはじめ、積極的な活動をしている市民合唱団。交流コンサートでは、スコラ・カントールムの女性たちの美しい民族衣装(アーナッド)に目を引かれ、初めて聴くノルウェー語の歌声(混声合唱)と、民族楽器フイドルの調べ。そして、札幌アカデミーの荘嚴な歌声。最後に舞台いっぱい2つの合唱団全員によるハーモニーに、集まった200名の市民は酔いしれていた。

【北方圏】第84号

◆「文化講演会」開催

北方圏センター、北海道新聞社、名寄市国際交流推進連絡協議会の3者の共催で、講師に女優の栗原小巻さんを迎えて名寄市のホテルで4月19日、『私の国際文化交流』と題して文化講演会を開催した。栗原さんは舞台、テレビ、映画で活躍しゴールデンアロー賞などを受賞するなど、多くのファンを魅了しており、日ソ合作映画「モスクワわが愛」「白夜の調べ」などに主演、国際女優としての活躍もめざましい。また、ポリオ(小児マヒ)撲滅基金キャンペーンにも取り組んでいる。講演で、栗原さんは、自らのロシアや中国の映画人との交流を中心に、エピソードを紹介、国境を越えた人と人とのつながりの大切さ、温かさを強調した。終わりに、感銘を受けたというフランスのエディット・ピアフの自伝を朗読。叙情豊かな声と、また朗読の合間にシャンソンを2曲披露して、会場を魅了した。最後に、日本の国際協力にふれ「現在、日本は援助する側みたいで、援助してやっているんだ」と言う気持ちのどこかにある。してやっているとこの心ではなく、させてもらっているという気持ちが大切なのでは」と講演を終えた。集まった市民700人は、また一つ新しい魅力を栗原さんに発見したようだった。

【北方圏】第84号

5	4	4	3	3	11	11	10	10	10
北海道・ノルウェー合唱団交流コンサート「北を歌うクワイア交流の夕べ」(ザ・ルーテルホール) 開催	「文化講演会」(講師：女優・栗原小巻さん(名寄、他)) 開催(北海道新聞社、他)	「マサチューセッツとのパイオ研究(水産関係者来日) 交流」(佐呂間、他) 実施	事務局に「企画部」を新設	「イスイット・アート展」(北海道開拓記念館) 開催(共催：北海道開拓記念館)	「アラスカ・ジュニア北海道訪問団受入」(西興部、他) 実施	「ロシア連邦及びロシア極東エネルギーセミナー」(講師：ロシア鉱物資源埋蔵量委員会・ウラジーミル・ベイグレンコ氏、他(NRC)) 開催	「国際先住民年記念シンポジウム」(北海道開拓記念館) 開催(共催：北海道開拓記念館)	「NRC会員海外旅行」招待派遣(米国・アラスカ州、2名)	「カナダ・ブラックフット・インディアン展」(北海道開拓記念館) 開催(共催：北海道

◆「国際社会福祉シンポジウム」開催

「21世紀へのパスポート・社会福祉の現状と課題を展望する」をテーマに、スウェーデン、カナダ、米国、オランダなど8カ国から社会福祉の専門家ら16名と日本の専門家を招いて8月26日から29日までの4日間、札幌、紋別を会場に、道都大学、北方圏センター、北海道新聞社の3者の主催で開催。札幌の道新ホールでは、開会式に続いて日本社会事業大学学長の三浦文夫氏が「変わりゆく社会と福祉」と題して基調講演。今後確実に想定される少産少子という人口構造と高齢化社会の進展を見据え、ケア問題やケアサービスは行政だけでなく地域住民全体が取り組まなければならない重要な問題と指摘した。続いて行われた「福祉システムが直面する教育・経済・政治的課題」(会場・道新ホール)、「21世紀に向けた公的施策の展開」(会場・北方圏センター)、「コミュニティにおける人的社会資源の確保」(会場・同)、「変化する家族とコミュニティ」の中での社会福祉(会場・紋別市民会館)の4つの分科会では、各国の事例発表や今後の施策、国際社会福祉のネットワーク作りなどについて熱心な討論が交わされ、いずれの会場も多くの参加者であふれ、関心の高さを示していた。

◆「北方圏」第85号

◆「北欧シンポジウム」開催

北方圏センター、道経連、北方圏経済交流協会の主催で「北欧シンポジウム」が11月22日、札幌全日空ホテルで約150人を集めて開催。北欧3国からパネリストを招き、北欧諸国と北海道との経済交流について意見を交換した。パネリストは、在日スウェーデン大使館経済担当参事官カールヘンリック・ハムリン氏、デンマーク通商事務所(札幌)所長オーレ・ソレンセン氏、フィンランド通商産業省の援助を受けて札幌に設立されたアルト

・コンサルタント社代表アルト・ペランダー氏の3氏。パネルディスカッションに先立って、北海道東海大学の川崎一彦教授が基調講演を行い、「北欧は生活福祉とともに機械産業が発達した経済大国であり、日本への関心が高い」と指摘、経済交流の拡大を訴えた。また、国際化について「国の役割が小さくなって、州・県・市・地域レベルの国際化の時代になってきている。これからは、心際」とも言うべき心の国際化も出てきて良いのでは」と提言した。この後、パネリストが北欧諸国から北海道に輸出されている製品や将来有望と思われる企業を紹介。本道と北欧との経済交流促進について意見が出された。

◆「北方圏」第86号

◆「フルートとピアノによる小品の調べ」開催

ノルウェー出身でドイツのウルム・オペラハウスで活躍するフルート奏者ラルス・アスピヨルンセン氏と、一緒に演奏活動をしているピアノ奏者でフランクフルト国立音楽大学教師の武田牧子さんを招いて、小品による室内楽の夕べを4月13日



(札幌)、14日(上湧別)の両日開催した。上湧別町文化センターでは、日頃、海外音楽家の生の演奏にふれる機会が少ないこともあって、260人が詰めかけた。演奏曲目はギリグの小品はじめバッハから現代曲まで6曲。またアンコールにちなんで日本の曲3曲を披露し、聴衆を魅了した。

◆「北方圏」第88号

6	2	2	1	1	1	12	11	11	10	10	9	9	8	
道開拓記念館	「国際社会福祉シンポジウム」(紋別、他)開催(共催・道都大学、他)	「北海道アルバータ州姉妹都市連絡会議」(NRC)参加	「第1回北方圏フォーラム」(ノルウェー・トロムソ市) (NRC会長派遣)	「中国姉妹州交流研修生(観光業務)受入」実施(中国・黒竜江省・相互交流事業)	「フィンランドセミナー」・北極圏の人々と文化」(NRC)開催(共催・北海道フィンランド協会)	「北方圏住宅セミナー」..住まいづくりのポイントと生涯住宅」(北海道建設会館)開催(共催・北方圏住宅研究会)	「共催・北海道経済連合会、他	「北欧シンポジウム」(全日空ホテル)開催(共催・北海道経済連合会、他)	「北方圏経済セミナー」(教育文化会館)開催(共催・国際経済適字生協会)	「バイオテクノロジー」講演会(講師..マサチューセッツ・センター・オブ・エクスセンス・コーポレーション・フェルナンド・ケサダ氏(NRC))開催	「旭川寒地住宅セミナー」(旭川)開催(共催・北方圏住宅研究会)	「世界の北の教育と文化」(小樽)開催(小樽教育振興会、他)	「サハ共和国についての講演会」(講師..ロシア連邦サハ共和国副首相・アレクシビン氏(NRC))開催	「米国設計セミナー」(NRC)開催(共催・在札幌米国総領事館、他)
ノルウェーコンサート「フルートとピアノによる小品の調べ」(上湧別、他)開催	「ボタニカルアート押し花展」(NRC展示室)開催	「ボタニカルアート講習会」(講師..押し花作家・武田良子氏(NRC))開催	「米国・日本・ロシア三極安全保障セミナー」開催											



◆「北方圏セミナー…スウェーデンの暮らしに生かす手工芸品」開催

スウェーデン大使館からメッタークリスティーナ・ヴァールクビスト大使夫人を迎えて11月8日、同大使夫人とエヴァ・パリエ公使夫人の企画と展示になる『スウェーデンの伝統的な織物とレース展』の開催に合わせて企画された。「スウェーデンの文化を是非を紹介したい」と伝統的なコスチュームで講師を務められたヴァールクヴィスト夫人は、レースや織物にはスウェーデン各地のそれぞれに伝承された文様や色合があつて、それが母から娘、孫へと伝えられ、生活の豊かな潤いになつてゐることなどを、ご自身で製作したスライドを用いて説明。スウェーデンの伝統文化への一層の理解が深まつていた。【『北方圏』第90号】

◆「北方圏理解セミナー…モンゴルからの便り」開催

これまであまり知られていないモンゴルを理解しようとして12月22日、駐日モンゴル大使館の一等書記官ルフサンドーギン・ダシプレフ氏を講師に迎え開催。モンゴルは1992年、新憲法に基づいてモンゴル人民共和国からモンゴル国となり、新しい国を建設中だが、ダシプレフ氏は流暢な日本語で「市場経済移行期にあるので経済は厳しい状況で、自力では困難で協力を必要としており、特にインフラの整備には日本の援助をお願いしたい」と訴えた。また「観光産業にも力を入れありのままのモンゴルを世界の人々に楽しんでもらいたい。気候の似ている北海道との交流を大切にしたい」と語つた。【『北方圏』第91号】

◆「北海道国際センター」の管理運営の受託を承認（北方圏センター第3回理事会）

北方圏センターの平成6年度第3回理事会が1

月20日、北方圏センター国際会議場で開かれ、国際協力事業団（JICA）によって札幌、帯広両市に設置される「北海道国際センター」の管理運営を北方圏センターが引き受けることを承認した。国際センターは、開発途上国の行政担当者や技術者を中、長期にわたつて宿泊研修させる施設で、地域の国際化推進の拠点としても利用してもらう。研修所は昨年9月から、札幌市白石区本通り16丁目の市交通局営業所跡地と帯広市西20条南6丁目の帯広の森内に建設され、今年12月に完成、来年度オープンする。主な受託業務は、研修の実施のほか会議室や宿泊所、機材などの施設管理、施設の維持保守、研修員の福利厚生など。また、この受託にともなつて、これまでの北方圏諸国との交流推進を基軸としながら「その他の諸外国との交流も進め」ていくことが了承された。これらの承認事項は監督官庁の道開発庁と協議し、5月に開催の通常総会で議決する予定である。【『北方圏』第91号】

◆「北方圏理解セミナー…バイキングの文化と民族音楽の調べ」開催

駐日ノルウェー大使ご夫妻を招いての北方圏理解セミナーが2月17日北方圏センター国際会議場で開かれた。講師はヨン・ビョルネビー大使とエレン夫人。ビョルネビー大使は、駐ニューヨーク総領事から94年10月に着任で北海道訪問は初めて。講演の中で「バイキングとは海賊のイメージが一般的だが、他方で交易や友好的な活動も行い、多くの国に文化、社会、言語的な影響を残した」と述べ、彼らの豊かな文字、優秀な造船技術、軍事知識、平等な社会組織などについてスライドを使って紹介した。この講演の合間に、民族衣装（ブーナッド）を着たエレン夫人がフルート演奏を披露した。夫人はオスロフィルハーモニー管弦楽団の主

7	7	7	9	11	11	11	11	11	11	11	12	12	1	1	2	2
「(NRC)開催(共催：北大スラブ研究中心ター、他)	「トワイライト講座・モンゴルの今」(講師：モンゴルタイムス・チョナイ・克蘭ダ氏(NRC))開催(共催：J-move)	「極北のイヌイトアート展」(道立近代美術館 開催(同実行委員会に参加))	「中国姉妹州交流研修生(観光業務1名)受入」実施(黒竜江省との相互交流事業)	「北欧の先住民族サーミの話と演奏の夕べ」(講師：ヘルシキ大学・イリヤ・セウルヤルビカリ氏、他(札幌バームホール))開催(共催：北海道フィンランド協会)	「NRC会員海外旅行」招待派遣(中国・黒竜江省、他、2名)	「スウェーデンの伝統的な織物とレース展」(NRC展示室)開催	「北方圏セミナー…花・ベルツと異文化への理解」(講師：在独・ベルツ研究会・眞寿美・シユミツト氏(NRC))開催	「北方圏理解セミナー…スウェーデンの暮らしに生かす手工芸品」(講師：駐日スウェーデン大使夫人・メッター・クリスチーナ・ヴァールクビストさん(NRC))開催	「北方圏住宅セミナー…豊かな生活と換気設計」(北海道建設会館)開催(共催：北方圏住宅研究会)	「ムーミン絵本展(駐日フィンランド大使館所蔵)」(NRC展示室)開催	「北方圏理解セミナー…モンゴルからの便り」(講師：駐日モンゴル大使館・ルフサンドーギン・ダシプレフ氏(NRC))開催	「帯広寒地住宅セミナー」(帯広)開催(共催：北海道住宅研究会)	「北海道国際センター」の管理運営の受託を承認(平成6年度NRC第3回理事会)	「シンポジウム…中国経済の現状と北海道との交流の可能性」(札幌ガーデンパレス)開催(共催：北方圏経済交流協会、他)	「北方圏理解セミナー…バイキングの文化	

席フルート奏者を務めたことのある本格派。集まった約80人の市民は美しい調べに聞き入り、講演と演奏をミックスした初めてのセミナーを楽しんだ。

【北方圏】第91号】

◆3極(アルバータ州・黒竜江省・北海道)カーリング交流として黒竜江省へ指導者を派遣

北方圏センターは北海道カーリング協会などとともに、3月11日から5日間、中国黒竜江省の省都・ハルビン市で、カーリング競技の指導を行った。姉妹提携をしている北海道、カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省の3極間交流事業の一つとして企画され、中国のカーリング導入は初めて。指導に当たったのは北海道カーリング協会会長の土居博昭氏(北方圏センター副会長)と日本カーリング協会A級インストラクターの阿部周司氏(北海道常呂町職員)。また、アルバータ州からもアイスメーカーのドン・エドワード氏が参加した。この講習会は、北方圏センターが3地域間の交流事業として黒竜江省でのカーリング講習会の開催を提案。北海道から指導者を派遣すること、アルバータ州からはカーリングストーンなど用具2セット寄贈することで実現した。講習会は、アルバータから寄贈されたばかりの用具を使って、ハルビン氷上訓練基地で行われた。黒竜江省外事弁公室と省体育運動委員会が中心となって実施されたことから同省ばかりでなく、吉林省遼寧省からも駆けつけ、定員を超



え63人が集まり、関心の高さを示した。この中には、体育学院(日本の体育大学)の助教教授や、スピードスケート、アイスホッケー、フィギュアスケートなどの冬季スポーツ選手も多く、熱心に講習を受けていた。カーリングは、1998年に開催される第18回冬季オリンピックの長野大会において正式種目になることから、中国においても関心が高く、黒竜江省の関係者は「これを機に競技者の育成に力を注ぎたい」と話していた。

【北方圏】第92号】

◆「第2回北方圏フォーラム・総会」開催に参画

北方圏地域に共通する課題や北方圏地域に影響を与える世界的規模の問題の解決を図るため、北方圏地域の地方政府の協力と参加によって設立された「北方圏フォーラム」の第2回総会が、9月11日から4日間札幌市と赤井川村で開催された。「北方圏の新しい発展をめざして」をメインテーマに、初のアジア開催となった会議には10カ国17地域から約300人が参加、特にロシア連邦サハ共和国は大統領特別機で100人を超える大代表団を送り込んできた。

総会は2年に一回加盟地域の持ち回りで開催され、日本、カナダ、米国、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、ロシア、モンゴル、中国、韓国、の10カ国から代表が参加した。今回はモンゴルのドルノド地方からバック知事が設立総会以来初めて参加し、黒竜江省からは田省長、韓国も本国から金外務長官特別補佐官が出席するなど、フォーラムへの期待感の大きさを示した。今総会では、今後フォーラムの活動のあり方について活発な議論が交わされ、経済交流促進のため「北方圏経済人会議」などの創設や環境モニタリングを進めることなどを盛り込んだ「北海道宣言」採択した。

【北方圏】第94号】

7	6	6	6	6	6	7	7	7	8	8	9	9	9	9
「ノルウェーの民族衣装・ブーナット」(駐日ノルウェー王国大使館所蔵展) (芸術の森美術館開催 共催・ノルウェー王国大使館、他)	「アラスカ州ジュノー市青少年北海道訪問団受入」(長万部、他 実施)	「オーロラ・トーク・メロディは自然のささやき」(帯広開催 共催・帯広デザイン協議会、他)	「北海道フェスティバル in アルバータ」(エドモントン市)開催 同実行委員会に参加	「NRC 会員海外旅行」招待派遣(カナダ・アルバータ州友好の翼参加、2名)	マサチューセッツ州との研究交流開始。道内試験研究機関代表者マ州訪問	「セミナー・デンマークの対日経済関係と地域振興政策」(講師・デンマーク通商産業省・イェンス・ピトラップ氏 (NRC)) 開催 (共催・ジェトロ北海道貿易情報センター、他)	「第2回北方圏フォーラム・総会」(札幌赤井川) 開催に参画	「北方圏フェスティバル'95・展示会・交流会・子ども絵画展」(京王プラザホテル) 開催 (同実行委員会に参加)	「北方圏フェスティバル'95・特別講演会」(講師・国連環境計画事務局次長・ルーベ					

◆「北東アジア平和友好交流シンポジウム」開催

北方圏センターは、平成7年が戦後50年という節目に当たることから、21世紀に向けた、本道と関係の深い北東アジア地域の平和と、今後の交流のあり方や北海道の果たすべき役割について考えようと10月25日に開催した。会場のホテル・札幌ガーデンパレスには350人を超す市民が集まり、関心の高さを伺わせた。直木賞作家の深田祐介氏による「北東アジア事情」と題する基調講演では、「北方圏」という「圏」の構想が時代を先取りする先見性に満ちた画期的な構想と感したことや、「圏」の構想は民族、国家の枠を離れて、近隣する各地域が独自の構想を持って交流を推進することであり、この視点に立つて、北海道を取り巻く北東アジアの国々と地域が理解し、協力し合うことが平和への道につながることを強調した。また、中国、モンゴル、韓国、ロシア、北海道の5カ国8地域から専門家を迎えたパネルディスカッションでは、「北東アジアの国々・地域の信頼のネットワーク作り」など、意見や提言が出された。

【北方圏】第94号

◆「留学生ふれあいトークin北海道」開催

北方圏センターは北方圏交流だけでなく、国際協力の面での活動も視野に入れて、全世界の国々との交流を推進することとし、その一環として初めての留学生支援事業を企画し、3月14・15の両日、札幌及び近郊の大学に学ぶ15カ国47名の参加を得て留学生ふれあいトークin北海道を実施した。

大雪青年の家に滞在し、地元シルバーの方々とゲートボール交流、旭川の大学生とのスポーツ交流、北海道での生活についてのディスカッションの場を用意し、普段考えている北海道や日本についての意見を出してもらった。意見の中には、我々日本人にとって耳のいたいいもの、目から鱗が

落ちるようなものなど、有意義なものばかり。私たちはこの意見を真摯に受け止めることが重要であることを痛感します。今後も北方圏センターの事業として継続的に開催し、直接的、間接的に留学生の支援を続けたいと考えています。

【留学生ふれあいトークin北海道】報告書

◇「北方圏センター語学研修講座」閉講

北方圏センター新施設オープンの昭和53年に開設され、会員に親しまれてきた「北方圏語学研修講座」が、施設改築のため3月をもって閉講した。当語学講座は、北大をはじめ市内の大学教授や外国人教師の方々に講師に、英語を中心とした5コース(平成7年4月からはロシア語も開設と、英語(初・中・上級)はもちろん、フィンランド語、スウェーデン語、ロシア語、中国語などを独習テープを利用して自ら学ぶ独習コースが設けられ、開設以来18年の両コースを合わせた受講生は延べ4636人、また、担当した講師は24名のほり、札幌大学助教授で後に在札幌アメリカ合衆国総領事となるマリー・シェーファーさんも本講座の講師を務められている。受講生は思い思いのペースで週1回の講座を楽しんでいたが、「ハロウィン」「秋の収穫祭」「イースター」などのテーマで全員が参加する親睦パーティーでは、日頃会うことのない別の曜日の受講生と話し合うのも大きな楽しみともなっていた。市中の英会話学校が発展する以前に、「北方圏センター語学研修講座」が果たした役割はきわめて大きいものであった。



《次頁参照》

10	10	11	11	11	10	10	3	3	3	3	3	3	2	11	11	11	10	10	10	
ン・オレンボ氏(かでる2・7)開催(同実行委員会に参加)	「北東アジア平和友好交流シンポジウム」(基調講演講師:作家・深田祐介氏、パネリスト:5カ国8地域8名(札幌ガーデンパレス))開催(共催:北海道)	「北海道の国際交流の歩み写真展」(札幌ガーデンパレス)開催(共催:北海道)	「セミナー」冷戦後の日米安全保障関係(講師:アリゾナ州立大学・シエルドン・サイモン氏(NRC))開催(共催:札幌アメリカンセンター)	「北方圏住宅セミナー」暖房と換気の設計(北海道建設会館開催(共催:北方圏住宅研究会))	「講演会」最近のロシア情勢(講師:駐ロシア大使・渡邊幸治氏(NRC))開催(共催:北海道)	「セミナー」ライシャワー・ハルと日本の若者(講師:北海学園大学・パトリシア・ギブンス氏(NRC))開催(共催:「novel」)	「剣持小枝・桐壺人形展」(NRC展示室開催)	「ロシア・エネルギーセミナー」(講師:ロシア連邦燃料電力省・アレクセイ・マステバノフ氏(NRC))	「黒竜江省カーリング競技普及指導事業」(中国・黒竜江省・指導者派遣実施(共催:北海道体育協会))	「留学生ふれあいトークin北海道」(美瑛・大雪青年の家「15カ国47名」開催)	「水彫刻制作指導者派遣」(ロシア連邦サハ共和国イルクーツク市)実施	「北方圏センター語学研修講座」閉講	NIS支援「日本センター成績優秀者招聘事業(3カ所15名)」(札幌、他)実施(委託・外務省、支援委員会)【平11(1999)迄継続】							



## 北方圏センター語学講座《昭和53年～平成7年》

### □ 講 師 [所属は、担当時のもの]

《 英 語 》				
氏 名	性別	国籍	所 属	在籍
北 市 陽 一	男性	日本	北大文学部 教授	昭53～55
山 中 燐 子	女性	日本	札幌市成人学校講師、後 静修短大助教授	昭53～58
マリー・シェーファー	女性	米国	札幌大学 助教授	昭54～59
高 橋 宣 勝	男性	日本	北大言語文化部 助教授	昭54～55
斉 藤 彩 子	女性	日本	会議通訳、札幌国際大学 講師	昭54～57
カレン・シャルフェーエフ	女性	米国	元北海道インターナショナルスクール校長	昭54～58
ステファン・ハスブロック	男性	米国	北海道インターナショナルスクール理事、宣教師	昭55～56
エドワード・ボーラー	男性	米国	北大 外国人教師	昭56～平元
ロバート・クンツ	男性	米国	藤女子大 助教授	昭57～59
新 壽 春	男性	日本	会議通訳者	昭58～平元
スザンヌ・米坂	女性	米国	札幌女子大 講師	昭58～平元
マシュー・ハンレイ	男性	米国	北大 外国人教師	昭59～平2
バリー・サンダース	男性	米国	藤女子大 講師	昭60～61
シェリー・小田	女性	米国	静修短大 講師	昭60～63
ジム・アリスン	男性	カナダ	札幌大学 外国人教師	昭62～63
ポール・ステイプルトン	男性	カナダ	北大 外国人教師	昭62～63
三 上 郁 子 (加島)	女性	日本	会議通訳者	昭63～平7
ロバート・グレイバー	男性	米国	札幌大学 講師	昭63～平3
デール・アン・佐藤	女性	米国	北星大学 助教授	平2～7
ダン・ヒンクلمان	男性	米国	道教育大学 外国人教師	平3～7
ディル・シナー	女性	米国	札幌大学 講師	平4～7
ジル・サザナミ	女性	米国	英語教材制作者	平4～7
アンドリュウ・マグダーウェル	男性	米国	北海道インターナショナルスクール教師	平6～7
《 ロシア語 》				
アンドレイ・ベロフ	男性	ロシア	元サンクトペテルブルグ大学助教授	平7

### □ 受講者数

年度	西暦	学期		英語	独習	ロシア語	合計 (延人数)
		(独習を除くコース数)		受講者数	受講者数	受講者数	
昭和53	'78	後期のみ (2)		44			44
	'79	前期 (8)	後期 (6)	218	24		242
	'80	前期 (6)	後期 (6)	226	47		273
	'81	前期 (7)	後期 (6)	206	45		251
	'82	前期 (6)	後期 (6)	250	48		298
	'83	前期 (6)	後期 (6)	217	39		256
	'84	前期 (6)	後期 (6)	280	44		324
	'85	前期 (6)	後期 (6)	309	37		346
	'86	前期 (6)	後期 (6)	267	28		295
	'87	前期 (6)	後期 (6)	251	42		293
	'88	前期 (6)	後期 (6)	249	41		290
平成元	'89	前期 (6)	後期 (6)	252	36		288
	'90	前期 (5)	後期 (5)	240	20		260
	'91	前期 (5)	後期 (5)	215	34		249
	'92	前期 (5)	後期 (5)	237	25		262
	'93	前期 (5)	後期 (5)	194	46		240
	'94	前期 (5)	後期 (5)	177	25		202
	'95	前期 (5)	後期 (5)	145	32	46	223
合 計				3,977	613	46	4,636

# 第IV章

## 国際協力への拡大

義を持つことになった。

国際交流としての幅を広げたことは、本道の国際化の推進に大きな意義を持つことになった。

見交換会で発表してもらったが、「日本人は、外国人に見える外国人には優しいが、外国人に見えない外国人には、関心を持たないようだ」との、耳の痛い指摘もあった。

国際交流として、平成8年3月に第1回を実施、以来継続することになる。

本事業に参加した留学生は15カ国47名。出身はアジア、北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、改めて北海道も国際社会のまっただ中に位置しているのを認識する。小旅行を通して地域の人々とふれあい、勉強を離れて北海道を楽しんでもらうとともに、普段考えている北海道や日本について、アンケート、感想文、意見交換会などで発表してもらったが、

「日本人は、外国人に見える外国人には優しいが、外国人に見えない外国人には、関心を持たないようだ」との、耳の痛い指摘もあった。

国際交流としての幅を広げたことは、本道の国際化の推進に大きな意義を持つことになった。

定款の一部変更に伴い、北方圏センターの事業活動の幅が広がった。「グローバル化」「地球市民」という言葉が一般的に使われるようになっており、国際交流団体として世界の人々との交流も推進していくこととなるが、留学生への交流支援事業「留学生ふれあいトーク・イン北海道」もその一つ。平成8年3月に第1回を実施、以来継続することになる。

本事業に参加した留学生は15カ国47名。出身はアジア、北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、改めて北海道も国際社会のまっただ中に位置しているのを認識する。小旅行を通して地域の人々とふれあい、勉強を離れて北海道を楽しんでもらうとともに、普段考えている北海道や日本について、アンケート、感想文、意見交換会などで発表してもらったが、

「未来」への貢献を目指し、



新たな分野に挑戦しています。

**RYUBUNDO CO., LTD.**  
**株式会社 龍文堂**

本社 / 〒006-0832 札幌市手稲区曙2条5丁目2番54号 TEL 011-682-1451 FAX 011-694-4406  
営業所 / 〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町10番10号 久松ビル4F TEL 03-5847-8330 FAX 03-5847-8331  
URL: <http://www.ryubundo.co.jp>

# 《平成8(1995)年～同14(2002)年》

～北方圏交流に加えて、国際理解・国際協力も積極的に推進～

北海道国際センターオープン  
グローバルな国際交流へ

国際協力事業団(現・国際協力機構、JICA)では、技術協力事業の一環として、開発途上国の技術者や行政官に技術の習得する機会を提供するため、東京をはじめ、国内11カ所に研修施設を設置しているが、新たに援助対象国になった旧ソ連邦地域やモンゴルなど、積雪寒冷地の技術支援やニーズに応え、また、地方にある技術や人材の活用をため、札幌と帯広に研修施設「北海道国際センター」を新設した。

北海道国際センターの大きな特色の一つは、JICA研修員の宿泊施設としてだけでなく、自治体や国際交流団体が行う国際交流、国際協力など地域の国際化事業に活用できる施設であること。これは、各地域の国際化推進の拠点としての機能を持つことが重要である国の考え方によるもので、施設の管理運営についてもそれぞれの地域で国際化推進の重要な役割を担う国際交流団体に委託することとされている。平成7年6月の定款の一部変更により、北方圏センターは、その管理運営を受託した。

在住外国人(留学生)等への  
交流支援事業

近年の国際化の進展に伴い、海外の諸地域との交流をより一層進めるとともに、道内の地域間での協力関係を築き、地域の立場で国際社会の発展に積極的に貢献する必要があることから、北方圏センターでは、北方圏諸国との交流を基軸としながら、国際協力分野の事業を含め、広く世界の国々との交流を進めていくこととなった。これに伴い、国際協力部が新設され、また、札幌、帯広の国際センターには管理担当の部署が誕生した。

地域国際化協会の認定

北方圏センターは平成10年3月、自治省(現・総務省)から「地域国際化協会」の認定を受けた。

地域レベルの国際化を推進するため各地方公共団体では様々な取り組みを行っているが、地域の国際化は行政のみでできるものではなく、民間の国際交流組織の活用が不可欠であることから、地域の国際化を推進するにふさわしい中核的民間国際交流組織を、都道府県及び政令指定都市を代表する一つの団体を「地域国際化協会」と認定している。

これにより北方圏センターは、

新しい北方圏交流と  
国際協力の推進

「国際交流」「国際協力」「地域の国際化」などを総合的にとり進める北海道の中核的な国際交流団体として、活動を強化することとなった。

北海道青年海外研修派遣と  
海外青年研修の受け入れ

「地域国際化協会」の認定を受けた同じ年、「北海道青年婦人国際交流センター」を統合し、その業務を引き継ぐことになった。新たに交流部を新設し、青年・婦人の海外派遣や海外青年の受け入れなど、事業の拡大が図られることになった。

派遣事業では「北海道婦人国際交流事業」「北海道青年国際交流事業」「北海道・ブラジル青年交流事業」を実施する。テーマ別の研修をはじめ、訪問地の人々との交流を通して相互理解と友好を深め、本道の国際化に寄与する人材の育成を目指している。

また、受入事業では、「北海道・ブラジル青年交流団」「中国・黒竜江省青年代表団」「アルバータ州青年(1名)研修受入」を行うこととしている。青年同士の交流を通じて、一層の相互理解が深まり将来につながる交流が期待される。

◆「北海道国際センター」開所式

北海道国際センター・札幌国際センターおよび帯広国際センターの開所式が4月1日と5日それぞれ行われ、札幌国際センターの開所式では榎原泰明会長が「この宿泊センターを核にして、実りのある国際交流の推進を図りたい。研修員のみならずには、自国に帰ったら、ここで学んだことを紹介して、交流の架け橋となっていたきたい」と挨拶した。同センターの最初の入所者となったのは、外務省の委託を受け当センター実施の旧連邦諸国支援事業の道内企業で経営について研修するモスクワ、ハバロフスク、キルギスタンからの15名と、地域開発を勉強するインドネシアの15名やザンビア、ミャンマー、中国からの5名のJICA研修員で、「部屋が広く、勉強と休養に最適だ」と好評であった。一方、帯広センターは5日に開所式を行った。初入所者はタイやブラジルの研修員10名。

◆「海外自治体職員協力交流事業」開始

自治省が所管する協力交流事業で、海外の地方自治体職員を研修員として受け入れ、日本の行政事務や技術を習得してもらう。諸外国の人づくりに対する国際協力を進めると共に、北海道の国際化の促進を図る目的で本年度4カ国4名(マレーシア、インドネシア、中国、韓国)の地方自治体職員を研修員として受け入れた。【'97年報】

◆「国際協力情報紙」【であい】(季刊) 創刊

北海道国際センターの開設を機に、国際協力情報紙の収集や提供、国際協力団体との連携などを通じて北海道の国際化を進めるため、国際協力事業



道内の国際協力活動などを紹介する情報紙「であい」(季刊)を創刊した。オープンした両センターの紹介、研修員へのインタビューなどを収録し、1500部を印刷。市町村のほか国際協力・交流団体、大学などに配布した。

◆「北方圏」誌第96号

《なお、Vol.13(平成11・6発行)ではJICA国際協力事業団のニュースJICAだよりの2ページを加えてリニューアル、Vol.37(平成17・6発行)から正式に共同発行とし、各号4000部を北方圏センター会員はじめ関係機関に送付している》

◆「国際理解促進事業」(小中学生を対象とする研修員との交流会等) 開催

世界には多種多様な生活や文化、社会や民族が存在しているがそれらの人々の生活等についての、国際理解を促進するため、次代を担う地域の小・中学生を対象に、北海道国際センターの研修員との交流事業を展開した。札幌国際センターで中学校1校・小学校4の計5回、帯広国際センターで中学校2校・小学校1校・キャンプなど3件の計6回を実施した。



◆「国際協力情報紙」【であい】Vol.12

◆「北方圏セミナー」男女共同参画の社会をめざして開催

月	8	7	6	6	6	6	6	5	4	4	4	
事業等開催状況	事務局に「国際協力部」を新設 国際協力事業団(JICA)委託による「北海道国際センター」(札幌・帯広)の管理運営を開始【現在継続】 「北海道国際センター」開所式 「セミナー」アルバータ大学と北海道とのパートナーシップ【講師：アルバータ大学学長・ロデリック・フレイザー氏(NRC)】開催(共催：北海道、他) 「セミナー」ロシアにおける地方自治権と極東経済【講師：世界経済国際関係研究所・ウラジミール・イワノフ氏(NRC)】開催	「セミナー」カナダ人女性が見た日本の農村【講師：カナダ・マニトバ州駐日代表・アン・マغدナルド氏(NRC)】開催(共催：毎日新聞道支社、他) 「海外自治体職員協力交流事業」(4カ国4名研修員受け入れ) 「国際協力情報紙」【であい】(季刊) 創刊【現在継続】	「セミナー」インターネット時代のビジネスと社会【講師：前ホワイトハウス科学技術政策室・デビッド・ライテル氏(NRC)】開催(共催：札幌アメリカンセンター) 「国際理解促進事業」(小中学生を対象に研修員との交流会等)開催(以後、年度内に札幌5回、帯広6回実施)	「北海道・黒竜江省友好提携10周年記念事業実行委員会」参加、各種記念事業を実施 「NRC」会員海外旅行「招待派遣」(中国・黒竜江省、「友好の翼」へ参加)2名	「北方圏セミナー」男女共同参画の社会をめざして【講師：ノルウェー王国男女平等オンブド・アンネ・リーセ・リーエル氏(札幌社会福祉総合センター)】開催 「フィンランド経済セミナー」【講師：駐日フィンランド共和国大使・ベッカ・リン							



ノルウェーの「男女平等オンブッド」のアンネ・リーセリールさんの来日を機に、札幌市社会福祉総合センターにおいて10月1日、「ノルウェーの男女平等政策」についてセミナーを開催した。「オンブッド」とは、一般にオンブズマンと言われている北欧で生まれた行政監察官のことで、ノルウェーでは1979年に制定された「男女平等法」で設置が規定された国家機関である。男女をすべて同一にするということではなく、皆に同じチャンスを与えるという考えが「北欧の福祉国家」の根底にあることを強調した。

【北方圏】第98号】

◆「デンマーク住宅建築セミナー」開催

デンマーク通商事務所、ジェトロと共催で、北方圏センター国際会議場において10月22日、「地球環境型建築の未来」をテーマに、デンマーク住宅建設省大臣オーレ・シモンセン氏らによる講演会を開催した。デンマーク技術研究所のイワール・モルケ氏が、3層のガラス窓にクリプトンガスを充填して、断熱効果を高めるなど、エネルギー消費を減らした実験住宅「ピラビジョン」について紹介。道内の住宅関連企業関係者ら多数が参加して、北欧の省エネルギー住宅への関心の高さを示していた。

【北方圏】第98号】

◆南米チリ支援のため米国・マサチューセッツ州研究機関(MCAE)と共同研究の協定覚書に調印。『MIFプロジェクト』始動

11月26日、南米のチリを支援するため、多数国間投資基金(MIF)の資金を受けて米国マサチューセッツ州との共同研究を進めることで、榎原泰明会長とマサチューセッツ州、チリの関係機関の2会長が協議し、一致した。

平成4年に結んだ同州の研究開発機関MCE

(マサチューセッツ・センターズ・オブ・エクセレンス)とバイオ分野などの共同研究交流協定の具体化の中から「南米・チリ支援事業」が持ち上がったもので、北海道側からは農業試験場、水産試験場、林産試験場、食品加工研究センターなどの道立研究機関が参加する。

《共同研究は「MIFプロジェクト」と称され、翌9年9月、日・米・チリの代表者と、資金を拠出する米州開発銀行(IDB) 駐日事務所、米国ワシントンD.C.にある多数国間投資基金(MIF) 担当者らが、北方圏センターで同プロジェクトの推進に向けた具体的な協議をした。》

【北方圏】第98号】

◆「文化講演会」講師・椎名誠氏」開催

北海道新聞社と共催で、12月5日、道新ホール(札幌)で作家であり、映画監督としても活躍中の椎名誠氏を招き、文化講演会を開催した。

椎名氏は「見えてきたもの、硬化化した日本とそのあやしい未来」と題して講演。同氏は、日本人の特異性として、全国どこへでも確実に配達される宅配便を例に、「日本は安全な国である」という認識の一方で、個人の氏名、住所などが見えなまま荷物が行き交っていることの危険に気づかないことや、日本人のユニーク性を示す例として、流行に対して、「同じ格好をすることがカッコ悪いことに気づかない」などムラ社会の中での横並びの価値観が影響していると述べた。

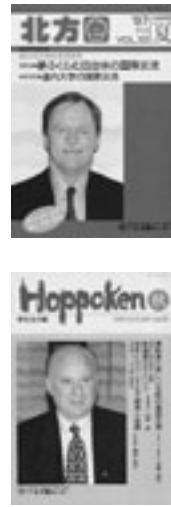
さらに、アメリカでは「頑張って」を「Take it easy」、モンゴルでは「馬の汗の匂いを嗅いでください」と、気持ちと和らげる言葉になることを紹介し、「あまり頑張らず、自分の価値観をしっかり持つて生きることが、これからの日本人にとって大切なことのように思う」と結んだ。

【北方圏】第98号】

9	10	10	11	12	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	6
	トウ氏(NRC) 開催(共催 北海道フィンランド協会、他)	「講演と音楽の夕べ」(講師・駐日ノルウェー王国大使・ヨン・ビョルネビー夫妻(釧路 帯広)) 開催(共催・ノルウェー王国大使館、他)	「デンマーク住宅建築セミナー」(講師・デンマーク住宅建設大臣・オーレ・シモンセン氏、他(NRC)) 開催(共催・デンマーク通商事務所、他)	南米チリ支援のため米国・マサチューセッツ州研究機関(MCAE)と共同研究の協定覚書調印『MIFプロジェクト』始動	「文化講演会」(講師・作家・椎名誠氏(道新ホール) 開催(共催・北海道新聞社))	「女性の自立プラン講演会」(小樽) 開催(共催・小樽市女性の自立プラン推進協議会)	NIS支援「日本センター成績優秀者招聘事業」(5カ所23名)札幌(他) 実施(委託・外務省、支援委員会)	「国際協力団体との懇話会」(NRC)「参加・札幌地区8団体」開催	「国際協力団体との懇話会」(網走)「参加・網走地区4団体」を開催	「留学生ふれあいトークin北海道」(美瑛・大雪青年の家、他「8カ国31名」)開催	「ZRC NEWS LETTER」廃刊【No.57】	「屋外寒暖計」の頒布(合計3万7992個)を終了	「国際理解セミナー・アラスカ州の教訓から」原流出事故の沿岸対策」(講師・元アラスカ州知事・ステファン・クーバー氏(NRC)) 開催	「フィンランド経済セミナー」(NRC) 開催(共催・北海道フィンランド協会)	フィンランド・日本「大学間交流札幌フォーラム」(NRC) 開催	「国際理解促進事業」(以後、小中学生を

◆季刊「北方圏」誌創刊100号記念号を発刊

道内3市町の長の参加を得て、座談会「夢ふくらむ自治体の国際交流」を掲載。また、100号記念企画として募集した懸賞論文・写真の入選作を発表した。



【「北方圏」第100号】

《なお、同季刊誌は次号の101号から18年ぶりにその表紙の題字を変更する。題字はローマ字で「Hoppoken」。毎日書道展審査委員の加藤幸道氏の筆による。》

◆「北海道青年北欧派遣」事業の実施

北海道の将来を担う青年15名を北欧4カ国およびドイツに派遣した。15名はそれぞれの国に見られる特色を、「子供たちの教育環境と社会環境」「産業クラスター構想における産学協働のあり方」「都市のデザインと福祉による町づくり」「国際協力の実情とボランティア活動」「難民の受け入れ」「地球・人間に優しい環境づくり」「ゴミ・リサイクルの取り組み」「エコロジー農業と魅力ある地域づくり」の6つをテーマに据えて研修を実施した。帰国後、それぞれのテーマで報告書にまとめ刊行したが、テーマとは別の印象記の中で最年少20歳で参加した井上沙綾佳さんは「様々なことを見聞することができ、多くの分野で新鮮な発見があった。北海道でなら実現できそうなことも多かったが、一番大切なことは全ての人が関心を持ち生活の中で実行していくことが重要であると感じたことだ」と記している。

【「北海道青年北欧派遣事業報告書」】

◆NIS支援「日本センター成績優秀者招聘事業」実施

外務省（NIS支援室）及び支援委員会からの委託を受け、日本センター成績優秀者招聘事業として、NIS諸国に設立されている日本センター（モスクワ、キルギス、ウクライナ、ハバロフスク、ウラジオストク、ユジノサハリンスク）に学ぶ若手経済人及び学生などの受講生の中から選抜された成績優秀者受入を実施するもので3年度目になる。



この事業は、市場経済システム等についての理解の促進を図るとともに、日本の理解者として活動してもらおう人材の育成が目的。今年度は極東地区の3つの日本センターから23名を受け入れ、道内企業9社の協力を得て、企業での実務研修を通じて日本の経済構造、企業経営等の理解促進を図るプログラムの実施、及び日本の生活・文化等についても理解を深めてもらう文化研修等を実施した。

【'98年報】

◆「ロシア極東・東シベリアエネルギー問題懇談会」開催

2月16日、北方圏センターにおいて、ロシア科学アカデミー・シベリア・エネルギー研究所副所長ボリス・G・サネーエフ氏、日本エネルギー経済研究所主任研究員横地明宏氏を招き、石油、天然ガスの資源開発の問題点と展望や日ロエネルギー協議の推移について、道内の研究者らとの懇談会を開催した。

【'98年報】

3	3	2	2	1	12	12	11	11	8	7	7	6	6
「ロシア極東・東シベリアエネルギー問題	「国際協力推進団体との懇談会」(札幌C)	「国際協力推進団体との懇談会」(札幌C)	「国際協力推進団体との懇談会」(札幌C)	「文化講演会」(講師：エッセイスト・永六輔氏「道新ホール」)開催(共催：北海道新聞社)	「デンマーク産業界交流セミナー」(講師：デンマーク農業普及センター・クヌーズ・イエブセン氏、他(NRC))開催(共催：デンマーク通商事務所、他)	「デンマーク建築デザインセミナー」(講師：デンマーク国鉄・ギンナナー・ソレンセン氏(NRC))開催(共催：デンマーク通商事務所、他)	「セミナー・アストリット・リンドグレンの生涯」(講師：ジエトロ・ストックホルム事務所・三瓶恵子氏(NRC))開催(共催：スウェーデン交流センター)	「北海道青年北欧派遣」(北欧4カ国・ドイツ)事業の実施	「北海道青年北欧派遣」(北欧4カ国・ドイツ)事業の実施	「国際協力推進団体との懇談会」(札幌C)開催(参加：札幌地区7団体)	「国際協力推進団体との懇談会」(札幌C)開催(参加：札幌地区6団体)	「海外自治体職員協力交流事業」(2カ国2名研修受入れ)実施	「海外自治体職員協力交流事業」(2カ国2名研修受入れ)実施

◆自治省から「北海道における地域国際化協会」の認定を受ける

北方圏センターは、自治省から3月25日付で「地域国際化協会」に認定された。これは、地域レベルの国際交流をより一層推進するために自治省が設けた制度で、この認定を受けると、その地域（都道府県と政令指定都市）で活動する民間国際交流団体の中核としての役割を担って国際交流事業を行うことになる。

これを機に、北方圏センターは事務局に「交流部」を新設して事業を拡大、道内の青年、婦人のブラジル派遣や受入の事業を行うほか、カナダ、米国、中国、東南アジアなどとの交流を展開し、北海道の国際交流の拠点としての役割を果たしていくこととなった。【Hopoken】第104号】

◆「北方圏センター設立20周年記念 功労者表彰」

5月22日札幌プリンスホテルで開催された平成10年度の通常総会後、会員が集う親睦パーティーを開催。席上、北方圏センターが昭和53年（1978年）に前身の北方圏調査会を引き継いでから、20周年に当たることからこれを記念して、これまでの北方圏交流に功労のあった5個人、1法人に表彰状が贈られた。

表彰されたのは、特別功労賞の堂垣内尚弘氏（元北海道知事）、功労賞の阿部三恵氏（北海道国際婦人協会会長）、伊藤隆二氏（道都大学教授）、辻井達一氏（北星学園大学教授）、山中文夫氏（北方圏センター調査委員）の5人。また、（株）土屋ホームに感謝状が贈られた。北方圏センターの生みの親である堂垣内尚弘・元知事は上京のため「今日、活発な国際交流や事業が行われているが、昭和49年に第1回北方圏環境会議を札幌で開催するなど、北方圏交流には感慨深いものがあります」とのメッセージを寄せ、代理で夫人の香枝枝さんが出席した。

【Hopoken】第104号】

◆「カナダ・アルバータ州青年研修生受入」実施

北海道とカナダ・アルバータ州の友好関係をさらに推進するための人材を育成する目的で、平成4年にスタートした事業。カナダ国籍を有し、アルバータ州に住む35歳までの青年1名を2年間受け入れ、研修目的に合わせて、道内の研究機関や企業で研修を行っている。本年の受け入れ研修生はケビン・ウイルソン君で、北海道大学教育学部で研究を行った。【'99年報】

◆「北海道青年国際交流派遣」事業実施

国際性豊かな北海道人を育成しようと「北海道青年国際交流派遣事業」を3地域に分けて実施した。中国には青年8名を（10月6日～15日）、またカナダ・アメリカには10名を（同15日～26日）、東南アジア・オセアニアには10名（11月10日～21日）をそれぞれ派遣した。カナダ・アメリカ班はアルバータ州議会、グリーンローズリハビリセンター、ミネアポリス市役所



はじめボストンやニューヨークを訪問し、また、中国班は上海、ハルビン、牡丹江などで学校、企業などを訪問し研修した。さらに、東南アジア・オセアニア班は北海道シンガポール事務所、ジャカルタ養護学校や、メルボルンやシドニーの環境や交流機関の施設を訪問して、それぞれ実り多い研修を行った。

【Hopoken】第106号】

10	10	8	8	8	8	7	6	6	5	5	5	4	3	3	10
「国際協力セミナー」NPO・NGOと北海道NGO活動・方法と課題への対応（札幌C）開催	「国際協力セミナー」NPO・NGOと新しい北海道」（札幌C）開催	「国際協力セミナー」NPO・NGOと新しい北海道」（札幌C）開催	「国際協力推進団体との懇話会」（札幌C）参加・道央地区24団体開催	「国際協力推進団体との懇話会」（札幌C）参加・道央地区24団体開催	「カナダ・スタール」カナダの近年の発展と挑戦」（講師・駐日カナダ大使・レナード・エドワーズ氏（NRC）開催（共催・北海道カナダ協会）	「中国・重慶江省青年代表団」受入（13名）実施	「NRC会員海外旅行招待派遣（中国）新千歳～瀋陽定期就航記念ツアーへ参加」2名	「NRC会員海外旅行招待派遣（中国）新千歳～瀋陽定期就航記念ツアーへ参加」2名	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	「アラスカ・ジュノニ市」青少年親善使節団（受入（追分、他）実施	懇話会」（講師・ロシア科学アカデミー・シベリア・エネルギー研究所・ボリス・G・サネーエフ氏、他（NRC）開催 「留学生ふれあいトークin北海道」（大滝村（11カ国40名）開催 自治省から「北海道における地域国際化協会」の認定を受ける



◆「北海道・ブラジル青年交流団受人事業」実施  
北海道出身者の子弟である2世、3世の青年が父祖の地についての認識を深めると共に、北海道の青年が移住者の開拓精神に触れ、相互理解と友好親善を図るために、行われている事業。

平成10年度は、12名が来道し、10月21日～31日までの11日間滞在した。各地を訪問・視察すると共に、それぞれの父祖の地及び札幌市内においてホームステイを体験した。

【'96年報」『Hoppoken』第106号】

◆「国際協力フェスタ'98 in 北海道」を初めて開催  
10月17日（土）、18日（日）の両日、「国際協力フェスタ'98 in 北海道」が、北海道内のNGOの国際協力活動を広げる環境づくりを目指して初めて開催され、北海道で活動する30の国際協力団体が参加した。坪井善明早稲田大学教授による国際協



力セミナー「NGO活動・方法と課題への対応」をはじめ、NGO活動推進センターの伊藤道雄事務局長によるフォーラム、トークショーのほか、NGO等の活動を紹介する写真パネル展示やビデオの放映、また、海外からの留学生らによる

自国の料理教室等を開催し、各国の味、歌、踊りの紹介もあって訪れた市民などが交流を深めた。主催は北方圏センター、札幌国際プラザ、北海道ほか。また、会場は北海道国際センター（札幌）及びリフレサッポロ。 【'であ」Vol.11】

◆北方圏センター設立20周年記念シンポジウム  
「21世紀に向けての北方圏交流の展望」開催  
10月29日、21世紀に向けての相互協力のあり方

や、北方圏諸国などの経済交流について展望するシンポジウムを開催。北海道新聞社論説主幹の柏木榮氏をコーディネーターに、パネリストに、駐日ノルウェー大使・ヨン・ビョルネビー氏、駐日デンマーク大使・ビーター・ブルックナー氏、駐日スウェーデン公使・ポー・ルンドベリイ氏、在日フィンランド大使館・参事官のカウコ・ライティネン氏を、北海道側から、北海道副知事・真田俊一氏、札幌商工会議所国際貿易委員長・滝澤靖六氏による、「21世紀に向けての北方圏交流の展望」と題してパネルディスカッションを行った。



シンポジウム冒頭、戸田一夫会長は「北欧諸国から学ぶ」と題した基調講演で、北欧のフィンランド、デンマーク、スウェーデンの歴史、例をひいて「北海道の一人ひとりが北海道の将来というものを考えて、自分の意思で北海道の将来に向かって行動することが必要と感じた」とよく学んで、力を合わせようと呼びかけた。 【Hoppoken』第106号】

◆「国際理解講演会」講師・マリ・クリステイヌさん 開催  
国際経験が豊かで比較文化に詳しいマリ・クリステイヌ氏を講師に、北海道の国際化と国際的視野の広がりに向けて、美瑛町（2月15日）と深川市（同16日）で開催した（社）日本外交協会の後援。

や、北海道・ブラジル青年交流団 受人（12名）実施  
「国際協力フェスタ'98 in 北海道（札幌C）」開催（参加：国際協力30団体他）  
「北方圏センター設立20周年記念シンポジウム（21世紀に向けての北方圏交流の展望）」（札幌グランドホテル）開催（共催：札幌商工会議所）  
「セミナー」総選挙後のスウェーデン政治事情（講師：元駐日スウェーデン大使・グンナル・ロネウス氏（NRC））開催（共催：スウェーデン交流センター）  
「留学生ふれあいトーク in 北海道」（浦河、他（6カ国28名）開催  
「国際協力推進団体との懇話会」（札幌C）開催（参加：道央地区11団体）  
「国際交流団体連絡会議（NRC）開催（参加：道央地区9団体）  
「国際協力推進団体との懇話会」（北見）（参加：網走地区5団体）開催  
「国際理解講演会」（講師：異文化コミュニケーションーター・マリ・クリステイヌさん（美瑛・深川）開催（共催：美瑛町、深川市他）  
「国際協力推進団体との懇話会」（旭川市）（参加：道北地区2団体）開催  
NIS支援「日本センター成績優秀者招聘事業（5カ所11名）」（札幌）実施（委託：外務省、支援委員会）

6	5	5	5	3	2	2	2	1	12	11	11	10	10	10
「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「海外自治体職員協力交流事業」（中国1名、韓国1名研修員受入）実施委託（北海道）	「海外技術研修員受入」（中南米4カ国7名、アジア2カ国7名、アフリカ1名研修員受入）実施（委託：北海道）	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「セミナー」高齢化社会に向けてのスウェーデン福祉制度（講師：スウェーデン文化交流協会・アンキ・ターリン氏（NRC））開催（共催：スウェーデン交流センター）	「海外自治体職員協力交流事業」（中国1名、韓国1名研修員受入）実施委託（北海道）	「海外技術研修員受入」（中南米4カ国7名、アジア2カ国7名、アフリカ1名研修員受入）実施（委託：北海道）	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に



クリスチーナさんは、その生い立ちや様々な経験のエピソードを交えながら、諸外国では外国人をできるだけ受け入れるために工夫と努力がなされていると同時に、自分の中にしっかりと主張できる自国の文化をもつことが大切とされると語った。また、北海道の開拓は人々の助け合いによって成されたもので、国際貢献も外国の恵まれない人々のためと意気込むのではなく、自分の身近な地域への協力やボランティアが大切で、その精神を国境を越えての広がりを持たせるのが良い、と述べた。

【Hopoken】第107号

◆「国際協力セミナー」今、なぜ国際ボランティアか(帯広) 開催

「第2回北海道国際協力フェスタ99」の帯広会場の行事として「国際協力セミナー」が11月5日から3日間開催された。カンボジアで国連ボランティア活動中に殉職した中田厚仁さんの父武仁氏(国連ボランティア大使)が「今、なぜ国際ボランティアか、息子から引き継いだもの」と題して講演。厚仁さんの活動ぶりや息子を亡くした親の思いを語り、その熱い思いは会場に集まった人々を感動させていた。【Hopoken】第110号

◆セミナー「フィンランドの先住民族サーミに学ぶ」開催

10月9日、白老町で開かれた先住民国際フェスティバルに参加するため来道したフィンランド・サーミ議会議長ベッカ・アイキオ氏が10月12日に北方圏センターを訪問、先住民族サーミの政治、社会状況と文化の特色について講演した。また、

同行したサーミ現代曲歌手のウツラ・ピルティヤルビさんが昔からあるサーミの子どもの歌を披露した。フィンランド北部のイナリ湖からさらに北へ行ったウツヨキという町に住み、姉とともにサーミの伝統的な歌と現代的な歌をうたっている。

【Hopoken】第110号

◆「国際理解講演会」講師：野中ともよ氏 開催

(財)自治総合センターの協賛を得て、ジャーナリストの野中ともよさんを講師に迎えて小樽市(10月13日)と恵庭市(14日)で「国際人として生きる、私たち「地球人」と題して講演した。「国際交流を考える時「地球人」という意識に立つ必要があって、地球人とは平等な生命をもったこの地球に棲むすべての人々だと考えています。国際交流で大切なのは、それぞれの国の人々と文化を親しみをこめて知ること、外国の人々に出会えて良かったという気持ちで互いに理解することと語った。

【Hopoken】第110号

◆「国際協力セミナー」水・土・緑から見た中国のNGO活動の最前線から」開催

1月31日、北方圏センター会議室において、少雨で「砂漠化」の進む中国の黄土高原の中心都市の大同市で、砂漠化を食い止めるために植樹に挑戦し、緑化協力を続けているNPO法人「緑の地球ネットワーク(GEN)」事務局長・高見邦雄氏による国際協力セミナーを開催した。自然条件と人々の生活との悪循環で定着しない森林回復の難しさを話した。

【「ひあこ」Vol.16】

3	3	2	2	1	11	11	11	10	10	10	7	7	7	7
「国際協力推進団体との懇話会」(札幌C)	「参加・道央地区24団体」開催	「国際協力セミナー」国際協力の現状と外務省NGO支援策(札幌国際アラザ)開催	「国際理解講演会」(講師：タレント・ケント・デリカット氏(江差、長万部)開催(共催：江差国際交流協会、長万部国際交流センター、他)	「国際交流団体連絡会議」(旭川)「参加・道北、オホーツク地区14団体」開催(共催：国際交流基金)	「NRCC会員海外旅行」招待派遣(北欧4カ国、2名)	「セミナー」フィンランドの先住民族サーミに学ぶ(講師：サーミ議会議長・ベッカ・アイキオ氏、他(NRC))開催(共催：北海道フィンランド協会)	「国際理解講演会」(講師：ジャーナリスト・野中ともよさん(小樽、恵庭))開催(共催：小樽市、恵庭市、他)	「北海道婦人国際交流派遣」(北欧班(12名、中国班(12名))実施	「国際協力セミナー」今、なぜ国際ボランティアか(帯広)開催	「国際協力セミナー」(札幌)開催	「留学生交流支援」ふれあい、トークin北海道(幌加内町「11カ国27名」開催	「北海道・南米青年交流派遣」(ブラジル、他「11名」実施	「国際協力セミナー」水・土・緑から見た中国のNGO活動の最前線から」(NRC)開催	「留学生交流支援」ふれあい、トークin北海道(足寄町「6カ国12名」開催

◆北方圏センター・ホームページ「北海道国際情報ネットワーク」を開設

北方圏センターでは平成12年3月にホームページを開設した。北方圏センターの紹介や事業内容のほか、道内各地域で開催される国際交流・協力に関するイベント情報や関心の高い各種データを掲載した。また、会員専用ページに季刊誌「Hopoken（北方圏）」の創刊号からの記事を掲載するとともに、在住外国人向けの生活情報として、道内で外国語（英語、中国語、ハンゲル、ロシア語）が使える医療機関の掲載もしている。その他国際交流に関する各種の機関や団体へのリンクができるように工夫し、利用に供している。

【'01年報】

◆「サハリン北海道人会子弟等技術研修員受入事業」実施

本事業は、北海道からの委託を受け、ロシア・サハリン州の「サハリン北海道人会」支援事業の一環として、技術等の習得を目的とする研修員を受け入れ、サハリン州の次世代を担う子弟の育成を図ることにより、北海道人会を支援し、サハリン州との交流を推進することを目的としている。サハリンでは北海道からの観光客やロシア本土からの旅行者も増えてきていることもあって、研修テーマは観光業。初めての研修員となったのは旅行代理店業務を研修するイ・エン・ヒさんと、ホテルの実務を研修するアンドウ・エン・ヒさんの女性2人。6月1日に来道、約1カ月間の日本語研修を経て、研修企業へ。イさんはJTB海外旅行札幌支店で、アンドウさんはホテルポールのスタッフで、それぞれ10カ月間、基礎訓練と接客等の実務に取り組んだ。

【'01年報】

◆「北方圏センター・ポランテニア通訳登録事業」

実施

北海道内の各地で開催される国際交流イベントで求められるのは外国語を話すことのできる人たち。道内各地の国際交流団体等が実施する国際交流のイベントや行事に寄与するため、「通訳ポランテニア」制度を発足させ、英語、ロシア語、中国語のポランテニア通訳として活躍してくれる方を募集し、169名の方々に登録をいただいた。地域での各種の交流事業で地元の人々と外国人との交流の接点となる通訳ポランテニアの活躍で地域での交流の活性化が期待される。

【Hopoken】1113号】

◆「地球市民国際理解講座」開催

広い視野、高い視点に立つて外国の諸制度や文化の理解を促し、地域の人々の国際意識の向上に役立ててもらうことを目的として、有識者を講師に招いて「地球市民国際理解講座」を本年度事業として企画した。その第1回をロシア国立極東総合大学函館校校長のセルゲイ・イリイン氏を講師に迎え8月2日、余市町で開催した。

イリイン氏は、ウラジオストクの同大学の東洋学部日本語科、モスクワ大学大学院博士課程に進み「日本語の助詞・助動詞の諸問題」で博士号を修得している日本通。講演では、ロシア極東の歴史、ロシアと北海道との交流、特に初代箱館ロシア総領事で、北海道に来た最初のヨーロッパ人であるゴシユケビッチと函館の人々との交流とその歴史について、流暢な日本語で語った。最後に「私が生まれたのはウラジオストク市、そして今住んでいるのは函館市。どちらも大変好きな街です。両市民が仲良くすることは大切なことです。沿海地方と北海道が友情いっぱいになることを望んでいます」と結んだ。

【Hopoken】1113号】

12	3	3	5	6	6	7	7	7	7	8	8	8	9	9	10
「海外自治体職員協力交流事業」（中国1名研修員受入）実施（委託：北海道）	「海外技術研修員受入」（中南米4カ国7名、アジア2カ国5名、アフリカ1名、欧州1名研修員受入）実施（委託：北海道）	「サハリン北海道人会子弟等技術研修員受入」2名実施（委託：北海道）	「国際理解促進事業」（小中学生を対象に研修員との交流会等開催（以後、年度内に札幌5回、帯広7回実施）	「北方圏センター・ポランテニア通訳（英語、ロシア語、中国語）」登録・派遣の実施【現在継続】	留学生交流支援「ふれあいトーク in 北海道」（森・七飯・7カ国21名）開催	「国際交流団体連絡会議」（滝川）開催【参加：道内11団体】開催	「国際協力推進団体との懇話会」（NRC）【参加：26団体】開催	「地球市民国際理解講座」（講師：ロシア国立極東総合大学函館校校長・セルゲイ・イリイン氏（余市））開催	「国際協力セミナー」技術協力の現状と地域の役割（NRC）開催	「NRC会員海外旅行」招待派遣（米国・マサチューセッツ州、2名）北海道・マサチューセッツ州姉妹提携10周年記念訪問団参加	「中国・黒竜江省青年代表団受入」（14名）実施	「セミナー・ノルウェーの産業と北海道の関わり」（講師：駐日ノルウェー王国大使・オッド・フォスアイドブローテン氏（札幌）			



◆「NRC会員海外旅行」招待派遣

北方圏センターの12年度総会に引き続き催された会員親睦パーティーにおいて海外派遣プレゼンターの抽選が行われ、個人会員の廣瀬淑子さん（登別市）と法人会員の和光建設株式会社（今金町）が当選した。2会員は、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携10周年記念訪問団に参加して米国マサチューセッツ州を訪問する。

【Hopoken】第112号

「マサチューセッツ州による公式行事がボストンの州庁舎で行われた。知事同士が観光・文化・経済分野を中心交流を推進すべきだとの「姉妹提携促進書」に署名、力強い握手が交わされた。これからのすばらしく、そして実り多い交流に期待したい。ボストンは古さと新しさの混在、美しい自然とともに魅力あふれる地であるのを感じた。」  
（廣瀬淑子さんの参加手記から）

【Hopoken】第114号

◆「国際協力セミナー」国連を通して見た国際社会の中の日本」講師・高島肇久氏」開催

10月29日、サッポロフアクトリーホールにおいて国際協力セミナーが開催された。講師には元NHKキャスターで国連広報センター（東京）所長に就任したばかりの高島肇久氏を迎えた。

このセミナーは、北海道内のNGO団体などの主催で「北海道国際協力フェスタ2000」の催しの一つとして開かれ、約170人の市民らが国連の役割に理解を示した。

講演の中で高島氏は先ず「国連に対して日本は米国に次いで二番目に多い分担金を払っていて、これは国民一人当たり約400円になる」と、日本は国連と深い関係にあることを説明。しかし、「日本人と国連の間は年ごとに離れていっているようだ」と述べ、国連の具体的な活動を紹介しな



から「もう少し関心を持つてほしい」と訴えた。また、戦争の防止に主眼を置いてきた国連の現状に触れ、「冷戦終了後は民族や部族、宗教の対立に人道的介入の名のもとに軍を派遣してきたが内政干渉との批判を生んだ」と指摘。これに変わる方策として、人間の安全保障」という考え方を打ち出し「戦争を引き起こす要因となる貧困、差別、敵対心を取り除くために務めている」と話すとともに、日本はその『人間の安全保障基金』に資金を拠出して高い評価を得ていると述べた。

【Hopoken】第114号

◆「ロシア・エネルギーセミナー」開催

11月9日、国際会議場でサハリン州から、サハリン・モレネフチガス副社長で、サハリン海洋石油・天然ガス研究所所長のウラジーミル・N・アスタフエフ氏を講師に開催された。

講師の説明によると、ロシア極東地域の大陸棚では現在、26カ所で天然ガスの鉞床が確認されており、推定埋蔵量は石油が9兆ト、天然ガスが7兆立方メートルと推定されている。このうちサハリン州北東部の埋蔵量が一番多く、1999年夏に採掘を開始した「サハリンII」の今年の生産は石油12万トの見込みだが、02年には新たな石油井を含め年産200万トを超える見込み。将来は、サハリン州を南北に横断するパイプラインを敷設して、同島南にガスの液化プラントと石油の積み出し基地を造る計画という。また、「サハリンI」は05年にも採掘を開始する予定と語った。

【Hopoken】第114号

10	「国際協力セミナー」国連を通して見た国際社会の中の日本」講師・国連広報センター所長・高島肇久氏（サッポロフアクトリーホール）開催
10	「北海道青年海外派遣」国際協力研修・タイ・マレーシア（10名）実施
10	「北海道・ブラジル青年交流団受入」（8名）実施
11	「地球市民国際理解講座」（講師・北海道医療大学教授・ハワード・ターノフ氏（陸別町））開催
11	留学生交流支援「ふれあいトークin北海道」（辛取・夕張「9カ国31名」）開催
11	「ロシア・エネルギーセミナー」講師・サハリン海洋石油天然ガス研究所所長・ウラジーミル・N・アスタフエフ氏、他（NRC）開催
11	「地球市民国際理解講座」（講師・カルメン・フロレス・石井氏（樺葉茶））開催
12	「地球市民国際理解講座」（講師・北大留学生センター助教・ピーター・フィロコラ氏（砂川））開催
1	「国際理解講演会」（講師・タレント・ケント・ギルバート氏（釧路、帯広）開催（共催・釧路市、帯広市、他）
2	「留学生交流ふれあい事業」（粟沢「4カ国1地域28名」）開催
2	「地球市民国際理解講座」（講師・JIC A札幌国際センター所長・小森毅氏（追分））開催
3	「地球市民国際理解講座」（講師・北星女子短大専任講師・エドガー・ポープ氏（七

◆「北方四島交流（日本語習得研修） 受入事業」  
実施

北方四島ヒザなし交流事業の一環として、「日本語の習得を希望する北方四島在住のロシア人を招いて、日本社会の生活、文化の体験を通して、相互理解と友好親善を深め、北方領土問題解決に向けての環境づくりを図る」ことを目的として、北方四島交流北海道推進委員会（十居博昭会長）の初めての事業を北方圏センターが受託し、実施した。期間は5月18日から6月末までの40日間。研修生は、教員、地区行政の職員、図書館司書、水産加工場の工員など職業も様々な、25歳から51歳までの男性3名、女性7名の計10名（国後島4名、択捉島4名、色丹島2名）であった。



研修生の滞在と日本語研修の場所としたのは、北海道国際センター。5月18日へ全員乗換のなか、研修内容や滞在中の留意事項についてオリエンテーション。翌日から早速、3クラスのレベルに分かれて日本語の研修を開始。毎日宿題が出され、まさに日本語漬けの生活となった。週末には、折り紙、書道、茶道、華道等の日本文化体験や北海道開拓記念館などの文化視察などのエクスカージョン等も実施した。また、ホームステイや宿泊研修で多くの日本人とふれあう機会も設けた。

豊富に盛り込まれた長期間のカリキュラムであったが、終了時には、受講生全員が「機会があればもう一度受講したい」などの感想を述べた。

【Hopoken】 第117号

◆「国際理解促進事業」北村交流会に参加

国際協力理解促進事業として毎年、空知管内北村の夏祭り「田舎（かっぺ）フェスティバル」にあわせて実施している事業で、今年度は、北村国際交流協会の設立10周年にあたることもあり、インドネシアやタンザニア、ハンガリー等からのJICA研修員が初めて参加して、地元の小中学生とゲームを通しての交流やイベントに出場した。さらに、例年通り、ブラジル、中国、ロシア、アルゼンチン、パラグアイ、チリ、プータン、ネパールなどからの北海道海外技術研修員と自治体職員協力交流員、サハリン技術研修生ら大勢が参加した。

【Hopoken】 118号

◆「地球市民国際理解講座」開催

道民一人ひとりに国際的な視野を、との目的で今年度6回開催を予定している「地球市民国際理解講座」の第1回目を7月27日、長万部町と共催で同町学習文化センターにおいて開催した。講師のJICA青年海外協力隊OB立石善裕氏が「アフリカ・ケニアで活動した経験から「国際協力って何だ？」と題し、「地球市民」という考え方や身近な国際協力の大切さ、日本人が忘れてしまったことなどについて講演した。

「途上国であるケニアの生活や考え方の中にある、余分な開発をせず次世代のために残すという分かち合いの気持ち、エゴの反対、みんなに対してオープンな気持ち。ケニアの人たちの方がずっと地球市民的な感覚です。そして、自分だけを考えているのではなく家族など他人のことを考える。この延長が世界や地球市民という考え方につながる。国際協力とは、与えるものではなく逆に教えられること。経済発展の上で忘れたものを彼らから学ぶ、これが国際協力であると思う」と語った。

【Hopoken】 117号

	13	5	5	6	6	6	7	8	8	10	10	11	11	12
	飯）開催 〔国際協力推進団体との懇話会（NRC） 参加・18団体 開催	〔北方四島交流（日本語習得研修）受入（札幌、他）〕〔参加・国後島4名、択捉島4名、色丹島2名〕実施〔委託・北方四島交流北海道推進委員会〕〔現在継続〕 〔海外自治体職員協力交流〕（中国1名研修受入れ 実施〔委託・北海道〕 〔海外技術研修員受入〕（中南米4カ国8名、アジア3カ国5名研修受入れ）実施〔委託・北海道〕 〔サハリン州技術研修員受入〕（2名）実施〔委託・北海道〕	〔国際協力推進団体との懇話会（NRC） 参加・18団体 開催	〔国際理解促進事業〕北村交流会参加（小中学生を対象に研修員との交流会等）開催（以後、年度内に札幌5回、帯広6回実施） 〔地球市民国際理解講座〕〔講師・JICA青年海外協力隊OB・立石善裕氏（長万部）〕開催 〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施	〔留学生交流ふれあい事業〕（砂川〔6カ国1地域28名〕開催 〔NRC会員海外旅行〕招待派遣（北欧4カ国、2名）実施

◆「国際交流団体連絡会議」(北見・石狩) 開催  
 北海道内で活動する国際交流団体間の連携を深めることを目的に、各団体の活動状況などの報告や意見交換の会議を2回開催した。

1回目は、11月10日に北見市で網走地区内の国際交流7団体9名が集まって開かれた。2回目は、12月1日、石狩地区、空知地区、胆振地区の11団体17名が石狩市での会合に参加した。

いずれも、地球市民国際理解教室と併せて開催し、参加者は講師の話に熱心に聞き入り、講師をアドバイザーに、国際交流団体の活動内容や事業推進の課題などについて意見交換を行った。

【'02年報】

◆「留学生フォーラム『北海道へのメッセージ』

～北の大地の留学生から～開催

北海道の地で学ぶ留学生が、専門の学問を超え、住んでいる地域を越えて一堂に会し、共通の話題について話し合いや交流の機会を提供するため、留学生の在籍する道内各地の大学や高等専門学校との協力を得て、3月21日から24日までの4日間、北方圏センターを中心に開催した。

参加した留学生は、バングラデッシュ、ミャンマー、中国、ブルガリア、エチオピア、モンゴル、韓国、インドネシア、ブラジル、トルコ、スリランカなど、道内14大学・高等専門学校から推薦を得た12カ国1地域26名。

フォーラムでは、次の4つをテーマに、分科会で討論を重ね、本会記で



それぞれの意見を発表することとなったが、真摯で率直な感想や意見が述べられた。1・北海道・日本との出会いと地域の人々との交流(交流で感じた印象)、2・異文化としての北海道との出会いで生じた自己の変化(北海道での生活による自己の内面的変化)、3・北海道での留学体験を将来どのように生かしていくか、4・後に続く留学生のために、道民への提言(道民に対する希望やあってほしい姿)

最後に、北の大地の留学生は彼ら自身の留学生生活に対する希望や要望だけでなく、北海道の美しさの認識や若者達への敬老精神の喚起などを指摘してくれる内容の濃い「北海道へのメッセージ」を発信してくれた。

なお、留学生には、事前にアンケート、終了時に感想文の記述を依頼し、報告書にまとめた。

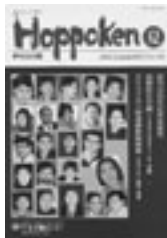
《本事業は(財)中島記念国際交流財団による留學生地域交流支援事業として実施したもの》

【留学生フォーラム『北海道へのメッセージ』  
 ～北の大地の留学生から～報告書】

◇「Hopoken」創刊30周年記念特集号を発売

昭和47年11月に「北方圏を考える」季刊誌として創刊されて30周年を迎え、誌齢も1200号を数えた。巻頭辞は「Hopoken」創刊30周年に寄せて」と題して堀達也知事の特別寄稿。

また、「北方圏と私」と題してゆかりのある方々からの寄稿をはじめ在札の大学生9名による「座談会・異文化理解」、さらに、長年にわたって寄



稿をいただいている「海外レポート」寄稿者によるインターネット会議録など、152ページに及ぶ記念企画を満載して発刊した。

7	7	6	6	6	5	5	3	2	2	2	2	2	12
「国際協力推進団体との懇話会」(NRC) [参加・19団体] 開催	「国際協力推進団体との懇話会」(NRC) [参加・19団体] 開催	「国際理解促進事業」(小中学生を対象に研修員との交流会等開催)以後、年度内に札幌5回、帯広2回実施 [Hopoken] 創刊30周年記念特集号発売刊 「国際交流団体連絡会議」(函館市)開催 参加・道南、胆振、後志地区9団体 「国際協力推進団体との懇話会」(NRC) [参加・19団体] 開催	「サハリン州技術研修員受入」(2名)実施 (委託・北海道)	「海外自治体職員協力交流」(中国1名研修員受入)実施(委託・北海道) 「海外技術研修員受入」(中南米3カ国5名、アジア3カ国5名、アフリカ1名研修員受入れ)実施(委託・北海道)	「北方四島交流」(日本語習得研修)受入事業(札幌、他)実施(委託・北方四島交流北海道推進委員会)	「海外自治体職員協力交流」(中国1名研修員受入)実施(委託・北海道) 「海外技術研修員受入」(中南米3カ国5名、アジア3カ国5名、アフリカ1名研修員受入れ)実施(委託・北海道)	「国際協力推進団体との懇話会」(札幌C) [参加・10団体] 開催 「留学生フォーラム」北海道へのメッセージ(北の大地の留学生から) (NRC) [参加・12カ国1地域26名] 開催(助成・(財)中島記念国際交流財団)	「国際協力推進団体との懇話会」(札幌C) [参加・10団体] 開催 「国際協力セミナー」(2部構成) (サッポロファクトリーホール) 開催(共催・外務省) 「地球市民国際理解講座」(講師・スペイン語講師・エンカルニータ・荒井氏(中頓別)) 開催	「国際理解講演会」(講師・評論家・金美麗氏(苫小牧、静内)) 開催(共催・苫小牧市、静内町、他)	「国際理解講演会」(講師・評論家・金美麗氏(苫小牧、静内)) 開催(共催・苫小牧市、静内町、他)	「国際理解講演会」(講師・評論家・金美麗氏(苫小牧、静内)) 開催(共催・苫小牧市、静内町、他)	加・石狩、空知、胆振地区11団体 「地球市民国際理解講座」(講師・外務省内広報課長・宮下孝之氏(石狩)) 開催 「地球市民国際理解講座」(講師・翻訳家・テボラ・デビッドソン氏(美瑛、朝日)) 開催	



◆「留学生ふれあい交流事業」開催

8月31日、9月1日の両日、札幌、旭川、北見からの8カ国1地域31名の留学生が「下川町ふるさとまつり」に参加した。今回の事業はタイトルを『ふるさとまつりふれあい交流inしもかわ』。到着の夜の歓迎会では下川国際交流会の会、ホストファミリー、町関係者など1000人が参加した。



16家庭でホームステイをし、翌日午前は下川囃子の踊りとむかでの練習。午後は下川町の新名所「万里の長城」を視察。夜は用意されたゆかたとはっぴ姿で「まつり」に参加。踊りの輪に飛び込んだ。「町中の人たちに歓迎されてとても嬉しい」と留学生。まつりのもう一つのイベントは「むかで競争」。3チームに分かれ参加した。留学生チームがコースを走る間拍手が続いた。

出身国も年齢も違う留学生たちが一つになつていった。そして、ホストファミリーや関係者の温かいもてなしの中で、留学生たちは下川町民の中に溶け込んでいた。

【Hopoken】第121号】

◆「北海道・ブラジル青年交流団受入」実施

ブラジルにおける北海道出身者の子弟が父祖の地について認識と理解を深め、北海道とブラジルの友好、発展に役立てようと北方圏センターでは隔年で北海道・ブラジル青年団を受け入れている。今年も主にサンパウロ市周辺から青年7名と団長2名が来道した。10月8日から18日までの11日間の滞在では、北海道開拓記念館をはじめ生活・文化・産業等の視察や札幌東商業高等学校を訪問

し生徒達との交流を行った。また、それぞれの父祖のゆかりの地を訪れて、ホームステイを行い北海道生活を体験した。

団員の一人、市原の充美(いちほら・のえみ)さんは「日系人が家族の出身地を訪れることができるのは、良い機会だと思います。これからもこの交流を続けてください」と、お世話になった人達にお礼を述べていた。

【Hopoken】第122号】

◆「北海道海外派遣事業」(国際協力研修)実施

現地関係者との意見交換などを通じて、開発途上国における国際協力の実態と道内活動の差異や効果的な協力事業のあり方を習得することを目的に、国際協力研修派遣(タイ・ヴェトナム班)が、10月23日から11月1日の10日間実施され、国際協力事業団(JICA)事業の取り組み、現地のNGO活動の状況について理解を深めた。参加者は道内各地から選考された団員10名、及び団長1名、総務1名の計12名。

団員の一人は「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン・ヴェトナム事務所」訪問での印象を次のように記している。「ヴェトナム事務所が行う事業の最終目標は『自立させる』ことだという。それまでの私は『援助』『イコール』『支援』だと理解していたが、ここに来てその方程式が崩れ去り、認識の革命に取り組むことにした。」

そして、団長を務められた細川武雄氏は「我々の研修に参加した団員はJICA、NGOの活動を視察して学んだことをベースに、そして訪問したところで見られた屈託のない子供の笑顔をいつまでも忘れずに、身近なところから役に立つことを心掛けていきたい」と、誰もがそっ心に誓ったと信じている」と結んだ。

【北海道海外派遣事業2002】報告書】

8	8	9	9	10	10	10	10	10	10	10	12	12	1	2	2
「NRC会員海外旅行」招待派遣(カナダ・北米、2名) 実施	「留学生ふれあい交流事業」(下川「8カ国1地域31名」開催(共催:下川町国際交流ふれあい事業実行委員会、助成:中島記念国際交流財団)	「第11回ロシア極東企業経営指導者育成支援事業(札幌他)実施(委託:北海道【本年度で終了】)	「国際交流団体活性化促進事業」(講師:ドイツ人・パーベンティン・ハイケ氏(旭川市・嵐山小中学校)開催)	「北海道海外派遣事業」(国際交流研修:カナダ・アメリカ(10名)実施)	「国際協力セミナー」(世界のために働きたい!)(2部構成)(サッポロフアクトリーホール)開催(共催(財)札幌国際プラザ)	「北海道・ブラジル青年交流団受入」(9名)実施	「国際理解講演会」(講師:女優・星野知子氏(旭川、北見)開催(共催:旭川市、北見市、他、助成:財)自治総合センター)	「北海道海外派遣事業」(国際協力研修:タイ・ヴェトナム(10名)実施)	留学生交流支援「ふれあいトークin北海道」(ニセコ「4カ国23名」開催)	「国際交流団体連絡会議」(旭川市開催(参加:上川、宗谷地区16団体)	「留学生ふれあい交流事業」(上磯「9カ国1地域25名」開催(共催:上磯町スノーランドかみいそ実行委員会、助成:中島記念国際交流財団)	「国際交流団体活性化促進事業」(講師:ニュージールランド・メイヨン・リス・ウィリアム氏(函館市・稜北高校)開催)	「国際交流団体活性化促進事業」(講師:セネガル・ママドゥ・ロイー氏(枝幸町・問牧小学校)開催)		

# 地域に、暮らしに根ざした、 本音の情報発信



新鮮な素材を金曜日にお届けします  
ニュース

週刊 **札幌タイムス**★

■購読のお申し込みは■



**0120-4946-54**

よくよむ いーよ

(株)北海道21世紀タイムス

[www.sapporotimes.co.jp](http://www.sapporotimes.co.jp)

# 第V章

## 交流の拡大と地域国際化の推進

21世紀を迎えての「国際交流」は、ある意味で「国際協力」の側面をもっているのではないだろうか。アフリカなどの飢饉に苦しむ人々に小麦を届けばそれで協力したと考えるのではなく、そうではないことを気づいてもらうための、セミナー、講演会、講座などが道内各地で開催されるようになってきた。

北方圏センターでも小・中学生を対象とした「国際理解教室」や、一般市民も参加する「地球市民国際理解講座」などを関係団体やNGO・NPOの協力を得て開催している。その主たる目的は、「それまで知らなかった国を、人々を、世界を知ってもらう機会を作ること」である。ひとは「知る」ことでその対象を「身近か」に思うことが出来る。身近かになった人々のために、何か役に立ちたいと行動を起こすことこそが「国際協力」への参画につながっていく。

国際協力の例として、農産物の栽培や加工のノウハウを、アフリカ・マラウイ国からのJICA研修員に学んでもらい、マラウイの農業生産に役立ててもらおう事業が続いている滝川市のケースがある。

このような、それぞれの国が必要

としている技術を伝え、役立ててもらうことが重要であり、国際協力の意味があるのではないだろうか。北方圏センターもささやかながら、各国の現状を知ってもらう機会として各種の「講座」を実施している。

**いれかにいれ**

北方圏センターは平成20年4月、設立30年という大きな節目を迎えた。これまでの活動を振り返り、今後の活動につなげるために、全道各地で様々な記念行事を実施するとともに、今後のセンター活動のあり方の点検・検討に向け有識者による『あり方検討委員会』を設置した。ますます進展するグローバル化時代の中で、地域社会に求められるものは何か、地域社会としてグローバル化にどう対応するかを明確にする必要がある。つまり、国際交流や国際的なつながりをどのように地域の活性化につなげていくかということである。

この設立30周年を迎えた今、北海道の中核の国際交流団体として、世界とのさらなる「交流」「発信」「連携」に向けて一層の役割発揮を目指して行きたいと考えている。

### KYOWA PRINTING

質の高い「ビジュアル・コミュニケーション」をささえる商業印刷専門企業——



企業と生活者を結ぶ

**協和印刷株式会社**

〒063-0834 札幌市西区発寒14条14丁目2番50号  
TEL (011)666-1641・FAX (011)669-2332

# 《平成15(2003)年～同20(2008)年》

～市民生活に溶け込んだ国際交流と地域との連携の中で～

### 地域の国際交流団体や市民との連携・協力

国際交流の中心が少しずつ変化し始めている。従来、国際交流と聞いて思い浮かべるのは、海外へ出かけていく、海外から人を招いてシンポジウムをする、ホームステイをするというのが多かった。しかし現在では、海外に出かけていくよりも、国内で日本人を対象にした異文化理解とか、国際理解を進める事業をするとか、在住外国人を対象とした活動、国際協力を目指した活動に変化してきている。

また、地域レベルで行われている国際交流は、海外との交流から離れ、地域社会を巻き込んで多様化した交流になってきている。その一方で、自治体が財政難ということもあり、自治体の国際交流活動、あるいは国際交流協会の活動が低迷、停滞していることも否めない。

それを打開するためには、個々の国際交流団体がそれぞれにその活動をするだけでなく、相互に連携・協力して、一体となって活動を進めることが必要ではなからうか。

そのためには、国際交流においても各団体がそれぞれに地域に根ざし

て一般市民、学校、企業、NPO、いろいろな人々とのネットワークをつくり、さらにこれらの団体同士がネットワークをつくる。そのネットワークにおいて情報の交換と共有をすることによって、さらなる活動が期待できると考えられる。

このような観点から、北方圏センターでは「地域国際交流会議」「国際交流団体懇話会」を年2回ほど開催し好評を得ている。

### 「北方圏理解講座」の開催

国際協力や東南アジア、南米など全方位の国際交流の推進も加わって、交流の幅が拡大した北方圏センターの活動だが、北方圏諸国の産業経済や生活文化等に対する学習とアップデートな情報交換を図る場として平成15年に「北方圏講座」を開設した。

その第1回は5月26日、駐日スウェーデン大使のミカエル・リンドストローム氏を講師に迎えて「スウェーデンの環境政策」と題する講演を行った。第2回は6月17日、「スウェーデンの研究者が見た北海道の知的サービス産業の現状」と題して、講師にはスウェーデン・ヨーテボリ

大学の講師パトリック・ストローム氏と同大学15名の学生たち。一行は北海道東海大学に短期留学して、北海道を研究している。

以後、北方圏諸国からのゲストを迎えて、政治、経済、文化をテーマに、15年度4回、16年度からは各年度6回開催し好評を得ている。

### 新たな国際協力事業の推進

北方圏センターが推進してきた北方圏交流は、北海道の生活文化の向上に大きな成果をあげることができた。やがて、いつの頃からか北海道でも「国際協力」の必要性が唱えられるようになった。このことは取りも直さず、世界の紛争、貧困、日常的な食料や飲料水の不足、飢餓や幼児の死亡率などがジャーナリズムに取り上げられ、世界のNGOやNPOの活動が具体的に紹介されるようになったことが背景にある。

第二次世界大戦で疲弊した日本に小麦を、子供たちに粉ミルクを送ってくれたのはユニセフ、ケアなどの国際機関であった。そのミルクで育った日本人は、ともすると「国際協力」「イコール」「援助」「支援」と、とらえる傾向にあるかもしれない。



◆「エネルギー問題懇談会…北東アジア地域のエネルギー事情」開催

5月30日、国際会議場において、日本エネルギー経済研究所から3名の研究者を招いて北方圏センター・エネルギー問題懇談会として講演会「北東アジア地域のエネルギー事情」を開催した。

講師の同研究所常務理事・兼清賢介氏は「北東アジア地域のエネルギー事情とシベリア原油パイプライン」と題して、拡大する北東アジア地域のエネルギー需給と効率的な原油輸送体制を確立するには、この地域をネットワークするパイプラインの敷設が必要であることを強調。また、同・国際協力プロジェクト部長の福島篤氏からは、北東アジア地域の石炭需給の問題と中国、極東地域の石炭汚染等の環境問題について「この北東アジア地域においては、石炭は今後も重要なエネルギー資源であり、そのための環境対策に日本は大きく貢献できる」と語った。北東アジア地域は、サハリンI、IIの資源開発が本格化しており、この地域のエネルギー安定供給が大きな関心事となっていることから、会場にはシンクタンク、研究者、自治体、企業等の関係者約60人が参加。メモを取るなどして熱心に聞き入っていた。

【Hopoken】第125・126号

◆「北方圏講座…スウェーデンの研究者が見た北海道の知的サービス産業の現状」開催

北海道東海大学と共催で6月17日、国際会議場で北海道の知的サービス産業を考えるセミナーを開催した。

このセミナーは毎年、スウェーデンのヨーテボリ大学から北海道東海大学に留学している学生たちの研究発表会として実施しているもの。本年15名の留学生たちの研究テーマは「知的サービスは北海道経済活性化の救世主か?」。学生たちの発表

に先立って、ヨーテボリ大のバトリック・ストローム講師が「スウェーデンにおけるビジネスサービスと日本企業の国際化」と題し講演。「日本経済は世界第2位の規模だが、サービス産業部門では非常に遅れている。今後は専門的なビジネスサービス分野の成長が必要」と指摘した。また、学生5人による調査結果の発表では「北海道にとって重要な要因は、大学等の高度な教育水準を持った学生を生み出す教育制度を促進し、企業へのサポート体制を提供するクラスターの形成が必要」と提言した。会場には、行政関係者、大学生、高校生ら40人が熱心に聴講していた。

【Hopoken】第125号

◆「留学生ふれあい交流事業」開催

北海道で学ぶ海外からの留学生に道内各地のイベントに参加してもらい、地域の人々との交流や親睦を図り友好親善や相互理解の推進を目的とした留学生派遣事業を8月1日～3日(由仁町)と翌年の3月4日～6日(鹿追町)に実施した。

由仁町には「ふれあい交流in夏まつり・ゆに」として、札幌市、札幌市近郊、苫小牧市、音更町の大学に学ぶ4カ国28名の留学生が参加。ホームステイをしながら町内の特色ある農家、庭園、郷土資料館等の視察の他、そば打ちの体験や祭りイベントのムカデ障害物競走等に挑戦し、地元町民らの喝さいを浴びた。また、鹿追町では「ふれあい交流inしかおい」として、札幌市、札幌市近郊、苫小牧市、帯広市、音更町の大学に学ぶ14カ国1地域34名の留学生が参加。氷結した然別湖の自然に触れたり、鹿追町で農業の傍ら多くの油絵を描いた農民画家・神田日勝記念館等を視察の他、「そば打ち」や「ソーセージ作り」などを体験。留学生は、ホームステイや各種の交流会を通して町民との交流を深めた。

【04年報】

15	度	事業等開催状況
4	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際協力推進団体との懇話会」(NRC) 〔参加・23団体〕開催</li> <li>「北方四島交流」日本語及び日本文化研修 受入(札幌、他) 実施 〔委託・北方四島交流北海道推進委員会〕</li> <li>「北方圏講座…スウェーデンの環境政策」〔講師・駐日スウェーデン大使・ミカイル・リンドストロム氏(NRC)〕開催</li> <li>「エネルギー問題懇談会…北東アジア地域のエネルギー事情(NRC)」開催</li> <li>「海外技術研修員受入」(中南米3カ国7名、アジア1カ国2名、アフリカ1名研修員受入) 実施 〔委託・北海道〕</li> <li>「サハリン北海道入会子弟等通訳員養成研修員受入」(1名) 実施 〔委託・北海道〕</li> <li>「北方四島交流」日本語習得研修「I」受入(札幌、他) 実施 〔委託・北方四島交流北海道推進委員会〕</li> <li>「北方圏講座…スウェーデンの研究者が見た北海道の知的サービス産業の現状」〔講師・ヨーテボリ大学講師・バトリック・ストローム氏、他(NRC)〕開催</li> <li>「国際協力推進団体との懇話会」(NRC) 〔参加・20団体〕開催</li> <li>「留学生ふれあい交流事業」(由仁「4カ国28名」開催(共催)、由仁町国際交流協会、他、助成・中島記念国際交流財団)</li> <li>「北方四島交流」日本語習得研修「II」受入(札幌、他) 実施 〔委託・北方四島交流北海道推進委員会〕</li> <li>「小中校生の国際理解教室(国際交流団体活性化促進事業)」〔講師・ニュージランド・メイヨン・リス・ウィリアム氏(深川・多度志小学校)〕開催</li> <li>「NRC会員海外旅行」招待派遣(ロシア・モスクワ、他、1名) 実施</li> <li>留学生交流支援「ふれあいトークin北海道」</li> </ul>
9	月	
9	月	
9	月	
8	月	
8	月	
6	月	
6	月	
6	月	
6	月	
5	月	
5	月	

◆「北方圏センター25周年記念・金道国際交流シンポジウム」開催

北方圏センターの発足25周年を記念し、11月18日、京王プラザホテル札幌を会場に道内の国際交流団体や自治体の関係者が参加して「金道国際交流シンポジウム」を開催した。



「グローバル化時代の地域社会と国際交流を考える」をテーマとしたシンポジウムには、道内の自治体、国際交流団体、NPO法人等の関係者ら約250人が参加。基調講演では、

日本国際交流センター・チーフ・プログラマーオフィサーの毛受敏浩氏が「グローバル化時代の地域社会と国際交流」と題して「現在、地域における国際交流が多様化するなど、大きな曲がり角に来ており、もう一度再確認する必要がある」など、自治体の厳しい財政難のなかで国際交流団体等は、地域のニーズを取り込んで、それを発信し続けるなど、たゆまぬ努力が必要であること、また、国際交流は閉塞感を刺激する目的意識と戦略性の明確化が必要であることを指摘した。

続いて開催されたパネルディスカッションでは「地域における国際交流の課題と展望」について、フリーアナウンサーの林美香子氏をコーディネーターに、パネリストに滝川市長・田村弘氏、元札幌国際プラザ専務理事・杉岡昭子氏、酪農学園大学教授・松本懿氏、北方圏センター副会長・専務理事の町田真英氏の4名を迎え、さらに毛受氏が

コメンテーターとして加わって始められた。

各パネリストからは、「国際交流から新たな視点を見出すことが必要(田村氏)」、「若い人の国際理解教育を進めることが必要(杉岡氏)」、「理念・目標・戦略など政策が問われている(松本氏)」、「国際協力や交流団体間の連携と協力を積極的に(町田氏)」などの意見や提案がなされ、多くの参加者が熱心に聞き入っていた。また、休憩後の分科会では、各パネリストをアドバイザーに、第1分科会「市民レベルでの国際交流・協力事業の進め方」、第2分科会「姉妹都市交流の活性化」、第3分科会「交流団体の運営と活動のあり方」について、事例発表を交えて活発な意見交換が行われた。

【Hopoken】第126号

◆「国際理解講演会・ダニエル・カールの日本見聞録」開催

山形弁の研究者として、また、何でもこなすマルチタレントとして活躍しているダニエル・カール氏を講師に、2月25日、26日の両日、砂川市と東川町で国際理解講演会を開催した。

ダニエル・カール氏は、日本での留学経験やAETとして過ごした山形県での失敗談や楽しいエピソードを紹介し、その体験から、日本の不思議さや日本人の良さ、そして、日本人が外国人との交流を進める上で心がける点について、得意の山形弁を交えながら熱く語った。特に、「コミュニケーションの大切さについて」、「コミュニケーションは日本語の『やりとり』でも、日本人は情報聞き出す『とり』は得意だが、これだけではコミュニケーションにならない『やりとり』だから『やり』も必要。外国の方には日本のこと、北海道のことをもっと自慢してみてもどうか」と、もつとお国自慢をする方がよいなどと提案した。

【Hopoken】第127号

9	道」(浜益「2カ国28名」)開催 「ロシア極東の企業経営指導者の育成支援業(札幌、他)実施(委託・ロシア東欧貿易会)
10	「国際協力セミナー・ピリス・トリーク(5部構成)」「サツポロフアクトリール」開催(主催・JICA、共催・(財)札幌国際プラザ、他)
10	「北海道海外派遣事業」(国際交流研修・英国・デンマーク・ドイツ(10名)実施 「北海道海外派遣事業」(国際協力研修・カンボジア・ベトナム(10名)実施)
11	「北方圏センター25周年記念・金道国際交流シンポジウム」(基調講演講師・(財)日本国際交流センター・毛受敏浩氏(京王プラザホテル札幌)開催 「国際協力セミナー」(開発教育北海道キヤラバン)(函館、他)開催(共催・JICA)
12	「北方圏講座」(フィンランド経済の奇跡とその要因)(講師・前駐フィンランド大使・長谷川憲正氏(NRC))開催 「小中校生の国際理解教室(国際交流団体活性化促進事業)」(講師・アメリカ・ブライアン・ブレベンス氏(朝日・朝日中学校))開催
1	「北方圏講座」(変革まっただ中のラップランド)「講師・フィンランドラップランド大学事務総長・ユハニ・リルベリ氏(NRC)」開催
2	「国際理解講演会・ダニエル・カールの日本見聞録」(講師・タレント・ダニエル・カール氏(砂川、東川))開催(共催・砂川市国際交流ふれあい委員会、東川町国際文化交流協会、助成・自治体総合センター)
2	「小中校生の国際理解教室(国際交流団体活性化促進事業)」(講師・ニュージールランド・メイヨン・リス・ウィリアム氏(津別・津別高校))開催 「留学生ふれあい交流事業」(鹿追)14カ国1地域(34名)開催(共催・鹿追町国際交流
3	

◆「スウェーデン手工芸品展」開催

北海道スウェーデン協会、道新文化センターと共催して、スウェーデン・エステルヨトランド県ハンドクラフト協会のアーチストによる手工芸品、約500点の展示会を5月14日～25日、道新ぎやらりー（札幌市）で開催した。

作品は、木工、テキスタイル、布、刺繍、ワイヤー細工、陶芸など、スウェーデン東部地域の伝統的なものから、現代アート風のものまで、所狭しと展示された。来道した11名のアーチストらは色鮮やかな民族衣装を纏うなど、会場を一層華やかにし、来場者に自分の作品の制作意図や制作技法等を詳細に説明していた。展示品は全て希望者に販売することから、われ先にと予約する人が殺到し、関係者をあわてさせる一幕も。また、オープニングでは、この展示会が北海道とスウェーデンの関係者の努力により実現したことを象徴して、テープカットではなく、両国国旗のシンボルカラーのテープを硬く結ぶことで、記念レモニーとした。期間中、来道のアーチストラが講師となったセミナーやワークショップ、さらに商談会やレセプションには、多くの愛好家らが参加した。

【Hopoken】第128号

◆「財団法人北方圏交流基金と社団法人北方圏センターが統合」

北海道の国際交流等を担う（社）北方圏センター、（財）北方圏交流基金及び（財）北海道海外協会の3団体を統合し、より効率的で効果的な運営を図ることになり、この団体統合に先行して、7月1日（財）北方圏交流基金を統合した。（財）北方圏交流基金は、民間団体等の北方圏交流事業に資金的支援を目的に、昭和53年7月に設立した。北方圏交流基金の事業は、北方圏センターが継続する。

【Hopoken】第128号

◆「カルチャーナイト2004」へ参加

北方圏センターでは、7月23日、官公庁や企業の施設を夜間に開放して、文化行事を開催する「カルチャーナイト」に協賛して、本年度から実施。これは、デンマーク・コペンハーゲン市で開催されている行事を札幌でも開催したいとのことから、昨年から市民らにより開催されているもの。道庁別館12階の北方圏センターでは、「世界の人と話そう、世界の人と遊ぼう」をテーマに、フィンランドの伝統楽器「カンテレ」の演奏会や国際会議場で同時通訳による本格的な国際会議の体験。さらに、海外からの研修生らによる自国の伝統的な遊びを体験、世界の切手でのしおりづくりなど、日頃あまり体験できない国際交流がテーマであることから、大勢の親子連れが参加した。



（カルチャーナイト2006より）

【Hopoken】第129号

◆「ロシア極東の企業経営指導者の育成支援事業」実施

ロシア東欧貿易会からの委託を受け、9月12日から20日までの9日間、ロシア極東地域の企業家の育成と北海道との経済交流を促進するため、サハリン州、ハバロフスク地方、沿海地方から「水産加工関連企業」の経営者6名を受け入れ、道内各地の関連企業での研修や意見交換などを実施した。

この「ロシア極東の企業経営指導者の育成支援

16	協会、助成：中島記念国際交流財団
5	「スウェーデン手工芸品展（展示会・セミナー・ワークショップ）」（道新ぎやらりー、他）開催（同実行委員会に参加）
5	「北方四島交流「日本語習得研修・I」受入」（札幌、他）実施（委託：北方四島交流北海道推進委員会）
5	「北方圏講座・スウェーデンに学ぶ地域開発の最新動向」（講師：東スウェーデン地域連合会議議長・イルマ・ヨルツ氏（NRC））開催（共催：北海道スウェーデン協会）
5	「北方圏講座・最近のスウェーデン・ニュース」（講師：駐日スウェーデン大使・ミカエル・リンダストロム氏（NRC））開催（共催：スウェーデン交流センター）
5	「海外自治体職員受入」（中国・黒竜江省1名）実施（委託：北海道）
6	「海外技術研修員受入」（ブラジル1名、パラグアイ1名、アルゼンチン1名）実施（委託：北海道）
6	「北方四島交流「日本語習得研修・II」受入」（札幌、他）実施（委託：北方四島交流北海道推進委員会）
6	「北方圏講座・研究者が見た北海道の知識産業」（講師：スウェーデン・ヨーテボリ大学教授・クラリス・アルブスタム氏（NRC））開催（共催：北海道東海大）
7	「財団法人北方圏交流基金」を統合
7	「サハリン北海道人会」上弟等通訳員養成研修員受入」（1名）実施（委託：北海道）
9	「カルチャーナイト2004」へ参加
9	「ロシア極東の企業経営指導者の育成支援事業」（札幌、他）実施（委託：ロシア東欧貿易会）
9	「国際協力推進団体との懇話会」（札幌）
9	「参加：9団体」開催
9	「小中高生の国際理解教室」（講師：アメリカ・エバン・ターキントン氏、他（釧路・江南高校））開催



事業」は、平成4年9月に設立された「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力に関する常設合同委員会」で採択された「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力プログラム」事業の一環として、同年の第1回開催から北海道からの委託を受けて、実施してきた。

平成8年までの5年間は、ハバロフスク地方、沿海地方、サハリン州の3地域から企業幹部や行政関係者に対して極東地域での市場経済システムの理解の増進を図る目的で産業・経済・行政、流通、貿易などに関する11の講義と、卸売市場、製造工場、港湾施設、各種産業視察などの研修を実施した。また、平成9年からは、ロシア3地域側の希望により縫製業、金融業、道路建設業、観光業、リース業などテーマが絞られ、北海道の特色ある施設や企業を訪問し幹部による講義や視察を通して専門性を重視した実践的な研修として実施してきた。

平成4年の第1回実施以来13年間継続してきた本事業は、ロシア極東地域の経済の進展と安定により本年度をもって幕を下ろすことになった。本事業には、3地域から104名が参加している。なお、平成15年からは、ロシア東欧貿易会からの委託事業となつて継続された。

【企業経営指導育成支援事業報告書】

◆「北方圏講座：ロシア・沿海地方投資セミナー」開催

10月5日、当センター会議室で、国連工業開発機構（UNIDO）が招聘したロシア・ウラジオストク市経済管理委員会のセルゲイ・イワノビッチ・ペロライネン副委員長を招いてセミナーを開催した。ペロライネン氏は、日ロ経済関係の進展に伴って、日本から沿海地方への投資が急速に拡大し、2003年度の実績では、3860万ドル、

全体投資額の50%以上になると評価。また、沿海地方の豊富な天然資源である木材、水産物、鉱物等への日本からの更なる投資に期待を寄せた。さらに、ウラジオストクは極東地域における産業の中心地であり、モスクワとの距離は1万<sup>キ</sup>あるが東京とは1000<sup>キ</sup>強、北海道とはさらに近いと地理的優位さがあることを強調した。

【Hopoken】第130号

◆「地域国際交流会議：地域社会と国際交流を考える」開催

北海道市長会と共催で地域で活動する国際交流団体間の連携等を目指して、11月26日北方圏センター会議室で、27日函館市で開催した。

26日の北方圏センターでは、石狩、後志、空知の道央地区の国際交流団体や市町村の教育委員会、NPO法人などから担当者ら80人が参加。姉妹都市交流、交流団体の運営、地域の活動をテーマにグループディスカッションを実施した。引き続き、財団法人日本国際交流センター・プログラムオフィサーの毛受敏浩氏が「地域社会と国際交流を考える」と題して基調講演を行った。毛受氏は「社会のグローバル化がヒト、カネ、モノ、情報の広がりを加速させ、社会現象を変化させている。これが、国際交流にも質的变化をもたらしており、転換期を迎えているといえる」と、今日の国際交流を位置付けた。その上で、国際交流の意義について「異文化と接触することで地域の閉鎖性が打破出来る」「地域の歴史・文化の再発見と活性化に結び付く」など6つの貢献要素を挙げ、質の高い事業を目指して違う分野との協働を展開し、地域になくはない活動を追及することが大切であることを強調した。

なお、27日は函館市で道南地区会議として開催された。

【Hopoken】第130号

10	「北海道海外派遣事業」（国際交流研修：カナダ・アメリカ（10名）実施）
10	「北海道海外派遣事業」（国際協力研修：カンボジア・タイ（10名）実施）
10	「国際理解講演会」（講師：料理研究家・カリー・西條氏・森町）開催（共催：森町、他）
10	「北海道国際協力フェスタ2004」（サッポロファクトリーホール）開催（同実行委員会に参加）
10	「北方圏講座：ロシア・沿海地方投資セミナー」（講師：ウラジオストク市経済管理委員会副委員長・セルゲイ・ペロライネン氏（NRC）開催（共催：北海道、他）
11	「地域国際交流会議：地域社会と国際交流を考える」（基調講演講師：財団法人国際交流センター・毛受敏浩氏（NRC）開催
11	「地域国際交流会議：新ホランティア時代と国際交流を考える」（函館市）開催
11	「小中高生の国際理解教室」（講師：セネガル・マドゥー・ロー氏（様似町・鶴苫小学校、他）開催
12	「北方圏講座：ロシア極東地域ビジネスセミナー」（講師：ウラジオストク市本センター所長 浅井利春氏、他（NRC）開催（共催：北海道経済国際化推進会議、他）
2	「日本・ノルウェー国交樹立100周年記念セミナー」（札幌パークホテル）開催（同実行委員会に参加）
2	「留学生地域交流支援・異文化・多文化コミュニケーションin北海道」（日高町・平取町（10カ国31名）実施（共催：日本学生支援機構札幌支部、助成：中島記念国際交流財団）
3	「国際協力推進団体との懇話会」（NRC）（参加：21団体）開催
3	「北方圏講座：今後の中国と北海道の交流を考える」（講師：駐札幌中華人民共和国総領事・李鉄民氏（NRC）開催（共催：北海道日中友好協会）

◇「北方圏センターだより」の発行

北方圏センターが主催・共催する行事やトピックスを紹介する情報紙「北方圏センターだより」(A4版・2頁)を発行し、会員や関係団体、来訪者に広く提供した。北方圏センターの広報・出版物には季刊「Hopoken」、季刊「であい」、「年報」の3誌があるが、季刊等の制約もあり、どちらかと言えば内容や結果・成果など事後紹介の性格が強かった。北方圏センターの直近の事業についての問い合わせも多くなっていることから、この度向こう3カ月の行事予定を掲載した第1号が発行され、4・6月の行事を紹介した。また、道内の市町村や国際交流団体が行う事業や地域の国際化に役立ててもらうため、北方圏交流基金の助成、国際交流・国際協力情報の提供、国際交流ボランティアの派遣など、北方圏センターが行っている様々な支援事業についても紹介した。

◆「北方圏講座・フィンランド・オウル市の産学官連携の今」開催

北海道フィンランド協会他と共催で、5月25日、当センター国際会議場において、フィンランド・オウル市から、前オウル市産業振興センターマネージャーのセツポ・マキ氏を招いてセミナーを開催した。マキ氏は、オウル市がどのようにして技術都市や専門知識のセンターとして呼ばれるようになったかについて説明した後、現在オウル市には800ほどのハイテク関連企業が合計37億ユーロを売り上げていること。また、「大学や科学技術専門学校等に約2万3500人以上の学生が学んでおり、北海道との協力関係を進めることは大賛成」と語った。オウル市は北海道の産業クラスター構想のモデル都市となった都市で、その前担当者の講演とあって、多くの関係者が参加した。

【Hopoken】第133号

◆「日欧パートナーシップ国際シンポジウム」開催

北方圏センターでは、日本国際交流センター他の関係機関とともに、英国、イタリア、オランダのEU諸国から、国際協力における市民運動組織の代表らを招き、地域主導の国際協力活動と市民交流のあり方を考えるシンポジウムを7月13日、札幌市で、また、前日の12日には、同テーマのワークショップを滝川市で開催した。



「日欧パートナーシップ国際シンポジウム」の模様。左から右へ、講演者、司会者、聴衆。

市民の感覚が必要また「市民の国際協力活動は、途上国の地域的で多様な問題解決に寄与することと、日本の地域活性化に繋がる」と述べた。パネルディスカッションは「EUとの地域主導の国際協力と交流の促進に向けて」がテーマ。日本国際交流センターの毛受敏浩氏をコーディネーターに、英国・ワンワールド・リンク協会ディレクターのニック・モリス氏をはじめ、英国、イタリア、オランダからのパネリストに、北海道から田村弘・滝川市長が加わり、国際協力活動と地域社会等について熱心な議論を交わした。

【Hopoken】第133号

17	
4	「北方圏センターだより」発行「年4回」(以降継続)
5	「北方四島交流」日本語習得研修・I(受入)(札幌、他)実施(委託)北方四島交流北海道推進委員会
5	「北方圏講座・スウェーデンにおける女性の社会進出と少子化問題」(講師:駐日スウェーデン王国大使・ミカイル・リンドストロム氏(NRC))開催(共催:財)スウェーデン交流センター(他)
5	「北方圏講座・フィンランド・オウル市の産学官連携の今」(講師:前オウル市産業振興センター・セツポ・マキ氏(NRC))開催(共催)北海道フィンランド協会(他)
5	「海外自治体職員受入れ」(中国・黒竜江省1名)実施(委託:北海道)
6	「北方圏講座:研究者が見た北海道の観光産業」(講師:スウェーデン・ヨーテボリ大学・ラーシユ・ノルドストローム氏、他(NRC))開催(共催:北海道東海大学)
6	「海外技術研修員受入事業」(ブラジル2名、パラグアイ1名、アルゼンチン1名)研修受入れ)実施(委託:北海道)
7	「サハリン北海道人会子弟等通訳員養成研修員受入事業」(1名)実施(委託:北海道)
7	「日欧パートナーシップ国際シンポジウム」(ホテルポルトスター札幌)開催(共催:財)日本国際交流センター(他)
8	「カルチャーナイト2005」へ参加
9	「北方四島交流」日本語習得研修・II(受入事業)(札幌、他)実施(委託:北方四島交流北海道推進委員会)
9	「北方圏講座」ロシア極東地域と北海道の交流を考える」(講師:駐札幌ロシア連邦総領事・レオニード・シユフチュク氏(NRC))開催(共催:北海道日本ロシ協会)
9	「地域国際交流会議:今日の時代における地域社会と国際交流を考える」(基調講演

◆「在住外国人共生プログラム」国際ふれあい交流」開催

道内在住の外国人と道民とのより良い共生を考えるため、留学生等外国人と小・中学生や青年など地域の人々の参加を得て「国際ふれあい交流」私たち家族(ファミリー)です」を10月28～30日、深川市、深川市教育委員会の共催を得て、市内の施設を舞台に実施した。



参加したのは4カ国1地域・21名の留学生や地元(11名)、6名の中学生、そして地元(豊協青年部やJICAの人たちなど)27名。全員が5つの家族(グループ)に分かれ、お父さん、お母さんなどの役割を決めた模擬家族になり、みんなで工夫し、協力してグループ毎に一つの作品づくりのために1泊2日で真剣に取り組んだ。文化や年齢を超えて交流を深めた。

◆「国際ふれあい交流」私たち家族です」報告書

◆「青年招聘」プータン王国青年の受入」実施

独立行政法人国際協力機構(JICA)では開発途上国への技術協力の一環として、これら諸国の将来を担う青年を専門分野別に招聘し、日本の同世代の青年との交流を通じて相互理解を深め真の友情と信頼を培うことを目的とした「青年招聘事業」を実施しているが、北方圏センターではJICA札幌からの委託事業として、11月28日から約2週間、プータン王国から教育分野(初中等)の青年10名を受け入れた。

一行は25～34歳までの全員男性で、プータン国

内各地の1000人から4000人規模の小学校や中学校の主任教師、いわば校長職の青年達。北海道教育大学札幌校で、講義を聴講したほか、石狩市厚田区の聚富小中学校では授業参観や給食を体験したり、教師との懇談会に参加した。札幌、石狩、深川、滝川の各市で教育関係施設の視察や交流を通して、日本の教育の実情や日本の生活に触れた。

◆「国際情勢講演会」世界と日本、期待される日本の役割」開催

3月3日、外務省NGO担当大使の五月女光弘氏を江差町に招いて、国際情勢講演会を開催した。五月女大使は、日本の国際貢献や国際協力について「戦後の日本の復興支援に国連加盟の一部の国から『敵国への援助は不要』との意見のある中、ユニセフ初代事務局長が『子供に罪は無い、飢えに苦しんでいる子供を見て助けなさい』とら文明国家の恥である」と説得し、当時のお金で65億円相当のミルクや薬品の援助をしてくれたことへの恩を忘れてはいけない」と強調。また、日本の国際貢献について「日本は世界で最も国際社会から恩恵を受けた国であり、この恩返しが大切」などと話し、「日本は、自分たちだけの力で豊かになったのではない。支えてくれた国々の人々への恩恵を忘れてはならないように思う」と語った。

◆北海道の国際交流、国際協力事例集「懸け橋として未来へ」発行

北方圏センターでは、平成18年3月、北海道内の45市町村が実施している国際交流や国際協力の活動を紹介した書籍(A4版184頁)を刊行し、関係機関に配布の他、希望者に頒布した。

◆「国際情勢講演会」世界と日本、期待される日本の役割」開催

◆「在住外国人共生プログラム」国際ふれあい交流」開催

◆「青年招聘」プータン王国青年の受入」実施

独立行政法人国際協力機構(JICA)では開発途上国への技術協力の一環として、これら諸国の将来を担う青年を専門分野別に招聘し、日本の同世代の青年との交流を通じて相互理解を深め真の友情と信頼を培うことを目的とした「青年招聘事業」を実施しているが、北方圏センターではJICA札幌からの委託事業として、11月28日から約2週間、プータン王国から教育分野(初中等)の青年10名を受け入れた。

18																					
4	3	3	2	12	11	11	11	10	10	10	10	10	9								
事務局の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交	事務所の「事業部」を廃止(所管業務を交



◆財団法人北海道海外協会を社団法人北方圏センターに統合

北海道の国際交流等を担う(社)北方圏センターと(財)北海道海外協会のより効率的で効果的な運営を図ることを目的に、平成18年7月1日、(財)北海道海外協会を(社)北方圏センターに統合した。(財)北海道海外協会は、北海道出身の海外移住者及び日系人等への支援を目的に、昭和36年8月に設立した。統合後は、北方圏センター事務局に「南米圏交流室」を設置し、移住者子弟留学生受入、移住者支援等の事業を継続する。

【Hopoken】第136号】

◆「留学生修学助成」開始

北方圏センターでは、北海道からの委託事業として、平成18度から外国人私費留学生(大学院生等)への修学助成事業を開始した。これは、北海道内に居住する私費留学生の生活を支援するもので、今年度は70人の留学生に助成。また、延91人の留学生を地域の交流行事への参加を支援した。

◆「北海道・中国黒竜江省友好提携20周年記念事業」開催

北海道日中友好協会などとともに実行委員会を組織し、7月、ハルビン市での記念式典他に、高橋はるみ・北海道知事をはじめ100名を超える訪問団を派遣し、北海道紹介・物産展等を開催。また、10月には黒竜江省から関係者を招き、同省の紹介展等を札幌市内で実施した。

北海道紹介・物産展は、7月26日から2週間にわたって、ハルビン市内の「遠大デパート」で開催。北海道の観光パネルや北海道の児童の絵画、書道作品の展示のほか、三味線と二胡のジョイント・ミニコンサートを実施。北海道物産展では、カニやホタテなど加工食品やスナック菓子が人気。

「日本語弁論大会」には、高校生や大学生の200名を超える応募があり、第1次審査をパスした16名が熱弁をふるった。審査の結果、5名が入賞し、10月下旬北海道旭川市での弁論発表のため招待された。

【Hopoken】第137号】

◆「HOKKAIDO STYLE 2006」(スウェーデン・リンショープ市)開催

北方圏センターは、北海道スウェーデン協会、スウェーデン交流センター、道新文化センターとともに、9月2日〜30日まで、スウェーデン南部のエステルヨートランド県リンショープ市において北海道の生活文化を紹介する展示会等を開催した。



このイベントは、04年5月に札幌で開かれた同地域のハンドクラフト協会会員らによる「スウェーデン手工芸品展」の返礼の文化交流事業として実施。北海道から手工芸家や文化教室の関係者ら82名が訪問。期間中リンショープ市内の4会場で様々なイベントが繰り広げられた。メイン会場では、北海道の木工・陶器・ガラスなど、訪問した作家らの手工芸品を展示。会場には多くの見学者が訪れ、制作技法などについて

熱心な質問をしていた。

また、北海道発祥のパークゴルフをはじめ、琴の演奏、着付け、少林寺拳法のパフォーマンスも披露。さらに、関係者が現地の工芸高校を訪問し、陶芸やバードカービングのワークショップを開催

流部に統一)

5 「海外自治体職員受入(協力交流研修員受入事業)」(中国黒竜江省1名) 実施(委託・北海道)

5 「北方圏講座・出生率向上へのスウェーデンの取り組み」(講師:駐日スウェーデン王国大使・ミカイル・リンドストロム氏(NRC)) 開催(共催:財)スウェーデン交流センター、他)

5 「海外技術研修員受入事業」(ブラジル2名、パラグアイ1名、アルゼンチン1名) 研修員受入れ 実施(委託:北海道)

6 「移住者子弟留学生(パラグアイ1名)受入」実施(補助:北海道)

6 「北方四島交流」(日本語習得研修・I)受入(札幌、他) 実施(委託:北方四島交流北海道推進委員会)

6 「北方圏講座・創造性の地理学」(講師:スウェーデン・ヨーテボリ大学・パトリック・ステッド氏、他(NRC)) 開催(共催:北海道東海大学、他)

7 「財)北海道海外協会を統合し、事務局に「南米圏交流室」を新設

7 「サハリン北海道人会子弟等通訳員養成研修員受入事業」(1名)実施(委託:北海道)

7 「青年招聘・アフリカ青年の受入」(札幌、他) 実施(委託:JICA)

7 「留学生修学助成」(私費による留学生70名へ)開始(以後継続)

7 「カルチャーナイト2005」参加

7 「北海道・中国黒竜江省友好提携20周年記念事業」(黒竜江省ハルビン市、他)開催(同実行委員会へ参加)

8 「北海道海外派遣事業」(国際交流研修員受入)実施(10名)

8 「北海道地域観光視察団」(フィンランド・スウェーデン) 派遣

8 「北方四島交流」(日本語習得研修・II)受入事業(札幌、他) 実施(委託:北方四島交流北海道推進委員会)

した他、「これからの北方圏地域の観光を考える」をテーマにセミナーを開催するなど、多くの行事が実施された。

【Hopoken】第137号

◆「開発教育ファシリテーター養成事業」実施  
 本事業は、北方圏センターが平成18年度から取り組んだ新たな事業。

開発教育とは、開発途上国における環境破壊や貧困などのさまざまな問題が何らかの形で私たちの暮らしに結びついていることに気づき、そのことについて考え、解決に結びつけていくという活動であり、また、ファシリテーターとは「学びあいを促進する役割を担う人」という意味で、この事業では、海外研修で実際に見て、聞いて、感じた体験を基に、活動していくことをめざしている。本年度は、開発教育や国際協力に関心のある北海道内の青年ら10名を募集。講師には、開発教育の分野では日本の第一人者でもある北海道教育大学(札幌校)の天津和子教授を迎え、1泊2日の宿泊研修では熱心な講義や指導を受けて、研修の主題を「子ども」に絞った。参加者同士が意見を交換し互いに協力しながら、さらに自らの研修テーマを設け、海外での研修先と視察施設等を選定するなど、積極的な姿勢が伺われた。



そして、12月には約1週間、ベトナムとカンボジアを訪問して自らのテーマに取り組んだ。ストリートチルドレンを支援するNGOや障害をもつた子供の支援施設、職業訓練校などを視察を通して、参加者全員が自主的にミーティングを繰り返すなど高いレベルの研修

内容となった。

初めての開発教育の事業にもかかわらず、参加者自らが「開発教育ファシリテーター」として活動するためのプログラム作りを行い、そのプログラムを活用して学校現場やセミナーなどで、活躍することが期待されている。

【Hopoken】第139号

◆「北方圏講座：青い光が見えたから」16歳のフィンランド留学記」開催

3月19日、同センター会議室に、フィンランドでの高校生活を綴った高橋絵里香さんを迎えて北方圏講座を開催した。

現在、フィンランド・オウル大学2年生の高橋さんは、小学生の時にであった「ムーミン童話」を通してフィンランドにあこがれ、北海道の中学校卒業後、単身でフィンランド・ロバニエミ市の高校に入学。高橋さんは、言葉の壁に苦しみながらも、多くの人たちに支えられたことや高校を卒業するまでの生活ぶりをスライド等で紹介。100名を超える参加者からは、「難しいフィンランド語をどのようにしてマスターしたか」などの質問が寄せられ、予定の時間をオーバー。講演後に行われた著書へのサイン会では、一人ひとりに丁寧な言葉を添えてサインをしていた。

【Hopoken】第140号

◇『活動の輪を広げるために(国際交流への補助・助成ハンドブック)』発行

国際交流事業の実施を希望しても経済的事情で実施を躊躇する団体への一助になればと、北方圏センターでは3月、国際交流団体や国際協力団体を利用可能な助成・補助等を実施している機関や団体を紹介した資料集を発行。希望者に配布したほか、ホームページに掲載した。

9	9	9	10	10	11	11	11	12	1	3	3	19
「HOKKAIDO STYLE 2006」(スウェーデン・リンシヨーピ市)開催(同実行委員会に参加)	「異文化・多文化コミュニケーション北海道」(日高町、他「4カ国1地域33名」)	実施(共催:日本学生支援機構北海道支部)	「開発教育ファシリテーター養成事業」(札幌・ベトナム、カンボジア)実施(助成:自治体国際化協会)	「南米青年訪問団受入」(札幌、他「ブラジル7名、パラグアイ2名」)実施	「地域国際交流会議」多文化共生のまちづくりをめぐって(「基調講演講師:早稲田大学教授・山西優一氏(北見)」開催(参加:オホーツク地区団体)	「国際情勢講演会」(講師:駐札幌中華人民共和国総領事・齊江氏(釧路)開催(共催:釧路市国際情勢講演会世話人会)	「北方圏講座」スウェーデンの地方自治体と地元産業との連携」(講師:前スウェーデン・レクサンド市長・ベッテル・ダウニス氏(NRC))開催(共催:財)スウェーデン交流センター、他)	「北方圏講座」ロシア極東地域ビジネスセミナー」(講師:在札幌ロシア連邦総領事館・セルゲイ・カストルノフ氏、他(NRC))開催(共催:北海道)	「北方圏講座」青い光が見えたから」16歳の留学記」(講師:フィンランド・オウル大学生・高橋絵里香さん、他(NRC))開催(共催:北海道フィンランド協会)	『活動の輪を広げるために(国際交流への補助・助成ハンドブック)』発行	事務局に「調査研究出版部」新設(調査研究部「出版部」の2部を統合)	カナダ・アルバータ州青年研修生(留学生)受入実施
1名)実施(委託:北海道)												

◆「スウェーデン交流展&北欧百景写真展」開催  
 北方圏センターでは、スウェーデン交流センター他と共催し、6月11日～14日、札幌市の「かでる2・7」でスウェーデン・ダーラナ地方の「工業展とセミナー」「ダーラナ地方の産業経済と文化」のほか、糸数昌憲氏の北欧風景写真展を開催した。



展示されたのは、スウェーデンで最も工芸が盛んなダーラナ地方のもので、手織り物、ハンドプリント製品、木工芸品、鉄工芸品、伝統的なデザインの燭台など、約170点。会場では、ダーラナ地方を象徴する馬の置物「ダーラヘスト」の製作実演も行われ、来場者の多くが足を止めていた。

関連行事として、レクサンド地方を紹介するセミナーが開催され、同地方の観光政策や手工芸などの説明に約70人が参加。また、北欧百景写真展は、北欧の風景をテーマに写真を撮り続けている写真家糸数氏のコレクション、約50点を展示。北欧の清涼な空気が織りなす美しい色彩に、多くの来場者が見入っていた。【Hoppoken】第143号】

◆「北海道・ロシア極東交流事業（ユジノサハリンスク市）開催

北方圏センターでは、北海道とサハリン州との友好交流事業の一環として、北海道日本ロシア協会他と実行委員会を組織し「市民交流会議」や青少年を対象とした「体験友情の船」を実施した。8月3日ユジノサハリンスク市で開催の市民交流会議には、両地域の教育関係者ら70人が参加。ま

た、8月1日～8日まで、北海道から青少年121人が訪れ、各種交流会他を実施した。

【Hoppoken】第141号】

◆「日ロビジネスマッチング」ロシア企業商談会」実施

ロシアNIS貿易会から委託を受け、ロシア連邦極東地域との経済交流を推進するため、サハリン州内の企業を招聘して9月2日から6日までの5日間、北方圏センターを会場に北海道内の企業と生活関連分野での商談会を実施した。

北海道と北方圏センターの共催で実施したこの事業は、平成17年度から「ロシア極東企業経営指導者育成支援事業」に変わって実施しているもので、サハリンからビジネスマンを招いて商談会という形式を取った。今回来道したのは3名で、ユジノサハリンスクでスーパー経営に携わっている2名と電気製品や玩具を販売している1名。期間中に北海道の企業14社と精力的に商談会を行い、購入希望の商品のリストアップや、輸出方法及び今後の手続きなどについて、熱心な話し合いが行われた。【08年報】

◆北海道海外派遣事業「国際交流研修団（中国・ハルビン、北京、西安、上海）実施

北方圏センターでは、国際的な視点を生かした豊かな地域づくりを進める人材の育成を目的として、これからの地域を支える方々を対象に海外派遣事業を実施してきている。19年度においては、東アジア地域との交流の促進を視点を中国に派遣。9月12日から21日までの10日間、ハルビン、北京、西安、上海を巡り、急速に発展している中国の様子を視察するとともに、省政府や友好協会の訪問、企業や大学の視察・訪問し、中国における国際化社会への取り組みなどについて学ん

6	「スウェーデン交流展&北欧百景写真展」(かでる2・7)開催
6	「北方四島交流「日本語習得研修」I」受入(札幌、他)実施(委託 北方四島交流北海道推進委員会)
6	「北方圏講座・初等中等教育における創造性の育成」(講師:スウェーデン・ヨーテボリ大学博士・パトリック・ストローム氏、他(NRC))開催(共催 北海道東海大学、他)
6	「国際理解教室」(講師:中国・張宇氏、他(札幌市・常磐中学校))開催
6	「海外技術研修員受入事業」(フラジル2名、パラグアイ1名、アルゼンチン1名)研修受入れ」実施(委託・北海道)
7	「移住者子弟留学生(フラジル1名)受入」実施(補助・北海道)
7	「サハリン北海道人会学友等通訳員養成研修員受入事業」(1名)委託(北海道)
7	「国際交流団体懇話会(NRC)」
7	「カルチャータウン(災害復興)」(札幌国際C)実施(委託・JICA)
8	「北海道・ロシア極東交流事業」(ユジノサハリンスク市、他)開催(同実行委員会に参加)
8	「北方四島交流「日本語習得研修」II」受入(札幌、他)実施(委託 北方四島交流北海道推進委員会)
8	「北方圏講座・経済交流の視点から見た北海道とマサチューセッツ州」(講師:日本貿易振興機構・大久保徹夫氏(NRC))開催(共催 北海道マサチューセッツ協会他)
9	「日ロビジネスマッチング」ロシア企業商談会(札幌)実施(委託 ロシアNIS貿易会)
9	「北海道海外派遣事業」(中国・ハルビン、北京、西安、上海「12名」)実施
9	「北方圏講座・ノルウェーネットワーク・アラカルト&STB」(講師:ノルウェーSTB
10	



だ。

最初に訪問した黒竜江省政府との間では、来年度からの青年交流団の相互派遣を検討していくことになり、また、北京の友好協会では、北海道との新しい形の学校交流についての提案を受け、さらに西安では経済ミッションの派遣やセミナーの開催についての要請を受けた。

【海外研修報告2007】報告書

◆「スウェーデン meets 北海道」開催

駐日スウェーデン大使館の主催による「スウェーデン meets 北海道」の開催に当たり、同大使館等と実行委員会を組織して、10月21日、当別町のスウェーデン交流センターで開催した。スウェーデン大使館のプロモーションイベントであるとともにスウェーデンと北海道との経済交流の推進を目的としたビジネスイベントとなった。

大使館からは、ステファン・ノレイン駐日スウェーデン大使をはじめ各セクションの責任者、スウェーデン企業5社の幹部が出席。また、北海道からは、高橋はるみ・北海道知事、上田文雄・札幌市長、高向巖・道商連会頭など官民のそうそうたるメンバーが出席した。大使館のプロモーション活動のブリーフィング、スウェーデン企業の事業紹介が行われ、日程の最後として交流パーティーが和やかに開催された。

【Hopoken】第143号

◆「多文化共生時代の中での『環境問題』とまちづくり」——タウンウォッチングから環境を考える——開催

近年、留学生が増加し国籍も多様化していく中で、留学生を対象とした取り組みも支援型に加えて、人材育成や高度な知的交流の活発化など「知的国際交流」がますます重要になってきている。

このことから、独立行政法人日本学生支援機構北海道支部、北方圏センター、北海道商科大学の3者が共催して11月3日、留学生と大学生との意見交換会を企画・開催した(財)中島記念国際交流財団助成事業)。

「省エネ」「交通」「環境教育」「食」「まちづくり」の5つのテーマを設定し、参加した10カ国・地域16名の外国人留学生と札幌圏の7大学から24名の学生が混成のテーマ別グループに分かれ、それぞれのテーマに基づいて日常生活において利用する公共施設などの見学(タウンウォッチング)を行い、身近な環境問題への「気づき」を誘発するとともに、それぞれ専門家による基調講演や、国境を越えた環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築に向けた意見交換を行った。

【同・実施報告書】

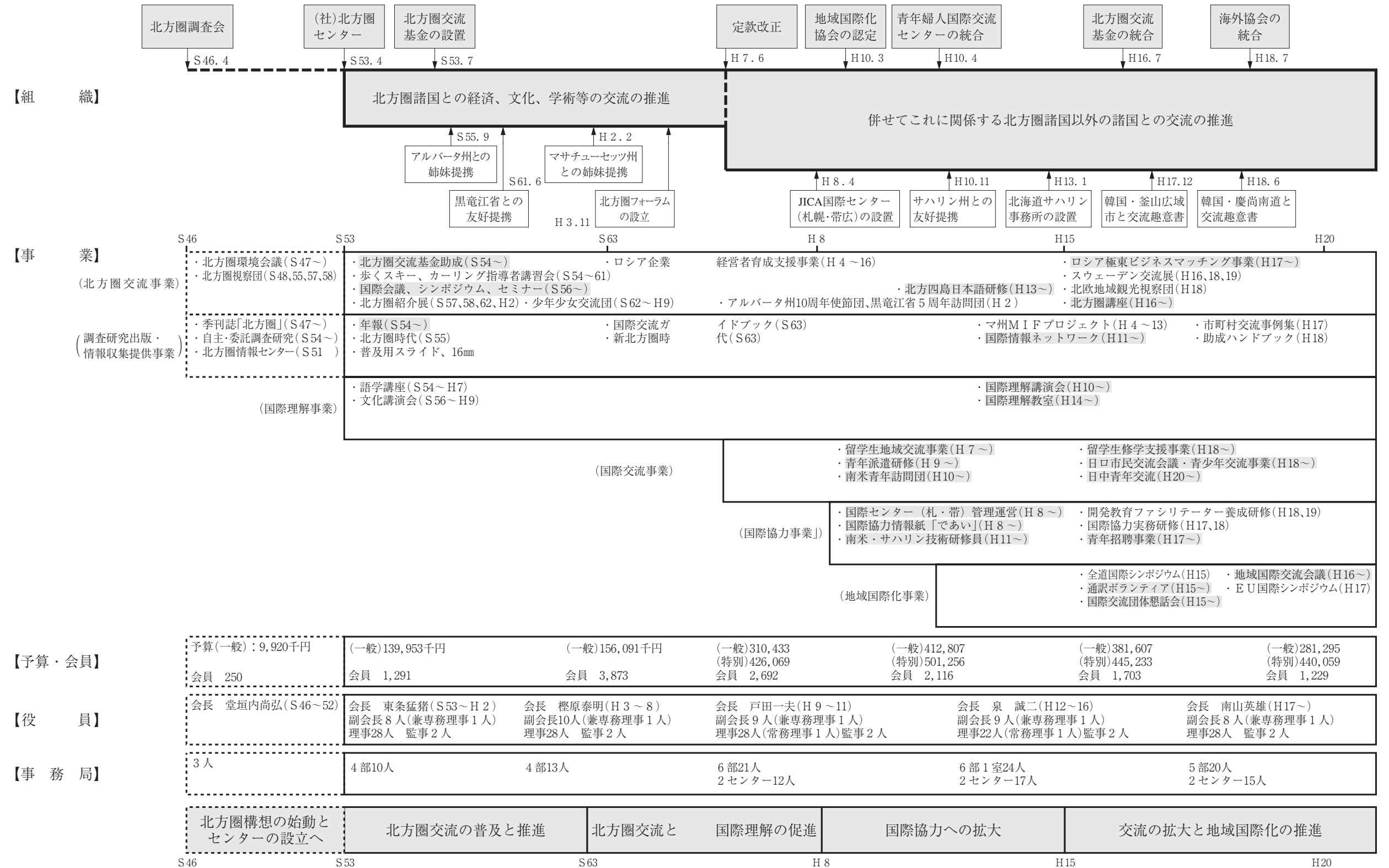
◆「国際情勢講演会・洞爺湖サミットの概要とおもてなしの心」開催

4月21日と22日、伊達市と留寿都村で、外務省副報道官の谷口智彦氏を招いて「洞爺湖サミットの概要とおもてなしの心」と題する講演会を開催した。

谷口氏は本年7月7日からのG8サミットで来道する多くの外国人との接し方について「洞爺湖の美しい景色や豊かな食材と一緒に、ほほ笑みと『ありがとう』が大切」と語った。また、各国首脳の夫人プログラムでは、地元の見光施設の訪問も予定されているなどと語った。

20													
4	3	2	12	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10
「国際情勢講演会・洞爺湖サミットの概要とおもてなしの心」(講師:外務省副報道官・谷口智彦氏)(伊達市、他)開催	「スウェーデンと北海道・地域政策セミナー」(札幌、他)開催	「留学生セミナー(社会福祉)」(札幌国際C)実施(委託:JICA)	「アフリカ・キヤラバン in SA P P O R O」(JICA札幌国際センター)開催(同実行委員会に参加)	「地域国際交流会議」(函館市)開催(共催:北海道国際交流センター)	「国際理解教室 in 小樽」(講師:カナダ・ジョーダン・S・バーティ氏、他(小樽市・塩谷中学校))開催	「留学生セミナー」(社会福祉) (札幌国際C)実施(委託:JICA)	「スウェーデンと北海道・地域政策セミナー」(札幌、他)開催	「北方圏講座:スウェーデンの学校教育と交流のお話」(講師:東スウェーデン環境自然高校理事長・ローランド・ニルソン氏、他(NRC))開催	「アフリカ・キヤラバン in SA P P O R O」(JICA札幌国際センター)開催(同実行委員会に参加)	「地域国際交流会議」(函館市)開催(共催:北海道国際交流センター)	「国際理解教室 in 小樽」(講師:カナダ・ジョーダン・S・バーティ氏、他(小樽市・塩谷中学校))開催	「留学生セミナー」(社会福祉) (札幌国際C)実施(委託:JICA)	「スウェーデンと北海道・地域政策セミナー」(札幌、他)開催

(社)北方圏センターの組織・活動の推移



# 協賛広告

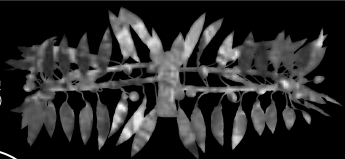
設立30周年記念事業にあたって次の企業、団体から協賛を賜りました。ご協力ありがとうございました。

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 有限会社アールズセミナー             | 財団法人日本国際協力センター           |
| 旭川スウェーデン協会               | 第3セクター美唄未来開発センター         |
| 石屋製菓株式会社                 | 学校法人北星学園                 |
| 伊藤組土建株式会社                | 株式会社北洋銀行                 |
| 井原水産株式会社                 | ホクレン農業協同組合連合会            |
| 岩倉建設株式会社                 | 学校法人北海道学園                |
| 株式会社HBA                  | 社団法人北海道医師会               |
| 大江建設株式会社                 | 北海道エンジニアリングサービス株式会社      |
| 株式会社オビシヨク                | 社団法人北海道開発技術センター          |
| 加森観光株式会社                 | 北海道カナダ協会                 |
| 其水堂金井印刷株式会社              | 社団法人北海道観光振興機構            |
| キャリアバンク株式会社              | 株式会社北海道銀行                |
| 協和印刷株式会社                 | 北海道経済連合会                 |
| 株式会社京王プラザホテル札幌           | 北海道サーモン協会                |
| NPO法人国際パークゴルフ協会          | 株式会社北海道職員互助サービス          |
| 株式会社札幌オーバーシーズ・コンサルタント    | 北海道女性国際交流連絡協議会           |
| ホテル札幌ガーデンパレス             | 北海道女性団体連絡協議会             |
| 札幌グランドホテル                | 社団法人北海道水産会               |
| 札幌国際親善の集い                | 財団法人北海道青少年育成協会           |
| 財団法人札幌国際プラザ              | 財団法人北海道青少年科学文化財団         |
| 財団法人札幌勤労者職業福祉センター札幌サンプラザ | 財団法人北海道体育協会              |
| 学校法人札幌大学                 | 社団法人北海道治山林道協会            |
| 札幌ビール株式会社北海道本社           | 財団法人北海道電気保安協会            |
| 札幌プリンスホテル                | 北海道電力株式会社                |
| 株式会社サンコー緑化               | 北海道日中友好協会                |
| 山藤三陽印刷株式会社               | NPO法人北海道日本ロシア協会          |
| 北海道旅客鉄道株式会社              | 北海道フィンランド協会              |
| JTB北海道法人営業札幌支店           | 学校法人谷内学園北海道文化服装専門学校      |
| 新光証券株式会社札幌支店             | 社団法人北海道貿易物産振興会           |
| 財団法人スウェーデン交流センター         | 有限会社北光社                  |
| 株式会社田中組                  | 財団法人北方文化振興協会             |
| 大地みらい信用金庫                | ホテルニューオータニ札幌             |
| 株式会社土屋ホーム                | ホテルモンテレーデルホフ札幌・ホテルモンテレ札幌 |
| 株式会社電通北海道                | 幌村建設株式会社                 |
| 東海大学                     | 株式会社マルイ                  |
| 株式会社東京フラワー               | 株式会社美図濃                  |
| 株式会社道新文化センター             | ユニオン給食株式会社               |
| 学校法人櫻井産業学園道都大学           | 学校法人酪農学園酪農学園大学           |
| トップツアー株式会社札幌支店           | 株式会社ラルズ                  |
| 株式会社富田商会                 | 株式会社龍文堂                  |
| 中道リース株式会社                | 日本労働組合総連合会北海道連合会         |
| 株式会社西村組                  | 六花亭製菓株式会社                |
| 日興美装工業株式会社               | 稚内信用金庫                   |
| 株式会社ニトリ                  | 北海道米販売拡大委員会              |



日本初公開!

黄金の花冠  
(前4世紀半ば)



アンフォラ形リュトン  
(前4世紀末～前3世紀初頭)



# 21世紀の大発見 よみがえる 黄金文明展

好評  
開催中

～ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝～

いま長い眠りから目覚める  
誇り高きトラキアの勇者たち…

トラキア王の黄金のマスク  
(前5世紀後半)



世界遺産「スヴェシュタリのトラキア人の墓」(参考写真)

2008年  
9月13日[土] - 11月7日[金]

会場: 北海道立近代美術館 札幌市中央区北1条西17丁目  
TEL.011-644-6882 (事業課)

開館時間: 9:30-17:00 (入場は16:30まで)

休館日: 毎週月曜日(10月13日、11月3日を除く)、10月14日[火]

観覧料	当日	団体
一般・大学生	1,200円	1,000円
中学・高校生	900円	700円
小学生	700円	500円

※小学生未満は無料  
※団体は10名以上

主催: 北海道新聞社、北海道立近代美術館、北海道テレビ、東映、HTBプロモーション  
後援: 外務省、文化庁、ブルガリア共和国大使館、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会

協力: ブルガリア共和国文化省、ソフィア考古学研究所博物館、ブルガリア国立博物館群、ニッセイ同和損害保険株式会社  
技術協力: Kanebo

お問合せ: HTB北海道テレビ TEL.011-821-4411

北海道新聞社

PHOTO: Nikolay Genov, Mihail Mihaylov, Liubomir Zhekov

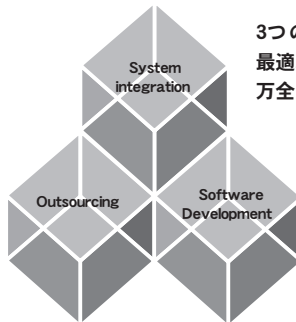
# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を  
先進のITで結ぶクリエイター

**HBA 株式会社 HBA**

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8  
TEL.011-231-8301 FAX.011-281-0915  
<http://www.hba.co.jp/>



HBA Relation System

3つの事業をリレーション。

最適な情報システムの提案、構築、運用を  
万全のセキュリティで総合的に行います。

- システムインテグレーション
- アウトソーシング
- ソフトウェア開発



World Short Movies  
in **RUSUTSU**  
HOKKAIDO JAPAN

## ルスツリゾートスキー場

11/22 Open(予定)

冬のルスツを“世界”が撮った

3カ国の監督がルスツを舞台にショートムービーを制作。  
スキーだけじゃない、ウインターリゾートの魅力をご覧ください!



JAPAN



AUSTRALIA



TAIWAN

Webで上映中

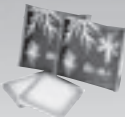
[www.rusutsu.co.jp](http://www.rusutsu.co.jp)



## 伊藤組土建株式会社

本 社	札幌市中央区北4条西4丁目1番地	TEL (代) 011-261-6111
東京支店	東京都中央区日本橋2の8の11	TEL (代) 03-3271-3611
東北支店	仙台市青葉区二日町2番15号	TEL (代) 022-264-1521
営業所	函館・苫小牧・帯広・釧路・旭川・北見・横浜・埼玉	

白い恋人  
CHOCOLAT BLANC  
ET  
LANGUE DE CHAT



白い恋人パーク

札幌市西区宮の沢2条2丁目 TEL (011) 666-1481  
<http://www.shirokoibito.ishiya.co.jp>

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

ふるさとのために、何ができるだろう？

## ★ 北海道はサッポロビール

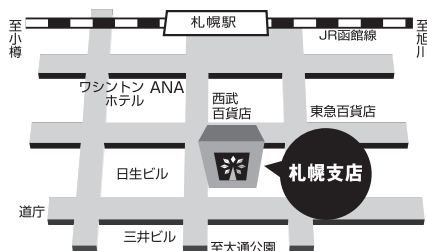
あなたの満足、最優先。

みずほフィナンシャルグループ



### 新光証券

札幌支店 TEL 011-231-6111



〒060-0003 札幌市中央区北三条西3丁目1番地

優れた技術・誠意で築く



株式  
会社

## 田中組

代表取締役社長 阿部芳昭

本社 札幌市中央区北6条西17丁目 TEL 代表611-3331

営業本部 札幌市中央区北5条西6丁目(第2道通ビル2F) TEL 代表222-7771

支店 旭川・東京・函館・釧路・帯広・苫小牧

1983年設立以来、25年の長きに亘ってスウェーデンとの文化・経済交流に多彩な活動を展開しています。



Swedish Center Foundation

財団法人

## スウェーデン交流センター

理事長 村松 宏一 専務理事 杉野 秀雄

〒061-3777

石狩郡当別町スウェーデンヒルズビレッジ2丁目3番1

電話 (0133) 26-2360

FAX (0133) 26-2992

swedcent@aioros.ocn.ne.jp

http://www4.ocn.ne.jp/~sweden/



# 祝 (社)北方圏センター設立30周年



学校法人 北海道櫻井産業学園

## 道都大学

社会福祉学部  
社会福祉学科

経営学部  
経営学科

美術学部  
デザイン学科

美術学部  
建築学科

総長 櫻井 淳

〒061-1196 北海道北広島市中の沢149番地  
TEL(011)372-3111(代) FAX(011)376-9339

☎0120-870205

H P・・・http://www.dohto.ac.jp  
E-mail・・・nyushi@dohto.ac.jp

広範な取扱商品で  
あらゆるニーズに対応します

- ・土木建設機械
- ・医療機器
- ・輸送運搬機械
- ・産業機械
- ・食品機械
- ・OA・情報機器
- ・商業店舗設備
- ・サービス機器
- ・外食産業設備
- ・環境関連設備
- ・スペースシステム

## 明日の企業経営を

### 強力にバックアップします。

## 中道リース株式会社

本社 〒060-0031 札幌市中央区北1条東3丁目3番地 中道ビル6階  
TEL 011-280-2266(代)

支社 東京 支店 大宮/横浜/千葉/仙台/青森/盛岡/  
郡山/札幌/旭川/帯広/函館/苫小牧 営業所 釧路/山形  
http://www.nakamichi-leasing.co.jp/ info@nakamichi-leasing.co.jp



JQA-QM7707



QS Accreditation R009

## 北海道21世紀の高度情報化社会をめざして

### 第3セクター

### 「美唄未来開発センター」

代表取締役 大竹 繁夫  
(札幌美唄会副会長)

“I・TとS・T(雪活用技術)の融合による  
地域社会の活性化”

雪だるま産業賞・受賞美唄自然エネルギー研究会  
ゼオライト(亜炭)活用技術開発  
中国留学研究生採用及び交流

札幌事務所：中央区南7条西10丁目はなぞのビル 電話011-512-8551 (G.E 機電連接)

※関連事業体(株)美唄情報開発学園「北海道中央コンピュータ・カレッジ」

※情報技術(I・T)と雪活用技術(S・T)の連携、融合

※農道空港(コミュニティー空港)完成

※素けい材タウン構想・食料備蓄基地構想

※バックアップセンター構想等地域振興協力推進

※G.I.S・G.P.S活用システム

※通信衛星イコノス活用システム

※介護、福祉、教育等の情報化

※ワンストップ、サービス行政システム



財団法人 日本国際協力センター

理事長 松岡 和久

本部

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1

日土地西新宿ビル 20・21階

TEL 03-5322-2500 (代表) http://sv2.jice.org

知をつなぐ。世界をつなぐ。未来をつなぐ。

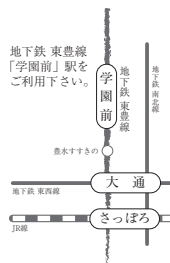
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

学校法人  
**北海学園**  
SINCE 1885  
理事長 森本正夫



北海学園大学大学院  
北海学園大学  
北海商科大学  
北海高等学校  
北海学園札幌高等学校



www.hokkai-t-u.ac.jp

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 ☎(011)841-1161(代表)

明日の北海道のために、暮らしを灯すあかり、街をてらすあかり。

ともに輝く明日のために。  
Light up your future.

**ほくてん**

ほくてんは、北海道にあかりを灯すために  
歩みつづけてきました。

これからも、北海道の活性化に向けた  
取り組みを応援することで、  
北海道に元気を灯してまいります。



## 社団法人 北海道開発技術センター

〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目11番地  
☎(011)271-3028 FAX(011)271-5154



### 北海道フィンランド協会 (1976年創立) 会長 井口光雄

(主な活動)

フィンランド語学講座(入門、初級など4クラス) フィンランド・セミナー等の開催

サークル活動(ペサパッコ・サークル カンテレ・サークル ノルディック・サークル)

2009年度:日本・フィンランド外交90周年記念「北海道文化使節団」フィンランド公演  
協会誌「Aurora」 協会ニュース「Huomenta Suomi」等の発行

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目パークビル4F Tel:011-788-2011 Fax:011-788-2211

Mail:finland.ho@tune.ocn.ne.jp Homepage:http://www.saturn.dti.ne.jp/~h-fin/f1fin-top.html

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

創業44年、「安心」「安全」なお弁当を皆様に  
真心込めて提供します。

## ユニオン給食株式会社

札幌市白石区東札幌5条2丁目8-19

TEL (011) 841-1431(代)

FAX (011) 841-1434

北海道の豊かな暮らしを応援します。

スーパーアークス大店      カインズホーム大店

株式会社アークス 代表取締役社長 横山 清  
 全国に広がる173店舗      札幌市中央区南13条西11丁目2番52号  
 ARCS アークスグループ      TEL.011-530-1000

(製造委託) 株式会社アークス 札幌市中央区南13条西11丁目2番52号 TEL.011-530-1000



連合北海道

労働相談  
フリーダイヤル

0120-09-0050

### 「労働組合づくり、労働問題は連合まで」

一人ではできないことも、みんなで力を合わせればきっと実現できます。  
悩みがあったら「相談ダイヤル」へ！連合がお手伝いします。

- 賃金の問題 ●労働時間 ●退職金・一時金のこと ●休日手当について
- 不当な解雇 ●リストラ・倒産問題 ●セクハラ問題 ●育児・介護について
- パート労働問題 ●派遣労働者のこと

労働組合はどこでも誰でもつくれます。専門のアドバイザーが労働組合づくりのお手伝いをします。

全道各地で専門の  
アドバイザーが  
ご相談を  
待っています。

## 悠久の時間を贈るパストラルアートコレクション・イルミナ



「イルミナ」グッズは、  
北の田園風景を金井英明が  
ファンタステックに描いた  
作品を金井印刷が  
デザイナーブランドにしたものです。

●取扱商品/レターセット・絵ハガキ・  
ファンシーノート・メルヘンカード・  
プリントアート他

●取 扱 店/丸井今井大通館B1・  
新千歳空港店、札幌プリンスホテル  
売店、ニセコ東山プリンスホテル他

PASTORAL FANTASY  
**illumina**  
SAPPORO

HIGH TOUCH PRINT ART MEDIA  
其水堂金井印刷株式会社  
開発事業部  
〒003-0809  
札幌市白石区菊水3条4丁目4-18  
Tel (011) 832-8191#



# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

大江建設株式会社



代表取締役

大江 敏文

OOE Toshifumi

本社 095-0371 士別市上士別町16線北2  
TEL(0165)24-2335・FAX 24-2865  
E-mail: tsf-ooe@ookensetu.co.jp



有限会社 アールズセミナー

代表取締役

佐々木 亮子

〒060-0004

札幌市中央区北4条西7丁目5番地 緑苑第2ビル707号

Tel: (011) 261-5882 Fax: (011) 261-5169

E-mail: rseminar@ruby.ocn.ne.jp

環境関連設計施工



株式会社 オビシヨク

本社/〒089-1182 帯広市川西町基線42  
☎0155-59-2145 ㊟0155-59-2144  
フラワ-ショップ/〒080-0032 帯広市西2条北1丁目  
☎0155-22-4856 ㊟0155-22-8942  
コープベルデ店 ☎0155-34-7988

旭川スウェーデン協会

会長 奈良 信子

〒070-0043 旭川市常盤通1丁目  
道北経済センタービル5F  
(社団法人旭川観光協会内)  
電話 (0166) 23-0090

北海道の総合人材サービス企業

CAREER  
BANK  
キャリアバンク

祝・  
設立30周年

数の子ひとくちゼミナール

ニシンが魚でなかった頃。

ニシンは「鯨」と書きますが、かつては「鯡」つまり魚に非ずという意味の字がつかわれていました。

これは、北海道がニシンの豊漁に賑っていた頃、その恩恵の大きさは「魚に非ず、二親(ふたおや=にしん)の如し」と言われ

ていたからです。



日本の味を——世界から。  
井原水産株式会社  
IHARA & COMPANY LTD

いつも新しい発見

京王フラザホテル札幌

〒060-0005 札幌市中央区北5条西7丁目2-1

TEL011-271-0111(代表)

<http://www.keioplaza-sapporo.co.jp/>

① 岩倉建設株式会社

代表取締役社長 宮崎 英樹

本社 札幌市中央区南1条西1丁目16-2 電話(011) 281-6000

本店 苫小牧市木場町2丁目9-6 電話(0144) 38-3000

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

## 祝 北方圏センター設立30周年



SINCE 1989

1989年に設立した此の集いは、主に札幌在住の外国人との交流を中心に、世界平和に寄与することを目的に努力している団体です。

顧問：北海道、札幌市、駐在札幌 米国、韓国、ロシア、中国各総領事館

### 札幌国際親善の集い

〒064-0953 札幌市中央区宮の森3条13丁目4-35

会長 谷口良一

TEL 011-644-1735 FAX 011-611-6698

## 北方圏諸国に

広げようパークゴルフの輪！

(NPO) 国際パークゴルフ協会

理事長 前原 懿

## ～ 出会い ふれあいの複合施設 ～

ご宿泊・ご宴会・プール・レストラン・音楽ホール



001-0024 札幌市北区北24条西5丁目  
地下鉄北24条駅1番出口より徒歩3分

TEL.(011)758-3111  
<http://www.sunplaza.or.jp>

株式会社 札幌オーバークイズ・コンサルタント

代表取締役 滝沢 靖六

札幌市中央区北4条西11丁目 (SOC ビルディング)

電話 231-6547

なりたい自分に向かって  
がんばる学生を応援します。

2009年4月から

学びの進化形「札幌大学スタンダード」を展開します。



観光・ビジネス・ご婚礼・ご会合に  
心をこめたおもてなし。

- 【ご宿泊】
- 【ご婚礼】
- 【ご宴会】
- 【ご会合】

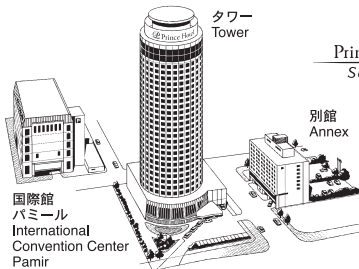


RESTAURANT  
スズカ  
四ッ川飯店  
SUSHI RESTAURANT

地下レストラン  
味の会  
後前和食処 和上料理  
韓式食堂 しゃぶしゃぶ  
洋風料理 和食  
伊勢屋

GP ホテル札幌カーテンパレス

060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 TEL. (011) 261-5311  
URL <http://www.hotelgp-sapporo.com/>



Prince Hotel  
Sapporo

札幌プリンスホテル 〒060-8615 札幌市中央区南2条西11丁目  
TEL: 011-241-1111 FAX: 011-231-5994  
[www.princehotels.co.jp/sapporo](http://www.princehotels.co.jp/sapporo)



常に新しいおもてなしのある心で  
おひとりお一人のお客様をお迎えいたします。

SAPPORO GRAND HOTEL

札幌グランドホテル 060-0001 札幌市中央区北1条西4丁目  
tel.011.261.3311 [www.grand1934.com/](http://www.grand1934.com/)

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年



one MORE  
外断熱だから  
すべてが快適空間。  
www.tsuchiya.co.jp  
土屋ホーム 外断熱の家 検索

株式会社 サンコー緑化

代表取締役 佐々木 一敏

〒003-0828

札幌市白石区菊水元町8条1丁目8番21号

電話(011)875-1608

## dentsu

株式会社 電通北海道

代表取締役社長 夏目祝夫

札幌本社 札幌市中央区大通西5丁目11-1 TEL 011-214-5111  
旭川支社 旭川市2条通9丁目道銀ビル TEL 0166-23-4771  
函館支社 函館市梁川町16-24損保ジャパン函館ビル TEL 0138-51-6111

## 北海道旅客鉄道株式会社

代表取締役 中島尚俊

## 東海大学

北海道キャンパス担当副学長 西村弘行

Feel the Power of United Tokai!

**TOKAI UNIVERSITY HOKKAIDO CAMPUSES**  
Sapporo Asahikawa

## JTB北海道法人営業札幌支店

グループ 団体 職場旅行

思い出に残る最高の旅行をご提案します

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目1-2

アーバンネット札幌ビル8階 TEL:011-271-7024

心に響く、花束を贈りたい。

—電話で贈る こだわりのフラワーギフト—

 株式会社 **東京フラワー**

本店/札幌市中央区北2条西4丁目 北海道ビル地階  
TEL(代)011-231-0723 FAX011-231-9217  
事業部/札幌市東区北16条東7丁目  
TEL(代)011-742-6262 FAX011-742-6263

この街を応援しています。

 **大地みらい信用金庫**

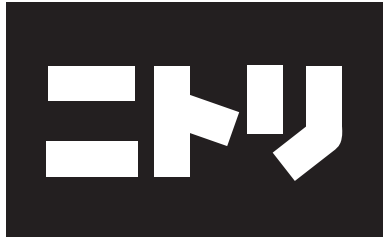
理事長 **北村信人**

〒087-8650 根室市梅ヶ枝町3丁目15番地  
TEL0153-24-4101(代) FAX0153-24-2801  
http://www.daichimirai.co.jp



# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

お、ねだん以上。



<http://www.nitori.co.jp>

☆☆☆ 学校法人 **北星学園** ☆☆☆

- ☆ 北星学園大学
- ☆ 北星学園大学短期大学部
- ☆ 北星学園女子中学高等学校
- ☆ 北星学園大学附属高等学校
- ☆ 北星学園余市高等学校

仲間と輝く自分時間



URL <http://www.doshin-cc.com/>



ココロ花咲く、ステキな旅を。



実業観光が社名を変えました。  
**トップツアー株式会社 札幌支店**

TOPTOUR

国土交通大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員・ポト保証会員  
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目パークイースト札幌7階  
TEL011-221-0821, FAX011-222-4357  
<http://www.toptour.co.jp>

食べることをちゃんと考える場所。

## ホクレンに、 オープンしました。



食べることを考える  
ホクレン食育サイト **食卓で笑おう。**

[www.shokuiku-hokuren.jp](http://www.shokuiku-hokuren.jp)

 **株式会社 西村組**

代表取締役 西村 幸浩

〒099-6404 紋別郡湧別町栄町1 3 3 番地の1  
TEL (01586) 5-2111(代) FAX (01586) 5-2700

社団法人 北海道医師会

会長 長瀬 清

札幌市中央区大通西6丁目6番地  
TEL (011) 231-1432



**日興美装工業株式会社**

代表取締役 **宮嶋道枝**

〒001-0019  
札幌市北区北19条西4丁目1番21号  
日興美装ビル  
電話 (011) 726-8161

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

サケをシンボルに

子どもたちに豊かなふるさとを!

## 北海道サーモン協会

HOKKAIDO SALMON SOCIETY

代表 木村 義一

連絡先: 090-1523-3278 高橋寿一方

<http://blog.h-salmon.jp>

北海道エンジニアリングサービス株式会社



〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目3

電話 011-271-0021

## (株)北海道職員互助サービス

代表取締役社長 木下良雄

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目緑苑ビル2階

TEL(011)271-4277 FAX(011)222-4753

URL <http://www.gojyo-s.co.jp>

E-mail [info@gojyo-s.co.jp](mailto:info@gojyo-s.co.jp)

HOKKAIDO CANADA SOCIETY  
北海道カナダ協会



会長

藤田 恒郎

President

TUNEO FUJITA

(祝 30周年)

北海道女性国際交流連絡協議会

会長 珍田 亮子

設立 昭和49年12月

会員 北海道の国際交流派遣団員で構成

社団法人 北海道観光振興機構

会長 坂本 眞一

札幌市中央区北4条西4丁目1番地

伊藤加藤ビル 5F.

電話(011)231-0941



北海道女性団体連絡協議会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目

かでの2・7 9F

TEL (011) 241-6417

FAX (011) 241-6324

## dc 北海道経済連合会

会長 近藤 龍夫

副会長 横山 清

副会長 林 光繁

副会長 坂本 眞一

副会長 中井 千尋

副会長 堰八 義博

副会長 山口 博司

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

## 社団法人 北海道治山林道協会

会長 谷口 徹  
副会長 石崎 大輔  
ゝ 林 正博  
ゝ 廣野 秀夫

札幌市中央区北4条西5丁目  
林業会館内  
電話 011-222-0567

## 社団法人 北海道水産会

会長理事 櫻庭 武弘  
副会長理事 高橋 英明  
ゝ 安藤 善則  
ゝ 山田 邦雄  
ゝ 田谷 克弘

札幌市中央区北3条西7丁目  
Tel 011(271)5051  
Fax 011(271)5053

## 財団法人 北海道電気保安協会

理事長 菅 伸之

〒060-0031 札幌市中央区北1条東3丁目1番地1  
電話(011)261-6491  
URL:<http://www.snowman.ne.jp/hochan/>



北海道青少年基金は、次代を担う青少年の国際交流等さまざまな活動を支援しています。



財団法人北海道青少年育成協会



会長 青木 雅典

北海道本部 札幌市中央区北4条西4丁目  
〒060-0004 加森ビル③6F  
電話・FAX (011)231-4453

第30回記念サッポロ・インターナショナル・ナイトへのご協力有難うございました。お蔭様で本財団も今年創立35周年を迎えました

## (財)北海道青少年科学文化財団

理事長 廣重 力

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目パークビル4F  
Tel:011-788-2011 Fax:011-788-2211  
Mail:[zaidan.ho@tune.ocn.ne.jp](mailto:zaidan.ho@tune.ocn.ne.jp)



## NPO法人 北海道日本ロシア協会

会長 鈴木 泰行

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1番地  
緑苑ビル601号室

TEL:(011)261-8887

FAX:(011)261-0177

E-mail:[druzhba@do-nichiro.org](mailto:druzhba@do-nichiro.org)

<http://www.do-nichiro.org>

## 財団法人北海道体育協会

会長 堀 達也



# 祝 (社)北方圏センター設立30周年



ホテル ニューオータニ札幌

〒060-0002札幌市中央区北2条西1丁目1

TEL.011(222)1111

<http://newotanisapporo.com>



HOKKAIDO  
BUNKA  
FASHION  
COLLEGE

学校法人 谷内学園

北海道文化服装専門学校

校長 谷内 真佐子

〒062-0904 札幌市豊平区豊平4条8丁目1-7

TEL: 011-811-0101(代)/FAX: 011-811-0105

URL <http://www.h-bunka.jp>

札幌に2つのモントレ

HOTEL MONTEREY EDELHOF  
ホテルモントレエーデルホフ札幌  
TEL.011-242-7111(代)

HOTEL MONTEREY SAPPORO  
ホテルモントレ札幌  
TEL.011-232-7111(代)

社団法人 北海道貿易物産振興会

会長 滝沢 靖六

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目

北海道経済センター 1F

TEL 011-251-7976

ISO9001. ISO14001. OHSAS18001 認証登録

幌村建設株式会社

代表取締役 幌村 司

本社 日高郡新ひだか町三石蓬栄126

電話(0146)33-2031

札幌支店 札幌市清田区清田7条3丁目24-5

電話 011-886-4275

お客様のさまざまなニーズに  
お応えします



美しいプリントメディアをお届けする

有限会社北光社

〒065-0041 札幌市東区本町1条5丁目3番9号

☎(011)786-1300 Fax.(011)786-1302

E-mail:hokkosya@seagreen.ocn.ne.jp

株式会社 マルイ

代表取締役会長 池澤 映二

北海道紋別市北浜町2丁目5番1号

電話 0158-24-4111

財団法人北方文化振興協会

理事長 遠藤 隆也

北海道立北方民族博物館

館長 谷本 一之

網走市字潮見309-1

電話 0152-45-3888

# 祝 (社)北方圏センター設立30周年

## 稚内信用金庫

会長 井須孝誠

理事長 増田雅俊

稚内市中央3丁目9番6号

電話 0162-23-5131

学校法人 酪農学園

酪農学園大学・大学院  
酪農学園大学短期大学部  
とわの森三愛高等学校

〒069-8501 江別市文京台緑町582番地  
http://www.rakuno.ac.jp e-mail:koho@rakuno.ac.jp

社団法人北方圏センター 設立30周年記念

## 季刊誌「Hoppoken」(北方圏) バックナンバー展

《紀伊國屋書店札幌本店

(札幌市中央区北4条西5丁目)で開催中》

2003年秋号 (Vol.125) ~

2008年夏号 (Vol.144) まで

バックナンバーについては、

直接調査研究出版部 Tel. (011) 221-7840  
までお問い合わせを。

♪懐かしいあの歌がお菓子になりました。



六花亭

ご注文は ☎ 0120-012-666 http://www.rokatei.co.jp



ふたつの北海道の酒米が  
芳醇な日本酒を作り出す



全国新酒鑑評会において「吟風」を使用した清酒は金賞受賞の常連になり、「彗星」も18年度に初めて金賞を受賞するなど年々評価が高まっています。

北海道米販売拡大委員会

☎060-0004

札幌市中央区北4条西1丁目 北農ビル10階

☎011-232-6413

### 営業ご案内

ご結婚内祝、お中元、ご出産内祝、ゴルフコンパ賞品、御祝、お歳暮、セールキャンペーン用品、快気祝、芸事発表会、訪販用品、社内の運動会、誕生日祝、展示会ご来場記念品、ごあいさつ用品、ご新築内祝、ご進学内祝、ご婚約記念、落成記念、永年勤続、忌明志、年末あいさつ用品、お買い上げ記念品、ご来店記念、誕生日祝、ご拡売感謝

**Gift Plaza 礼 Plaza** 記念品の総合商社 株式会社美園濃  
Premium & World Goods  
札幌市中央区大通東7丁目水野ビル TEL011-231-6612 FAX011-271-1132

# 北方圏センター 美術品収蔵状況

【平成20年7月現在】



「流水」吉崎道治

種 類	作品の題名	作 者	寄贈者	展示場所等
彫 刻	エチュード	本郷 新	本郷 新	展示ホール
絵 画	ポカラの夜明け	大塚 武	大塚 武	役員室
	初夏のレイクルイーズ	中嶋 憲	中嶋 憲	役員室
	夜明けのカナディアンマッターホルン	中嶋 憲	中嶋 憲	事務室
	カナディアンロッキーの朝	中嶋 憲	中嶋 憲	事務室
	夏の朝	中嶋 憲	中嶋 憲	会議室
	さびたの花	豊島 輝彦	北海道拓殖銀行	事務室
	貝殻	栃内 忠男	栃内 忠男	事務室
	白い建物	稲垣 昌紀	北海道銀行	会議室
	摩周湖	西村 計雄		事務室
	流水	吉崎 道治	吉崎 道治	展示ホール
	有珠山	山内 彌一郎	水出 耀	収蔵庫
石版画	Printemps (春)	Mark Chagall	菅野 熙	役員室
	鳴く鳥	Lila Lrving	Lila Lrving	収蔵庫
書	岬	小川 東洲	小川 東洲	特別会議室
	風	加藤 幸道	加藤 幸道	ラウンジ
	北方圏友好の書	張 恒軒	中国黒竜江省	役員室
写 真	昼の集い (丹頂鶴)	岩松 健夫	大滝 重美	収蔵庫
ガラス工芸	孔雀 (Peacock)	Paul Hoff	秋山 康之進	ラウンジ
	THE HOKKAIDO	浅原 千代治	浅原 千代治	役員室
和紙染色	紅葉	小林 碧	小林 碧	特別会議室
優佳良織	冬の摩周湖	木内 綾	木内 綾	特別会議室
人 形	北の女 (風吹雪)	木村 藤	木村 藤	特別会議室
	コタンの水汲み	剣持 小枝	剣持 小枝	特別会議室
陶 芸	渦巻模様花瓶	Gerd Knapper	Gerd Knapper	特別会議室
	均窯花瓶	高橋 武志	高橋 武志	特別会議室
	練上線文壺	中村 興市	伊藤 健二	特別会議室



# 北方圏センター 出版目録

資料名	内容	発行年
定期刊行物 ・季刊「北方圏」創刊号、 ・北方圏センター「年報」 ・NRC NEWSLETTER 創刊号 （57号） ・「で・あ・い」創刊号、	北の今・人・明日を考える総合誌 北方圏センターのすべて 道内の話題を北方圏諸国の関係機関に 配布（英文） 北海道の国際協力情報紙（平成11年度 からIIRC札幌と共同発行）	昭47、 昭56、 昭55、 平8、 平8
調査報告書 ・北海道とシベリア・極東地域 との経済交流に関する調査報 告書 ・北海道とシベリア・極東地域 との科学技術交流に関する調 査報告書 ・北海道とアラスカ、カナダ地 域との経済、文化交流等に関 する調査報告書	<b>（北海道 北海道開発庁、道内主要都市 委託）</b> わが国初めての、ソ連のシベリア・極 東地域との経済交流に関する総合的解説 ソ連のシベリア・極東地域開発計画に 伴う科学技術動員態勢と、日本、北海道 の対応・協力策 日本、特に北海道との経済、文化交流 強化の基礎資料としての現状と課題	昭48・3 昭49・3 昭50・3
調査報告書 ・シベリア・極東の交通運輸の 現状 ・北海道と北欧スキャンジナピア 3国との経済、生活、文化交 流等に関する調査報告書 ・北方圏諸国の長期計画と北海 道との関連に関する調査報告 書	<b>（北海道 外務省、道内主要都市委託）</b> シベリア・極東地域の日ソ共同開発プ ロジェクト推進のため、その根幹となる 交通輸送に関する将来方向 新しい北海道の創造と、各種交流拡大 のための経済、文化、福祉、各般にわた る基礎調査 北方圏諸国の長期開発計画と、これに 対応する北海道の産業育成、社会開発の 方向調査	昭51・3 昭52・3 昭53・3

調査報告書 ・北方圏における思考と新しい 北海道創造に関する調査報告 書（カナダ・アラスカ編） ・北方圏における思考と新しい 北海道創造に関する調査報告 書（北欧編） ・北方圏における思考と新しい 北海道創造に関する調査報告 書（ソ連編） ・快適な冬の歩行者空間の創造 をめざして	<b>（北海道、道内主要都市委託）</b> 北国にふさわしい北海道の生活、文 化、産業社会創造のための調査（カナダ ・アラスカ編） 北国にふさわしい北海道の生活、文化、 産業社会創造のための調査（北欧編） 北国にふさわしい北海道の生活、文化、 産業社会創造のための調査（ソ連編） 冬季間の人の移動と、積雪や寒さに配 慮した歩行者対策などの調査	昭54・3 昭55・3 昭56・3 昭62・3
調査報告書 ・北方圏経済交流インターフェ イス機能の開発と地域経済活 性化に対する調査 ・冬の都市における歩行者の移 動性に関する調査 ・北海道と中国東北地方との経 済交流の可能性に関する調査 報告書 ・北方圏における快適な空間の 創造とその政策に関する調査 報告書 ・国際協力センター基本計画基 礎調査 ・寒冷地特有産業の振興方策に 関する調査報告書 ・アメリカ・マサチューセツ 州産業計画等の現状及び課題 と北海道との交流拡大の可 能性に関する調査報告書	<b>（北海道委託）</b> 北海道経済活性化のための対外経済交 流に欠かさないインターフェイス機能開 発とその可能性について 冬季間の歩行者交通確保について多様 な側面から調査し冬の都市づくりへ提言 北海道と東北三省との具体的な経済交 流の可能性についての調査、提言 冬のレクリエーションと公園、冬の都 市交通ほか、冬の都市問題と対策につ てカナダの例を含め調査 地方自治体が国際協力を効果的、総合 的に実施する中核となる国際協力センタ ーの組織、機構について提言 北海道技術マップと寒冷地特有産業の 市場機会マップを作成、北海道が多寒冷 地産業の振興方策を提言 姉妹提携をしている北海道とマサチュ ーセツ州の企業を対象に行ったアンケ ート調査の結果を基に、産業経済分野を 中心に、今後の交流拡大の可能性と方策 を考察 ロシア極東地方と中国東北部の地域開 発の現状と北海道との関わりについて現 地調査を実施し考察	昭62・3 昭63・3 平元・1 平2・3 平2・3 平3・3 平3・3 平4・3 平5・3 平6・3 平7・3

<p>政治、経済、社会制度等の実態に関する調査報告書</p> <p>・北方圏地域における科学技術交流のためのインターネットフェイア機能の形成に関する調査報告書</p> <p>・北方圏地域の文化振興の実態と北海道の文化交流のあり方に関する調査報告書</p> <p>・ヨーロッパにおける農村地域の道路整備及び農村景観づくり</p> <p>・北米における農村地域の道路整備及び農村景観づくり</p>	<p><b>調査報告書</b></p> <p>・カナダ、アラスカ地域の経済調査</p> <p>・アラスカに関する経済調査</p> <p>・サハリン天然ガス導入に関する調査報告書</p> <p>・カナダのエネルギー事情調査報告書</p> <p>・カナダ、北欧等寒冷地におけるエネルギー効率化とローカルエネルギー開発利用調査報告書</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(ソ連の石油開発)</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(ソ連の天然ガス開発)</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(ソ連の石炭及び電力)</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(コメコン編I)</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(コメコン編II)</p> <p>・中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(シベリア)</p>	<p>現地調査とアンケート調査による報告書</p> <p>北方圏諸地域間の科学技術交流を促進するツールとしてのインターネット活用の現状、問題点を提言</p> <p>北方圏諸地域の文化振興、文化交流等の実態と、地域間交流と北海道の文化交流のあり方について提言</p> <p>ヨーロッパ諸国で実施されている農村環境整備の推進策等について現地調査を実施し、北海道の農村景観を考察・提言</p> <p>カナダ、米国で実施されている農村環境整備の推進策等について現地調査を実施し、北海道の農村景観を考察・提言</p>
<p>ソ連の最近の石油情勢について、エネルギーバランス、開発計画の現状、今後の見通しを調査</p> <p>ソ連のエネルギー資源の中で特に重要な天然ガスの開発とその動向を調査</p> <p>ソ連のエネルギー政策の動向の中で石炭と電力の需給展望を調査</p> <p>エネルギー問題を中心として、世界経済におけるコメコン諸国の経済動向を調査</p> <p>エネルギー問題を中心として、世界経済におけるコメコン諸国の経済動向を調査</p> <p>エネルギー・経済問題を中心として、ソ連経済の側面及びソ連におけるシ</p>	<p><b>(外務省委託)</b></p> <p>カナダ、アラスカとの経済交流の基礎資料</p> <p>アラスカの経済開発の現状と方向</p> <p>サハリン大陸棚の天然ガス採掘事業の推移と北海道への導入の対応策</p> <p>カナダのエネルギー政策、需給状況の調査</p> <p>寒冷地におけるエネルギー利用の現状と今後の対応策</p>	<p>昭8・3</p> <p>平9・3</p> <p>平10・3</p> <p>平11・3</p> <p>昭50・3</p> <p>昭51・3</p> <p>昭54・3</p> <p>昭55・3</p> <p>昭56・3</p> <p>昭57・3</p> <p>昭58・3</p> <p>昭59・3</p> <p>昭60・3</p> <p>昭61・3</p> <p>昭62・3</p>

<p>極東編I)</p> <p>中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(シベリア・極東編II)</p> <p>中央計画経済圏のエネルギー事情調査報告書(コメコン・東欧編)</p> <p>エネルギー政策と環境問題に関する調査報告書</p> <p>エネルギー政策と環境問題(計画経済から市場経済への移行)に関する調査報告書</p> <p>市場経済化におけるCIS・東欧エネルギー需給の変化に関する調査報告書(ロシア極東のエネルギー・地下資源)</p> <p>CIS4カ国における外貨獲得能力と内外通貨管理システムに関する調査報告書</p> <p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書</p> <p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書(北東アジアの中期需給見通しと関連)</p> <p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書(イルクーツク周辺の資源と開発の現状)</p> <p>中国のエネルギー賦存状況調査報告書</p> <p>中央アジア諸国のエネルギー資源賦存状況</p> <p>ロシア極東・東シベリア地域の電力事情</p> <p>欧州の国際パイプライン・ガス取り引きの現状と見直し</p>	<p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書(北東アジアの中期需給見通しと関連)</p> <p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書</p> <p>ロシア極東・東シベリアエネルギー資源調査報告書(イルクーツク周辺の資源と開発の現状)</p> <p>中国のエネルギー賦存状況調査報告書</p> <p>中央アジア諸国のエネルギー資源賦存状況</p> <p>ロシア極東・東シベリア地域の電力事情</p> <p>欧州の国際パイプライン・ガス取り引きの現状と見直し</p>	<p>ベリア・極東の位置づけを調査</p> <p>エネルギー・経済問題を中心として、シベリア・極東の経済発展とエネルギー環境を調査</p> <p>コメコン諸国のペレストロイカに対する政治・経済的なスタンス、その対応と選択について各国ごとに考察</p> <p>ソ連、ポーランド、東ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー、中国の環境問題とエネルギー事情を考察</p> <p>ソ連、東欧の計画経済から市場経済への移行過程におけるエネルギー政策と環境を越える環境汚染の問題について考察</p> <p>CIS・東欧の計画経済から市場経済への移行動向をエネルギー面から調査し、さらに経済政策及び対外政策との関連においても調査分析</p> <p>CISにおける対外債務問題を貿易、内外通貨管理の分野を通して調査分析</p> <p>ロシア極東・東シベリアにおける石油・天然ガスの資源賦存及び技術開発を含む開発状況と今後の可能性を調査</p> <p>ロシア極東・東シベリアのエネルギー事情と中長期的な意義に注目、需要サイドから見た同地域の炭化水素エネルギーのポテンシャル及びその開発に関する問題点の分析と提言</p> <p>ロシア極東・東シベリアのエネルギー事情、特にイルクーツク州クラスノヤルスク地方の資源開発とロシア連邦のエネルギー戦略について考察と提言</p> <p>中国の石炭、石油、天然ガスの埋蔵量等を調査、さらに第9次5カ年発展計画におけるエネルギー政策の分析</p> <p>中央アジア諸国の石油・天然ガスを主体としたエネルギー資源の調査</p> <p>日露エネルギー協議で合意された「日露エネルギー対話強化のための包括的協力プログラム」に基づき現地調査を実施、ロシアの地方電力会社等の民営化促進を提言</p> <p>欧州の天然ガスパイプラインの現状とロシアから輸送の天然ガスの国家間、民間レベルの契約形態等について調査</p>
<p>昭63・3</p> <p>平元・3</p> <p>平2・3</p> <p>平3・3</p> <p>平4・3</p> <p>平5・3</p> <p>平6・3</p> <p>平7・3</p> <p>平8・3</p> <p>平9・3</p> <p>平10・3</p> <p>平11・3</p> <p>平12・3</p>	<p>昭63・3</p> <p>平元・3</p> <p>平2・3</p> <p>平3・3</p> <p>平4・3</p> <p>平5・3</p> <p>平6・3</p> <p>平7・3</p> <p>平8・3</p> <p>平9・3</p> <p>平10・3</p> <p>平11・3</p> <p>平12・3</p>	<p>昭63・3</p> <p>平元・3</p> <p>平2・3</p> <p>平3・3</p> <p>平4・3</p> <p>平5・3</p> <p>平6・3</p> <p>平7・3</p> <p>平8・3</p> <p>平9・3</p> <p>平10・3</p> <p>平11・3</p> <p>平12・3</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・北東アジア地域の国際パイプラインによるガス取り引きの課題</li> </ul>	<p>北東アジア地域における天然ガスパイプライン整備に係る条件や制度のあり方等のついで調査</p>	平13・3
<p><b>調査報告書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の住宅及び住環境のあり方に関する調査報告書</li> </ul>	<p>(道内主要都市委託・協賛) 北方圏諸国の住宅、住環境との比較の中で北海道のそれをどう底上げするかについて調査 前年度調査で整理された問題点を受け、提言とその課題を調査</p>	昭57・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の住宅及び住環境のあり方に関する調査報告書(提言と課題)</li> </ul>	<p>地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画) 地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画)</p>	昭59・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の地域開発の現況とその対応に関する調査報告書(スウェーデンの例と対比)</li> </ul>	<p>地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画)</p>	昭60・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の地域開発の現況とその対応に関する調査報告書(デンマークの例と対比)</li> </ul>	<p>地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画)</p>	昭61・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の地域開発の現況とその対応に関する調査報告書(フィンランドの例と対比)</li> </ul>	<p>地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画)</p>	昭62・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の地域開発の現況とその対応に関する調査報告書(カナダの例と対比)</li> </ul>	<p>地域開発計画について、北方圏5カ国の例と道内主要都市の例を具体的に对比調査(5カ年計画)</p>	昭63・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道におけるリゾート開発ビジョン(リゾート開発に関する住民意向調査編)</li> </ul>	<p>リゾート開発の出発点として、富良野市と留寿都村で実施したリゾート開発と地域社会との関連性についての住民意向調査の結果 リゾート開発の諸問題を提起、開発の先進事例に基づく北海道のリゾート開発への提言</p>	平元・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道におけるリゾート開発ビジョン</li> </ul>	<p>北海道のそれぞれの地域特性にあった高齢者対策のあり方方を提言</p>	平2・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性にあった高齢者対策のあり方</li> <li>・積雪寒冷地の特性をふまえて</li> <li>・地域特性にあった高齢者就労のあり方</li> </ul>	<p>日本人の平均寿命の延びによる「高齢者就労問題」の現況と問題点、今後の課題について考察 福祉社会形成の主体者としての地域住民の意識と社会的共同消費手段の現状を調査し、地域の実態や問題点を挙げ、行政の取り組みについて提言 救急医療における北海道の地域特性と、保健医療体制、医療環境、広域運搬</p>	平3・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉制度と行政の役割について</li> </ul>	<p>平4・3</p>	平5・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏における救急医療体制について</li> </ul>	<p>平5・3</p>	平6・3

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭廃棄物(ゴミ)の減量、リサイクルと住民意識に関する調査</li> </ul>	<p>システム等の現状を調査分析し、今後の方向を提言 道内各市のゴミの量やリサイクルの回収率などゴミの流れを図式化し、問題点と方策を提言 地方自治体の国際化の意義と政策形成のプロセスを明らかにし、地域活性化への戦略的課題を提言 地方分権化への動向について北欧(フィンランド)の先進事例から、新たな対応策を提言</p>	平7・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化時代の地域づくりと地方自治体の役割に関する調査報告書</li> </ul>	<p>分権化と地方行政の対応に関する調査 北欧における試行例を参考にして 北方圏諸国にみる地域活性化の動向 北方圏諸国にみる地域活性化の動向 北方圏諸国にみる地域活性化の動向</p>	平8・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏諸国における地域活性化の動向</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平9・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街活性化を核とする地域づくりの動向</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平10・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子・高齢社会における地方自治体としての取り組み</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平11・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報化社会における地方自治体としての取り組み</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平12・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道における広域行政、市町村合併の調査研究</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平13・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏諸国における冬季観光の調査研究</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平14・3
<p><b>調査報告書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流が地域文化に与えるインパクト(北海道における北方圏交流)</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平15・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯広・デンマークの産業複合体に学ぶ周辺農村との共生化対策</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平16・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏都市の高齢型ヒューマンシステム</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平16・3
<p><b>(NIRA助成)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏交流が、道民の意識や生活文化にどのような影響を与えたかについてを調査</li> </ul>	<p>米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言 米国の先進事例を調査し、中心市街地商店街の活性化策を提言</p>	平16・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市環境の中の色彩をテーマとして、「環境色彩計画」の位置づけとそのあり方を調査</li> </ul>	<p>平16・3</p>	昭62・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの帯広市の地域振興の動きを調査し、この実績と問題点を分析、21世紀に向けて帯広市の活性化を図る調査</li> </ul>	<p>昭60・3</p>	昭60・3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の都市環境の創出と都市の活性化を主題として、進展する高齢化社会への対応策を調査</li> </ul>	<p>昭60・3</p>	昭60・3



<p>・国際化と地域社会―北方圏交流の意味するもの―</p> <p>・北海道の一村一品運動と地域農業活性化</p>	<p>「北方圏交流」が地域社会に与えた影響を、その足跡をたどりながら考察、合わせて将来展望への言及</p> <p>道内4市町村のケール産業スタデイを通じ、一村一品運動が地域産業に与える影響とその活性化法策について調査</p> <p>北海道にふさわしい新しいデザイン情報を北方圏諸地域はじめ世界に向けて発信することにより、地域活性化の方策を考察</p>	<p>・企業と地域社会―新港湾都市の創造へ向けた小樽のまちづくりと国際化</p> <p>・人生80年時代のライフスタイルと地域社会―「限界地」に暮らす青年層のライフスタイルと社会参加</p> <p>・社会教育のための国際交流と住民参加</p>	<p>国際交流を社会教育の一環として捉えて、住民参加と交流活動定着への方策を研究考察</p> <p>中山間地域の保健・医療・福祉の課題を道内2町の調査をもとに検討し、ケア拠点の集中化、ケアマネジメントチームの確立を提言</p> <p>快適な住環境の形成に向けて、名寄市の行政と住民活動との連携とあり方を考察し、まちづくりのためのシステムづくり等を提言</p>	<p>・中山間地域の活性化法策―保健・医療・福祉の連携とマンパワーの確保</p> <p>・積雪寒冷を活性化のバネとした名寄市のまちづくりの取り組み</p>	<p>・農村女性の生活自立―起業的経済活動とその支援策について―</p> <p><b>調査報告書</b></p> <p>・北サハリン天然ガスの供給に 関する調査報告書(全10冊)</p>
昭63・3	昭63・3	昭63・3	昭63・3	昭63・3	昭63・3

<p>会から委託を受け各方面からの、サハリン天然ガス導入に関する基礎調査</p>	<p>(財団法人産業研究所委託)</p> <p>カナダ、アラスカの資源開発、経済体系、北欧諸国の生活様式、都市開発等についてのデータと分析</p> <p>北海道における技術開発に対する産業の動向と、技術開発の具体的な振興対策</p>	<p>・石狩湾新港地域開発事業推進調査報告書(Ⅰ)</p> <p>・石狩湾新港地域開発事業推進調査報告書(Ⅱ)</p>	<p>(北海道通商産業局委託)</p> <p>北海道における中小企業の潜在的な国際化へのニーズを把握し、道内の中小企業が国際的環境変化に対応するか具体的な指導方針を考察</p> <p>(自主研究調査)</p> <p>北海道農業が今後も存続し発展していくための構造変革の必要性和、その政策的救済策について考察、提言</p> <p>北海道とソ連極東との経済交流をどう促進するか、どのような促進策があるかについてを調査</p> <p>快適な冬の都市づくり、特に歩行者の移動、快適さに着眼したカナダ。アルバータ大学ポーリアル北方研究所との共同研究調査</p>	<p>・調査報告書</p> <p>・国際化に対応する北海道農業の将来方向</p> <p>・北海道とソ連極東地方との経済交流促進の可能性に関する調査報告書</p> <p>・北海道―アルバータ州共同研究プロジェクト―冬の都市空間におけるパーソンモビリティの創造</p>	<p>北方圏紹介及び国際交流推進関係出版物</p> <p>《単行本》</p> <p>・北方圏時代</p> <p>・HOPPOKEN TODAY</p> <p>・ルポルタージュ北方圏</p>
昭55・3	昭56・3	昭57・3	昭61・3	昭57・9	昭57・3

<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏ガイド</li> <li>・新北方圏時代</li> <li>・ウィンターシティーの再生</li> <li>・国際交流ガイドブック</li> <li>・北方圏センターの歩みをふりかえる</li> <li>・成熟都市のシステムデザイン</li> <li>・アトリウム</li> <li>・国際交流事例集―架け橋そして未来へと―</li> <li>・国際交流への補助・助成ハンドブック―活動の輪を広げるために―</li> </ul>	<p>諸国の実情(生活、教育、産業、紀行など)を紹介した、新聞社特派員ら20人によるレポート集</p> <p>北方圏諸国・地域に関する基礎データを翻訳・収録</p> <p>北方圏交流によって積み重ねられた道民の意識の変化を紹介し、今後の北海道の発展の方向を探る。北方圏センター10周年記念出版。既刊「北方圏時代」の続編</p> <p>カナダ「住みよい冬の都市協会」発行の同書を許可を得て翻訳。冬の生活を快適にする都市づくりの研究書</p> <p>国際交流の指針や外国人の受け入れ、外国への訪問、プロトコールや交流活動に関するノウハウを集めた国際交流の手引書</p> <p>北方圏構想の始動、北方圏センターの発足、北方圏交流の拡大など、それぞれの節目の時期に重要な役割を果たした方々による座談会などを収録</p> <p>北海道の都市の地域特性に着目しながら、人間生活に幅と深みのある潤い豊かな都市空間と社会システムへのデザインを提言</p> <p>北方型の都市空間で重要な役割を果たす「アトリウム」に関連する問題点を総合的に紹介・解説</p> <p>道内45の市町村を現地取材し、姉妹都市交流の現状やまちおこしへの活用など、地域での国際交流団体の活動状況や課題をまとめた事例集</p> <p>国際交流関係者が活用できる補助・助成制度の情報約230件を総合的にまとめたハンドブック</p>
<p>《グラフィック北方圏》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏の暮らしと住まい</li> <li>〈カラーグラフィック第1集〉</li> <li>・北方圏の健康づくり</li> <li>〈同 第2集〉</li> <li>・北方圏の生活のアイデア</li> <li>〈同 第3集〉</li> <li>・北方圏のフェスティバル</li> <li>〈同 第4集〉</li> </ul>	<p>アメリカ、カナダ、北欧などの街づくり、暮らし、住まいの工夫などを紹介</p> <p>アメリカ、カナダ、北欧、ソ連などの健康づくりの工夫などを紹介</p> <p>カナダ、北欧、ソ連などの衣生活、食生活、家づくりなどのアイデアを紹介</p> <p>北方圏諸国の伝統の祭り、季節の祭り、新しい祭りを和英両文で紹介</p>
<p>昭59・3</p> <p>昭58・3</p> <p>昭57・3</p> <p>昭56・3</p>	<p>昭63・5</p> <p>昭61・10</p> <p>昭61・3</p> <p>昭58・3</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏の子どもたち</li> <li>〈同 第5集〉</li> <li>・北方圏のお国ぶり</li> <li>〈同 第6集〉</li> <li>・北方圏の公園</li> <li>〈同 第7集〉</li> <li>・北方圏のリゾートとレクリエーション</li> <li>〈同 第8集〉</li> <li>・北方圏のウィンターシティー</li> <li>〈同 第9集〉</li> <li>・北海道・四季と自然</li> <li>〈同 第10集〉</li> <li>・北方圏・暮らしと産業</li> <li>〈同 第11集〉</li> </ul>	<p>北方圏の国々へ北海道初の情報として、学び、自然や家庭でのふれあいを紹介</p> <p>北方圏の国々の伝統がはぐくんだ豊かな暮らしぶりを風土、産業、暮らしとして紹介</p> <p>四季折々に美しい北方圏の国々のやすらぎ、うるおい、ふれあいの場としての公園を紹介</p> <p>豊かな自然に恵まれた北方圏諸国のリゾートと、そこに楽しむ人々の姿を紹介</p> <p>冬のもたらす雪と寒さに適応し、快適な人間空間を創造している北方圏都市の工夫やアイデアを和英両文で紹介</p> <p>北方圏の国々へ北海道初の情報として北海道の四季と自然の美しさを和英両文で紹介</p> <p>北方圏の国々へ北海道初の情報として北海道の人々の暮らしぶりと産業の様子を和英両文で紹介</p>
<p>昭55・5</p> <p>昭55・5</p> <p>昭55・4</p> <p>昭55・1</p> <p>昭54・12</p> <p>昭54・10</p> <p>昭54・10</p> <p>昭54・9</p> <p>昭54・4</p> <p>昭54・4</p>	<p>平5・3</p> <p>平4・3</p> <p>平4・3</p> <p>平4・9</p> <p>平2・3</p> <p>平2・3</p> <p>平2・3</p> <p>平2・8</p> <p>平2・8</p> <p>平17・3</p> <p>平18・3</p>

・北欧みたま	55年11月、北海タイムスに掲載の「旭川市青年・婦人北欧視察団」のレポート	昭55・12
・北方圏構想と経済交流（北海道の特色ある発展を）	55年12月、帯広での会員セミナーにおける北方圏センター東条猛猪会長の講演要旨	昭56・2
・北方圏の住まい	56年2月、カナダ・北米を視察した北海道婦人国際交流連絡会々員のレポート	昭56・3
・北欧の経済	北欧5カ国の産業連盟が共同出版した「北欧経済調査報告書」4カ国分の全訳	昭56・3
・歩くスキー（北欧の冬のスポーツ）	56年2、3月の「歩くスキー指導者北欧研修団」のレポート	昭56・4
・スウェーデンの冬のレクリエーション	56年2月、カナダのオタワで開催された「冬季レクリエーション会議」のスウェーデン代表のレポート	昭56・4
・フィンランドの教育事情	54年4月から2年間フィンランドに滞在した豊浦高校三浦辰彦教師のレポート	昭56・5
・カナダ／アメリカ福祉ボランティア	54年6月、カナダとアメリカを視察した北海道国際婦人協会「福祉ボランティア研修団」のレポート	昭56・8
・北方圏交流に関する世論調査（構想10周年記念）	北方圏センターがNIRAの助成を受けて研究した「国際交流が地域文化に与えるインパクト」の中の「北方圏構想の道民定着度調査」の概要	昭56・11
・ソ連圏との貿易	56年10月、カナダの6都市で、東西貿易の研究者にインタビューしてきた北大木村汎教授のレポート	昭56・12
・北海道の歩くスキー普及状況	北方圏センターがNIRAの助成を受けて研究した「国際交流が地域文化に与えるインパクト」の中の「歩くスキー普及状況調査」の概要	昭57・2
・北国の暮らしの課題を考える	57年6月、北方圏センター主催の「北方圏交流北海道国際会議」の要旨	昭57・6
・北欧のインテリア	57年7月、北方圏センター主催の「北欧インテリア国際シンポジウム」の要旨	昭57・7
・北国を考える	57年7月、北方圏センターが実施した高校生作文コンクールの入選作	昭57・8
・スウェーデンの老人保健	57年4月、ストックホルムで老人保健事情を見聞した旭川厚生病院検診センター杉村所長のレポート	昭57・12
・スウェーデンの老人福祉	57年12月、北方圏センターでのスウェーデン社会保健省ヤーン・ナセニウス政策審議官の講演要旨	昭57・12
・北欧の冬の健康管理（衣食住などに見る）	57年11月、ヘルシンキ、ストックホルム、ハンブルグでの北方圏健康管理研修団報告	昭58・1

・北欧の都市建設（地域暖房についても）	北欧各国のニュー・タウン建設の現状調査	昭58・3
・アイスランドあれこれ	58年5月、北方圏センターでの中部雷次郎駐日アイスランド名誉領事の講演要旨	昭58・6
・鮭の自然保護（カナダBC州の例）	「カナダ鮭保護協会」の活動状況を紹介	昭58・8
・北方圏交流が北海道に与えたインパクト	北方圏センターの調査研究「国際交流が地域文化に与えるインパクト」のレポートの要約	昭58・10
・シベリア開発の行方	北大スラブ研究センターの木村汎教授のレポートの抄編	昭58・10
・ソ連の経済事情（その海外依存度など）	北大スラブ研究センターの木村汎教授のレポートの抄編	昭58・11
・北方圏の家庭教育	北方圏センター収蔵図書から抜粋収録	昭59・2
・北方圏交流の推進と北方圏センター	北方圏センター「専門委員会」での提言要旨と北方圏センターの対応（抄）	昭59・4
・北方圏ロマンの教育	59年3月「北海道教育の窓」に掲載された小樽稲穂小・鈴木卓郎校長の「私の実践・私の研究」から	昭59・5
・北欧の子どもたち	ヘルシンキ、ストックホルム、コペンハーゲンでの「子どもたちの生活」北欧視察団報告	昭59・7
・北欧の住まいとマチづくり	59年6月、十勝新聞に掲載された同社杉山兼二記者のレポート	昭59・7
・北方圏諸国の地域開発	北方圏センターが調査した「海外の工業団地における投資環境」の要約	昭59・7
・ソ連とカナダの森林産業	北大スラブ研究センターの木村汎教授のレポートの抄編	昭60・1
・北欧の美術館	コペンハーゲン、オスロでの「北欧・美の探訪」視察団報告書	昭60・3
・北方圏における都市の色彩環境	北方圏センターがNIRAの助成を受けて研究調査した「北方圏都市の環境と色彩アイデンティティ」のレポートの要約	昭60・4
・北の暮らしアラカルト	59年度にNHKラジオ放送「こんにちはラジオセンター北海道」で放送された「北の暮らしメモ」〈資料〉北方圏センター提供から選んだ73編	昭60・4
・住居の気密化と換気計画	これからの寒地住宅の鍵とも言われる住宅の気密化と換気計画との関係についてを考察	昭60・11
・北欧の白い街（ヘルシンキと百万人のムラ（ミュンヘン））	北海道「北のまちづくり」プロジェクトチームによる海外調査レポート	昭60・12
・日ノ経済関係のゆくえ	米国カンザス大学レスリー・ディーンズ教授者による外部から見た日ノ経済関	昭61・1



<p><b>事業関係出版物</b></p> <p>《国際会議・シンポジウム・セミナー・講演会》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北方圏ジャーナリスト交流会 議報告書</li> <li>・北方圏海難防止会議報告書</li> <li>・日ソ経済セミナー講演録</li> <li>・北欧に見る「住まい方」① 第1回北方圏住宅フォーラムからスウェーデンにおける理想的な住環境と高齢化社会の住宅計画②第2回・第3回北方圏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界を駆ける人・話</li> <li>・子どもの生活環境シンポジウム</li> <li>・心の国際化をめざす</li> <li>・資源開発から合併へ</li> <li>・北方圏語ABC（身近な言葉やさしい会話）</li> <li>・子どもたちのアラスカ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の国際化を考える</li> <li>・北欧の街づくりを訪ねて</li> <li>・高齢化社会を考える</li> <li>・カナダの快適な都市空間</li> </ul>
<p>「北方圏センター」のオーブンを記念、外国13カ国19人、北海道33人が参加した会議の内容</p> <p>昭和56年9月、外国5カ国11人、北海道33人が参加した会議の内容</p> <p>第1回「ソ連極東の開発とアジア太平洋諸国との経済協力」及び第2回「日ソ漁業協力の諸問題」を収録</p> <p>平成元年2月の王立スウェーデン建築協会田中久氏の講演要旨</p> <p>平成元年8月の王立スウェーデン芸術大学ヨーン・シュトロウム教授の講演、及び11月のスウェーデン・テービー自治</p>	<p>係論を北大スラブ研究センター木村汎教授の抄録</p> <p>60年度発行の季刊誌『北方圏』に特集として掲載した記事を収録</p> <p>北欧のヘルシンキ等を訪れた恵庭市役所まちづくり研究会の北方圏視察報告</p> <p>61年度発行の季刊誌『北方圏』に特集として掲載した記事を収録</p> <p>カナダのカルガリーのフランス15とエドモントンのウエストエドモントンモールの理念と実態を調査した報告書</p> <p>ソ連経済の転換について北大スラブ研究センター木村汎教授のレポート</p> <p>季刊誌『北方圏』(50、57号)に連載した「北方圏語ABC」を冊子に収録</p> <p>62年度事業の「北方圏国際交流ジュニア親善団・夏休み少年少女オーロラスクール in ALASKA」に参加した子どもたちの感想文集</p> <p>62年度発行の季刊誌『北方圏』(61、62号)に連載の特集記事を収録</p> <p>62年11月、北方圏センターで開催された「子どもの生活環境」シンポジウムの抄録</p> <p>国際交流基金、北海道新聞社、北方圏センターの3者主催による「文化講演会」から、ピアニストの中村絃子さん、東京国際大学國弘正雄教授の講演会を収録</p>	<p>61・3</p> <p>61・5</p> <p>61・12</p> <p>62・3</p> <p>62・3</p> <p>62・3</p> <p>62・6</p> <p>62・11</p> <p>63・2</p> <p>63・3</p> <p>63・3</p> <p>63・3</p> <p>63・3</p> <p>62・11</p> <p>62・6</p> <p>62・3</p> <p>62・3</p> <p>62・3</p> <p>62・6</p> <p>62・11</p> <p>63・2</p> <p>63・3</p> <p>63・3</p> <p>63・3</p>

<p><b>住宅フォーラムから</b></p> <p>第1回ソ連極東経済セミナー</p> <p>カール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下来道記念環境問題シンポジウム「今日における環境問題への挑戦」</p> <p>第2回ソ連極東経済セミナー</p> <p>第3回ソ連極東経済セミナー</p> <p>第4回ソ連極東経済セミナー</p> <p>ロシア、ロシア極東エネルギーセミナー</p> <p>マサチューセッツ州はバイオテクノロジーをどのように育てたか</p> <p>「北東アジアの平和と友好交流を考える」国際シンポジウム報告書</p>	<p>全道国際交流シンポジウム「グローバル化時代の地域社会と国際交流を考える」(北方圏センター25周年記念)</p>	<p>住居建築都市計画課チーフのクリスティナ・ベルリンド女史の講演のそれぞれ要旨</p> <p>平成元年8月のソ連科学アカデミー・極東経済研究所ミナキル所長ほか2名の講演要旨</p> <p>平成2年3月17日にスウェーデンのカール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下の来道を記念して開催されたシンポジウムにおける国王のお言葉を、はいさつ、プレゼンテーション、コメント、及び総括を収録</p> <p>平成2年9月のソ連科学アカデミー・極東経済研究所シェインガウス副所長ほか3名の講演要旨</p> <p>平成3年10月のサハリン石油・天然ガス工業研究所アスタファイエフ所長ほか3名の講演要旨</p> <p>平成4年9月のロシア科学アカデミー・極東経済研究所シェインガウス副所長ほか2名の講演要旨</p> <p>平成5年8月のロシア科学アカデミー・極東経済研究所ツベトコフ主任研究員ほか1名の講演要旨</p> <p>北方圏センターとの交流提携先「バイオテクノロジー・センター・オブ・エクセレンス・コーポレーション」のF・ケサダ専務理事を招いた講演会の収録</p> <p>北海道から補助を受け平成7年10月に実施した「北東アジアの平和と友好交流シンポジウム」を併せて開催した「北海道の国際交流の歩み」並びに「北海道市町村等戦後50年記念事業」をまとめた報告書</p>
<p>《事業実施》</p> <p>ロシア極東地方企業経営指導者育成支援事業報告書</p>	<p>北海道から委託を受け平成4年9、10月にロシア極東地方の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録</p>	<p>平成元年8月のソ連科学アカデミー・極東経済研究所ミナキル所長ほか2名の講演要旨</p> <p>平成2年3月17日にスウェーデンのカール16世グスタフ・スウェーデン国王陛下の来道を記念して開催されたシンポジウムにおける国王のお言葉を、はいさつ、プレゼンテーション、コメント、及び総括を収録</p> <p>平成2年9月のソ連科学アカデミー・極東経済研究所シェインガウス副所長ほか3名の講演要旨</p> <p>平成3年10月のサハリン石油・天然ガス工業研究所アスタファイエフ所長ほか3名の講演要旨</p> <p>平成4年9月のロシア科学アカデミー・極東経済研究所シェインガウス副所長ほか2名の講演要旨</p> <p>平成5年8月のロシア科学アカデミー・極東経済研究所ツベトコフ主任研究員ほか1名の講演要旨</p> <p>北方圏センターとの交流提携先「バイオテクノロジー・センター・オブ・エクセレンス・コーポレーション」のF・ケサダ専務理事を招いた講演会の収録</p> <p>北海道から補助を受け平成7年10月に実施した「北東アジアの平和と友好交流シンポジウム」を併せて開催した「北海道の国際交流の歩み」並びに「北海道市町村等戦後50年記念事業」をまとめた報告書</p> <p>北方圏センターの設立25周年を記念して実施したシンポジウムにおける(財)日本国際交流センター・毛受敏浩氏による基調講演のほか、5人のパネリストによるディスカッション、分科会の内容を収録</p>

・平成5年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成5年9～10月にロシア極東地方の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平5・11
・平成6年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成6年9～10月にロシア極東地方の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平6・11
・平成7年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成7年8～9月にロシア極東地方の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平7・11
・平成8年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成8年8～9月にロシア極東地方の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平8・11
・平成9年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成9年8～9月にロシア極東地方の食品加工業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平9・11
・平成10年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成10年8～9月にロシア極東地方の縫製業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平10・11
・平成11年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成11年8～9月にロシア極東地方の金融（銀行）業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平11・11
・平成12年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成12年8～9月にロシア極東地方の道路建設業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平12・11
・平成13年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成13年9～10月にロシア極東地方の観光業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平13・11
・平成14年度企業経営指導者育成支援事業報告書	北海道から委託を受け平成14年9～10月にロシア極東地方のリース業の企業経営指導者等を対象に実施した研修の記録	平14・11
・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成8年3月実施した事業「大雪青年の家を訪問」の参加留学生（47名）による意見交換、感想文、アンケート結果等を集録	平8・8
・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成9年3月実施した事業「大雪青年の家を訪問」の参加留学生（31名）による意見交換、感想文、アンケート結果等を集録	平9・2
・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成10年11月実施した事業「浦河町・えりも町を訪問」の参加留学生（28名）による意見交換、感想文、アンケート結果等を集録	平11・3

・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成11年11月及び12年2月実施した事業「幌加内町、足寄町を訪問」の参加留学生（27名、12名）による意見交換、感想文、アンケート結果等を集録	平12・3
・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成12年7月及び11月実施した事業「森町、平取町他を訪問」の参加留学生（21名、35名）による意見交換、感想文、アンケート結果等を集録	平13・3
・留学生フォーラム「北海道へのメッセージ」～北の大地の留学生から～報告書	（財）中島記念国際交流財団から助成を受け平成14年3月実施した留学生交流支援事業の参加留学生（23名）によるフォーラム討論、感想文、アンケート結果	平14・3
・北方圏センター留学生交流支援事業「留学生ふれあい交流in北海道」報告書	（財）中島記念国際交流財団から助成を受け平成14年9月及び15年2月実施した事業「下川町、上磯町を訪問」の内容と参加留学生（31名、25名）のアンケート結果等を集録	平15・3
・北方圏センター留学生交流支援事業「留学生ふれあい交流in北海道」報告書	（財）中島記念国際交流財団から助成を受け平成15年8月及び16年3月実施した事業「由仁町、鹿追町を訪問」の内容と参加留学生（28名、34名）のアンケート結果等を集録	平16・3
・北方圏センター留学生支援事業「留学生ふれあいトークin北海道」報告書	北海道から補助を受け平成15年9月実施した事業「浜益無村を訪問」の参加留学生（26名）による感想文、アンケート結果等を集録	平16・3
・留学生地域交流ふれあいトーク「異文化・多文化コミュニケーションin北海道」報告書	（財）中島記念国際交流財団から助成を受け平成17年2月実施した事業「日高町・平取町を訪問」の内容と参加の留学生（28名）と日本人学生（4名）の意見交換要旨、感想文、アンケート結果等を集録	平17・3
・外国人共生プログラム「国際ふれあい交流・私たちが家族（ファミリー）です！」	（財）自治体国際化協会（財）自治総合センターから助成を受け平成17年10月実施した事業「深川市を訪問」の内容、参加の外国人（主に留学生（28名）と地元の小中学生及び青年（27名）の感想文、アンケート結果等を集録	平18・2
・留学生地域交流ふれあいトーク「異文化・多文化コミュニケーションin北海道2006」	（財）中島記念国際交流財団から助成を受け日本学生支援機構と共催で平成18年9月に実施した留学生地域交流事業「日高町・平取町を訪問」の内容、参加の留学生（33名）と日本人学生（4名）、地元	平19・1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生時代の中での「環境問題」とまちづくり「タウンウォッチングから環境を考える」</li> </ul>	<p>小学生や青年(16名)の感想文、アンケート結果等を集録</p> <p>(財)中島記念国際交流財団から助成を受け日本学生支援機構、北海道大学と共催で平成19年1月実施した留学生地域交流事業の内容、参加者アンケート結果、留学生らによる提言等を集録</p>	<p>平20・1</p>
<p>《視察・研修・派遣・受入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回シベリア・極東地方経済・文化視察団報告書(シベリア・極東の開発と北海道)</li> <li>・北欧の街と暮らし</li> </ul>	<p>昭和46年度派遣の同視察団によるナホトカ、ハバロフスク等の視察内容の報告</p> <p>昭和46年度派遣「北欧文化視察団」の報告</p> <p>北海道とソ連の初の民間農業技術交流の報告</p> <p>昭和52年度派遣「北欧生活環境視察団」の報告</p> <p>昭和57年度派遣「北海道北欧三地域暖房調査団」の報告</p> <p>昭和57年度派遣「北海道北欧三地域暖房調査団」の報告</p> <p>平成4年9月に北方圏センターが派遣したパイオ関係者の視察内容について、帰国後開催した報告会を取録</p> <p>平成5年度外務省委託調査に基づく同調査団の報告</p>	<p>昭46・12</p> <p>昭48・10</p> <p>昭50・3</p> <p>昭53・3</p> <p>昭58・4</p> <p>昭58・4</p> <p>昭58・6</p> <p>平4・6</p> <p>平5・8</p> <p>平10・3</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道とソ連の農業(馬込野暮)技術交流に関する調査報告書</li> <li>・北欧生活環境(住宅と生活文化)視察団報告書</li> <li>・北欧三地域暖房調査報告書</li> <li>・北方圏技能交流研修団報告書</li> <li>・北方圏センター・バイオグループのマサチューセッツ州訪問に関する報告書</li> <li>・ロシア極東・東シベリア調査団調査報告書</li> <li>・北海道青年北欧派遣事業報告書</li> <li>・平成10年度北海道青年国際交流事業報告書</li> </ul>	<p>北海道及び北方圏交流基金から補助を受け北方圏センターが平成9年10月に実施した初めての青年派遣事業の報告</p> <p>北方圏センター青年交流派遣事業のカナダ・アメリカ班(実施10月)、中国班(同10月)、東南アジア・オセアニア班(同11月)の研修報告</p> <p>北方圏センター婦人交流事業の北欧班(実施10月)、中国班(同10月)、及び南米青年交流事業(同11月)の研修報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業の国際交流研修(実施10月、ドイツ・デンマーク他)、国際協力研修(同10月、タイ・マレーシア)の報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業の国際交流研修(実施10月、カナダ・アメリカ、エトナム)の報告</p>	<p>平11・3</p> <p>平12・3</p> <p>平13・3</p> <p>平14・3</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度北海道青年婦人海外派遣事業報告書</li> <li>・2000年度北海道海外派遣事業報告書</li> <li>・北海道海外派遣事業報告書</li> </ul>		<p>平15・3</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年度ブラジル青年交流団受入事業報告書</li> <li>・北海道海外派遣事業報告書</li> <li>・2003</li> <li>・北海道海外派遣事業報告書</li> <li>・2004</li> <li>・北海道海外派遣事業報告書</li> <li>・2005</li> <li>・北海道海外派遣事業報告書</li> <li>・2006</li> <li>・テープを結んで「HOKKAIDO STYLE 2006」報告書</li> </ul>	<p>北方圏センターが10月に受入れた同交流団の道内研修報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業の国際交流研修(実施10月、英国・デンマーク他)、国際協力研修(同10月、ヴェトナム・カンボジア)の報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業の国際交流研修(実施10月、アメリカ・カナダ)</p> <p>国際協力研修(同10月、タイ・カンボジア)の報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業の国際交流研修(実施10月、カナダ・アメリカ、国際協力研修(同10月、ヴェトナム・カンボジア)の報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業(実施8月、フィンランド・スウェーデン)の報告</p> <p>北海道の生活文化の発信と交流を図るためスウェーデン・リンチョーピン市で開催した生活文化展の報告</p> <p>北国の風土を生かした特色ある観光の振興に実績のある北欧の取り組みについての視察報告</p> <p>北方圏センター海外派遣事業(実施9月、中国・ハルビン・北京・西安・上海)の報告</p>	<p>平14・3</p> <p>平15・3</p> <p>平16・3</p> <p>平17・3</p> <p>平18・3</p> <p>平18・11</p> <p>平18・12</p> <p>平19・3</p>
<p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロシア連邦、極東地区のエネルギイ・露露及びサハリン州の天然ガス開発調査」報告書(共同研究)</li> <li>・「MIPプロジェクト・ブドウ種子から抗酸化物抽出プログラム(ほか)報告書(共同研究)</li> <li>・「Northeast Asia Gas Trade Study」報告書(共同研究)</li> <li>・北海道NGO2003(国際協力情報誌「であい」別冊・北海道NGO団体紹介パンフレット)</li> </ul>	<p>計画されている天然ガスへの燃料転換と、天然ガスの需要量と経済的影響等を調査。(日本エネルギー経済研究所委託調査)</p> <p>ブドウの種子から抽出に関する新技術開発の研究、及び健康補助食品としての市場性調査</p> <p>各民間における枠組みの構築と諸必要条件等について提言。(日本エネルギー経済研究所委託調査)</p> <p>個々の人が今後さらに活動を広げる手がかりになる北海道内の54の国際協力団体を紹介</p>	<p>平13・3</p> <p>平13・3</p> <p>平15・3</p> <p>平15・3</p>



# 北方圏交流基金

北方圏交流基金受入状況〔昭和53(1978)年～平成6(1994)年〕

年度	区分	基本財産積立金 (円)	運用財産積立金		基金合計 (円)
			件数	金額(円)	
昭和53年度		30,000,000	新 126	105,359,381	135,359,381
昭和54年度		30,000,000	新 44	19,616,000	49,616,000
昭和55年度		30,000,000	新 64/再 2	18,164,000	48,164,000
昭和56年度		30,000,000	新 14/再 3	10,119,043	40,119,043
昭和57年度		30,000,000	新 5/再 7	14,941,576	44,941,576
昭和58年度		20,000,000	新 4/再 3	40,000,000	60,000,000
昭和59年度		20,000,000	新 2	24,000,000	44,000,000
昭和60年度		20,000,000	新 1	1,000,000	21,000,000
昭和61年度		18,000,000	新 2	600,000	18,600,000
昭和62年度		16,000,000	新 3	1,500,000	17,500,000
昭和63年度		6,000,000	新 1	15,000,000	21,000,000
平成元年度		0	新 1	100,000	100,000
平成2年度		0	再 1	5,000,000	5,000,000
平成3年度		0	0	0	0
平成4年度		0	新 1	2,000	2,000
平成5年度		0	新 1	1,000,000	1,000,000
平成6年度		0	0	0	0
合計		250,000,000	新 269/再 16	256,402,000	506,402,000

〔当初の目標金額達成により、平成6年度以降基金公募は行っていない〕

北方圏交流基金助成実績〔昭和53(1978)年～平成19(2007)年〕

年 年度	助成 件数	助成額 (千円)	助成内訳													
			経済	親善	生活	福祉	学術	調査	教育	文化	スポーツ	資料	催他			
昭和53年	78	6	11,500		4	2										
昭和54年	79	11	11,000		3	2				3			1	2		
昭和55年	80	9	9,000		2	2				1			3	1		
昭和56年	81	23	16,130	2	1	1	4		3	2	3	5	2			
昭和57年	82	22	16,150	3	1	4			6		6	1	1			
昭和58年	83	25	17,480	3	1	2		2	3		9	1	4			
昭和59年	84	27	21,100	4		3	1	2	4	1	10	1	1			
昭和60年	85	35	21,800	4		3		4	6	3	11	4				
昭和61年	86	38	23,550	3	3	2		8	6	5	8	3				
昭和62年	87	36	24,200	1	2	3		8	4	2	8	3	5			
昭和63年	88	42	24,900	3	2	2		12	3	1	11	3	5			
平成元年	89	43	22,900	5	2	4		12	3	2	8	3	6	1		
平成2年	90	31	19,000	2	2	2		11	2	3	7		2			
平成3年	91	33	22,150	1	4	2		8	2	3	10		3			
平成4年	92	35	23,400	2	5	3		10	3	1	8	3				
平成5年	93	38	19,400	1	2	2		10	4	4	12	1	2			
平成6年	94	33	20,660	1	3	3	2	4	5	2	12				1	
平成7年	95	23	13,700	3	4	2	1	5		2	4	1	1			
平成8年	96	21	7,900	1	2	2	2	5		3	5	1				
平成9年	97	25	9,000	1		5	1	6		1	10	1				
平成10年	98	22	6,850	1	2	3	1	4		1	9	1				
平成11年	99	21	6,940	1		2	2	3		2	10	1				
平成12年	00	29	6,970	1	3	3	2	6		2	10	2				
平成13年	01	28	6,260	2	1	1	1	6		1	16					
平成14年	02	22	5,660	1		2		5		2	12					
平成15年	03	16	5,260	2				2			10					2
平成16年	04	17	4,990	2				7			5					3
平成17年	05	22	5,790		5			3	1		9	1				3
平成18年	06	22	6,880		1			3		1	10	3	1			3
平成19年	07	18	6,330					4		1	7	1				5
平成20年	08															
19年度末 現在	計	総額	経済	親善	生活	福祉	学術	調査	教育	文化	スポーツ	資料	催他			
	776	416,850	50	55	62	17	150	59	45	240	44	36	18			

# 寄付者芳名録

※ご芳名は寄付をいただいた当時のものです。



## 【北方圏交流基金の目的】

北方圏諸国との生活、文化、学術、スポーツ、産業などの各種の交流事業を援助することを目的としており、これにより、相互理解を深め友好親善を促進するとともに、北国に暮らす人々が知恵を出し合って豊かな地域づくりを進めるのに寄与する。

## 【北方圏交流基金の事業】

次のような北方圏交流事業に対して、助成する。

- ① 北方圏交流の目的で行う人物の派遣、招聘
- ② 北方圏の発展を目的とする調査・研究
- ③ 北方圏の文化交流等を目的とする催しの実施
- ④ 北方圏交流等に必要な資料の作成、収集、頒布
- ⑤ その他、北方圏交流基金の目的の達成に必要な事業

・北海道・北海道市長会・北海道町村会・(社)北方圏センター

札幌市(130) ・北海道農業協同

組合中央会・(社)北海道舗装事業協会・(社)日本青年会議所北海道地区協議会・(株)北海道新聞社・(株)北海道拓殖銀行・(社)札幌銀行協会・(社)北海道医師会・北海道電力(株)

(株)北海道銀行・札幌テレビ放送(株)・雪印乳業(株)・(株)北洋銀行

・北海道漁業協同組合連合会・(株)岩澤総本部・(社)札幌建設業協会・東条猛猪・堂垣内尚弘・日動火災海上保険(株)北海道支店・(株)日立製作所北海道支社・(社)北海道信用金庫協会・(社)北海道信用組合協会・北海道百貨店協会・北海道木材協会

・松下電器産業(株)北海道支店・三菱電機(株)北海道支社・北海道信用漁協連合会・(財)北海道日口友好文化会館・北海道林業協会・(株)札幌銀行・北海道テレビ放送(株)・北海道文化放送(株)・北海道放送(株)

(株)秋山愛生館・旭硝子(株)札幌支店・伊藤組土建(株)・岩田建設(株)・高橋水産(株)・札幌通運(株)

・札幌プリンスホテル・(株)ホテル

アルファ・(株)田中組・(株)地崎工業・日本高圧コンクリート(株)・(株)日本交通公社北海道営業本部・日本甜菜製糖(株)札幌支店・(株)日本旅行北海道営業本部・北海道ガス(株)・(株)北海道漁業公社・北海銅機(株)・北海道国際文化協会・大同ほくさん(株)・丸彦渡辺建設(株)・三井建設(株)札幌支店・モード・グループのつどい実行委員会・(株)青木建設札幌支店・(株)浅沼組北海道支店・木田建業(株)北海道支店・共和コンクリート工業(株)・(株)鴻池組北海道支店・五洋建設(株)札幌支店・(学)札幌大学・佐藤工業(株)札幌支店・新太平洋建設(株)・(株)銭高組札幌支店・鉄建建設(株)札幌支店・東急建設(株)札幌支店・戸田建設(株)札幌支店・東邦生命保険(租)札幌支店・西松建設(株)札幌支店・フジタ(株)札幌支店・(学)北海学園・北海道朝日麦酒(株)・北海道森林組合連合会・北海道糖業(株)札幌支店・ドービー建設工業(株)・北海道建設業信用保証(株)・前田建設工業(株)北海道支店・(株)松村組札幌支店・(株)マイクロ・フィッシュ・勇建設(株)・(株)石山組・大木建設(株)

<p>札幌支店・(株)奥村組札幌支店・勝村建設(株)札幌支店・(株)ラルズ・(株)札幌そごう・札幌ヤクルト販売(株)・(株)竹中土木北海道支店・東洋建設(株)北海道支店・日邦建設工業(株)・北海道コンサルタンツ(株)・(株)北海道熱供給公社・北炭建設(株)・北土建設(株)・山崎建設工業(株)・(株)山田組・山田ブロック工業(株)・シャルマンサッポロ・大豊建設(株)北海道支店・浅野工事(株)北海道支店・安藤建設(株)札幌支店・株木建設(株)札幌支店・古久根建設(株)札幌支店・佐伯建設工業(株)北海道支店・札幌証券取引所・大都工業(株)札幌支店・太平工業(株)札幌支店・東亜建設工業(株)北海道支店・(株)日貿信札幌支店・日産建設(株)札幌支店・日特建設(株)札幌支店・国際環境開発研究所・(社)日本証券業協会北海道地区協会・菱中建設(株)・不動建設(株)北海道支店・(社)北海道水産会・北海道ビジネスオートメーション(株)・(株)北海タイムス社・(株)毎日新聞社北海道支社・三菱建設(株)札幌支店・東京証券(株)札幌支店・上光証券(株)・大日本土木(株)札幌支店・(社)北海道</p>	<p>市場協会・北海道信用保証協会・北海道漁業共済組合・北海道漁業信用基金協会・北海道指導漁協連合会・三菱マテリアル(株)札幌支店・北海道フェスティバルインアルパーク実行委員会  <b>石狩(9)</b>・郷土建工業(株)・北海道空港(株)・千歳交通(株)・(株)山三ふじや・恵庭建設(株)・(株)鼻和組・北成建設(株)・宮永建設(株)・石狩開発(株)  <b>渡島(7)</b>・(社)函館建設業協会・東日本フェリー(株)・(株)森川組・(株)工藤組・(株)高木組・(学)野又学園・(株)松本組  <b>檜山(1)</b>・(株)工藤組  <b>後志(2)</b>・小樽建設協会・北海道中央バス(株)  <b>空知(7)</b>・空知建設業協会・三菱石炭鉱業(株)南夕張鉱業所・日成建設(株)・(株)本堂建設工業・笹木産業(株)・(株)中山組・宮脇建設(株)  <b>上川(11)</b>・(社)旭川建設業協会・荒井建設(株)・(株)北野組・(株)廣野組・(株)明治組・(株)高砂台レストハウス・旭川地方卸売市場(株)・(株)旭ダンケ・(株)岸田組・新谷建設(株)・谷脇組</p>	<p><b>留萌(1)</b>・留萌建設協会  <b>宗谷(1)</b>・稚内建設協会  <b>網走(21)</b>・五十嵐建設(株)・水元建設(株)・山上建設(株)・島田建設(株)・聖太建設(株)・土屋工業(株)・(株)早水組・(株)丸田組・北栄建設産業(株)・(学)北海道桜井産業学園・北方建設産業(株)・(株)ヤマイチ水産・(株)河面組・(株)石井組・(株)辻組・松谷建設(株)・常呂漁業共同組合・(株)岸組・(株)渡辺組・(株)西村組・(株)藤共工業  <b>胆振(8)</b>・(社)室蘭建設協会・(株)日鐵セメント・(株)栗林商会・植崎産業(株)・(株)藤川建設・岩倉組(株)・(株)上田商会・門脇建設(株)  <b>日高(3)</b>・浦河建設協会・浦河石灰工業(株)・日高信用金庫  <b>十勝(3)</b>・北方圏農林博覧会・田中章一きみえ・帯広建設業協会  <b>釧路(1)</b>・釧路建設業協会</p>	<p>生命保険(相)・(株)日本製鋼所・三菱地所(株)・朝日生命保険(相)・鹿島建設(株)・京王建設帝都電鉄(株)・サッポロビール(株)・清水建設(株)・第一生命保険(相)・大成建設(株)・東海興業(株)・苫小牧東部開発(株)・ニッカウキスキー(株)・日本石油精製(株)・日本セメント(株)・日本水産(株)・日本団体生命保険(株)・農林中央金庫・山一證券(株)・協栄生命保険(株)・麒麟麦酒(株)・(株)熊谷組・大和證券(株)・千代田生命保険(相)・(株)トーモク・飛鳥建設(株)・東レ(株)・日興證券(株)・野村證券(株)・(株)ハザマ・北海製罐(株)・三井生命保険(相)・安田生命保険(相)・(株)極洋・日本国土開発(株)・富国生命保険(相)・三洋証券(株)・新日本証券(株)・勸角証券(株)・山種証券(株)・和光証券(株)・(株)西武百貨店・日本電気(株)中央研究所・(株)大林組・サントリー(株)・住友生命保険(相)・大同生命保険(相)・(株)竹中工務店・日本生命保険(相)・寶酒造(株)</p>
<p><b>道外(60)</b>・(社)日本損害保険協会  ・新日本製鐵(株)・新王子製紙(株)  ・全日本空輸(株)・ソニー(株)・マルハ(株)・(株)東芝・日本航空(株)・日本通運(株)・(株)ニチロ・明治</p>		<p>103 HOPPOKEN 2008 VOL.145</p>	



# 姉妹都市(等)提携・外国公館等設立状況

和歴	西暦	国際姉妹都市(等)提携	外国公館等設立・ほか
昭和27	1952		在札幌アメリカ合衆国領事館 (昭61・総領事館に)
34	1959	札幌(米・ポートランド)	
37	1962	旭川(米・ブルーミントシ・ノーマル)	
39	1964	倶知安(スイス・サンモリッツ)	
40	1965	釧路(加・バーナビー)	
41	1966	紋別(米・ニューポート)、積丹(米・シーサイド)、小樽(露・ナホトカ)	在札幌大韓民国総領事館
42	1967	旭川(露・ユジノサハリンスク)	在札幌ソビエト社会主義共和国連邦総領事館 在札幌インドネシア共和国名誉領事館
43	1968	帯広(米・スワード)	
44	1969	千歳(米・アンカレジ)、北見(米・エリザベス)、名寄(加・リンゼイ)、蘭越(露・ザールフェルデン)	
46	1971		◆北方圏調査会設立
47	1972	札幌(独・ミュンヘン)、稚内(露・ネベリスク)、留萌(露・ウラン・ウデ)、北見(露・ポロナイスク)、遠軽(伯・バストス)	在札幌オーストリア共和国名誉領事館 ◆道庁「北方圏調査室」設置
48	1973	稚内(フィリピン・バギオ)、美瑛(露・ザールバッハ)	在札幌フィンランド共和国名誉領事館
49	1974	釧路(露・ホルムスク)、根室(米・シトカ)	◆道「北方圏交流推進委員会」設置
50	1975		

51	1976		
52	1977	富良野(露・シユラートミンク)、江別(米・グレシヤム)、池田(加・ペンテイクトン)	
53	1978		◆北方圏センター設立 ◆北方圏交流基金設立
54	1980	◎北海道「加・アルバータ州姉妹提携 札幌(中・瀋陽)、上砂川(加・スパーウッド)、苫小牧(NZ・ネーピア)、小樽(NZ・ダニーデン)、佐呂間(米・バーマー)	在札幌中華人民共和国総領事館 在札幌ベルギー王国名誉領事館 在札幌ドイツ連邦共和国名誉領事館
56	1981	白老(加・ケネル)	
57	1982	夕張(中・撫順)、函館(加・ハリファックス)、厚岸(豪・クラレンス)	
58	1983	石狩(加・キャンベルリバー)	在札幌フィリピン共和国名誉領事館
59	1984	天塩(米・ホームー)、上川(加・ロッキーマウンテンハウス)	
60	1985	北見(韓・晋州)、岩見沢(米・ポテカロ)、鹿追(加・ストーニーブレイン)、上富良野(加・カムローズ)	
61	1986	◎北海道「中・黒竜江省友好交流提携 網走(加・ポータルバーニ)、陸別(加・ラコーム)	在札幌デンマーク王国名誉領事館
62	1987	当別(瑞・レクサンド)	
63	1988	余市(英・イースト・ダンバートンシャー)、静内(新ひだか)(米・レキシントン)	
平成元	1989	遠別(加・キャッスルガー)、東川(加・カンモア)、岩見沢(米・キャンピル)、大滝(伊達)(加・レイクカウチン)、芽室(米・トレシー)、旭川(韓・水原)	

10	1998	◎北海道―露・サハリン州姉妹友好提携 釧路(露・ペトロパブロフスクカムチヤッキー)、深川(加・アボツフオード)、上湧別(加・ホワイトコート)	
9	1997	函館(露・ユジノサハリンスク)、赤平(韓・三陟)、清里(NZ・モトエカ)、美幌(NZ・ケンブリッジ)、七飯(米・コンコード)	
8	1996	豊頃(加・サマーランド)、広尾(ノ・フログン)、枝幸(瑞・ソレフテオ)	在札幌ノルウェー王国名誉領事館 在札幌カナダ名誉領事館 ◇JICA札幌国際センター オープン
7	1995	旭川(中・哈爾濱)、奈井江(芬・ハウスヤルビ)、鷹栖(豪・ゴールドコースト)	在札幌コロンビア共和国名誉領事館
6	1994	根室(露・セベロクリリスク)、美深(加・アツシユクラフト)、沼田(加・ポートハーデイ)	在札幌チリ共和国名誉領事館
5	1993	芦別(加・シャールロットタウン)、滝川(米・スプリングフィールド)、壮瞥(芬・ケミヤルビ)、石狩(露・ワニ)	
4	1992	函館(露・ウラジオストク)、天塩(露・トマリ)、函館(豪・レイクマコーリ)	在札幌オーストラリア領事館
3	1991	紋別(露・コルサコフ)、紋別米・フエアバンクス、北見(加・バーヘツド)、稚内(露・コルサコフ)、名寄(露・ドリーンスク)、占冠(米・アスペン)、室蘭(米・ノックスビル)、本別(米・ミツチエル)、瀬棚(「せたな」(米・ハンフォード))	
2	1990	◎北海道―米・マサチューセッツ州姉妹提携 札幌(露・ノボシビルスク)、興部(加・ステットラー)、足寄(加・ウエスタキウイン)、猿払(露・オジョルスキー)	

20	2008	恵庭(NZ・ティマル)	在旭川ラトビア共和国名誉領事館
19	2007		
18	2006		在札幌メキシコ合衆国名誉領事館
17	2005		在札幌ニュージーランド名誉領事館 在北海道札幌サハリン州代表部
16	2004		在札幌リトアニア共和国名誉領事館
15	2003		
14	2002	室蘭(中・日照)、登別(中・広州)	
13	2001	稚内(露・ユジノサハリンスク)、下川(加・ケノーラ)、函館(中・天津)	カナダ政府札幌通商事務所
12	2000	帯広(中・朝陽)、石狩(中・彭州)、湧別(NZ・セルウイン)	
11	1999	赤平(中・沼羅)、士別(豪・ゴールドバーン)	在札幌スペイン国名誉領事館
10		苫小牧(中・秦皇島)、遠軽(仏・モアラン・アン・モンターニュ)	

注1.. 国名の略(漢字等)の表記は、次のとおり。

米IIアメリカ、加IIカナダ、露IIロシア、奥IIオーストリア、伯IIブラジル、独IIドイツ、中II中国、NZIIニュージーランド、豪IIオーストラリア、英IIイギリス、韓II韓国、瑞IIスウェーデン、芬IIフィンランド、ノIIノルウェー

注2.. 北海道の姉妹提携市町村名は、提携時点による。

# あとがき

社団法人北方圏センターは今年4月、設立30周年を迎えました。

設立30周年を迎えるに当たって昨年（平成19年）7月、事務局内で北方圏センターの30周年にふさわしい事業は何か、どのような記念の事業を実施するかについて初めての検討会が行われました。その中で、イベント、式典、表彰、そして、北方圏センターのこれまでの活動を記載した「記録集」の作成の4つの事業を実施することになり、事務局内にそれぞれ実施を担当する「班」が設けられ、企画の検討が重ねられました。

記念行事は、記念の年である平成20年の秋に実施をすることにしましたが、この「記録集」作成には、記事の素材・資料の収集、原稿記述、そして印刷・製本まで、時間を要することから、19年の秋から準備に入ることになりました。

どのような体裁で何ページにするか、何部発行するか、何よりも予算をどうする

か、など様々な検討の結果、季刊誌『Hoppoken』の「特別号」として製作することになり、北方圏センター30年の歩みを記した公式の『記録集』として、編集作業に入りました。

記事の素材は、昭和47（1972）年秋から発行されている季刊誌のバックナンバー144冊、昭和56（1981）年から発行の「年報」のバックナンバー27冊、そのほか単行本、事業報告書。まさに膨大な資料の中から、北方圏交流の推進や国際協力など、北海道の国際化に大きな役割を果たした事業を選択して記述することにしました。誌面の都合で掲載できなかった事業の方が断然多いのが残念でなりません。

この30年間、北方圏センターにご理解とご支援をお寄せ下さった皆様に感謝します。そして、「北方圏センター設立30周年記念『記録集』」をお届けします。

（設立30周年記念『記録集』班）

**Hoppoken** 特別号  
北方圏

第145号  
（特別頒布）

## 設立30周年記念 「記録集」

会員無料配布

二〇〇八年十月二十七日発行（年4回・季刊）  
発行所 札幌市中央区北三西七（道庁別館）  
（社）北方圏センター ☎21-7840  
発行者 笠田 能央  
制作（株）電通北海道  
印刷 山藤三陽印刷株式会社  
購読希望の方は郵便振替で。  
一年二、一〇〇円（送別別）  
郵便振替口座 〇二七八〇二二二四二二一

## 会員募集

お知り合いに入会をお誘い下さい

北方圏センター（会長・南山英雄）は、北国にふさわしい北海道の生活、文化、産業を育てあげるべく、会員の会費で運営されています。

- 法人及び団体の年会費 1口1万円
- 個人 人の年会費 1口5千円

ご連絡いただければ、申込書用紙等をお送りいたします。ご入会は、電話でもお受けいたします。

### 北方圏センターへの入会は……

北方圏センターの趣旨や活動に賛同される方は、どなたでも会員になれます。（会員の特典）

シンボルマークの会員証とバッジ、季刊誌「Hoppoken」（新しい情報）、年報、資料冊子等の無料配布。ホームページの特別検索利用。北方圏案内パンフレット類の贈呈。外国事情、図書資料の利用。調査報告書等出版物の特価頒布。懇談会、セミナー、外国人との交流、視察旅行等参加ご案内。視察訪問先等の情報提供など。

何よりも北国の暮らしや産業を豊かにする活動に参加し、ともに育てあげていこうというお気持ちでのご入会をお待ちしています。

社団法人 **北方圏センター**  
ホームページ <http://www.nrc.or.jp>

☎060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目（道庁別館）  
☎(011)221-7840 FAX(011)221-7845  
E-mail [gjpn@nrc.or.jp](mailto:gjpn@nrc.or.jp)（総務部）



楽しい朝刊、ください。



青山 夕香 / 青山 千景

## ニュータイプの朝刊に生まれ変わりました。

※北海道支社版

毎日新聞の朝刊(北海道支社版)が、時代に合った新しいスタイルに生まれ変わりました。朝夕刊を統合し、内容を充実。これまで夕刊で人気の特集記事やクイズ、小説をとり入れてパワーアップ。ページ数も増えて、地元紙面が充実し、さらにインターネットのニュースサイト「毎日jp」とも緊密に連携。「ページをめくるたびにワクワクする」、「毎朝、新聞が楽しみで早起きする」。そんな新しい毎日新聞にご期待ください。

朝夕刊を統合し、内容を充実。購読料はグンとお得な3,007円。(税込)

購読のお申し込みは、☎0120-468-012 または、毎日jp | <http://mainichi.jp/>



新毎日  
新聞

北洋銀行は  
がんばっているあなたを  
応援します。

